

iVMS-5200 プロフェッショナル Web クライアント

目次

免責事項.....	7
概要.....	9
この文書について.....	9
iVMS-5200 プロフェッショナルの概要	9
管理者権限.....	11
はじめに.....	13
インストールおよびアンインストール.....	15
インストールおよびアンインストール.....	15
サーバモジュールのインストール.....	15
サーバモジュールのアンインストール.....	25
クライアントのインストールとアンインストール.....	27
CMS のアクティベート	31
CMS のアクティベート	31
オンラインアクティベーション.....	32
オフラインアクティベーション.....	35
iVMS-5200 プロにアクセスする	39
Web クライアントを開いてログインする	39
ホームページイントロダクション.....	42
クイック スタート.....	43
エンコーディング デバイスの追加.....	44
録画スケジュールの設定.....	44
イベント設定.....	44

メンテナンス.....	44
データベース バックアップの設定.....	44
データベースのリストア.....	45
ログ ファイルのダウンロード.....	46
リソース管理.....	49
リソース管理.....	49
エンコーディング デバイスの追加.....	49
エンコーディング デバイスの追加.....	49
パスワードの作成.....	50
オンライン デバイスの追加.....	52
IP アドレスまたはドメイン名によるデバイスの追加	56
IP セグメントによるデバイスの追加	58
ポート セグメントによるデバイスの追加.....	59
HiDDNS によるデバイスの追加.....	61
デコーディング デバイスの追加.....	62
デコーディング デバイスの追加.....	62
オンライン デバイスの追加.....	63
IP アドレスによるデバイスの追加	64
スマート検知サーバの追加.....	65
セントラル ストレージ サーバの追加.....	66
CVR N+1 設定	69
ストリーム メディア サーバの追加.....	70
モバイル端末の追加.....	72
キーボード サーバの編集.....	73

エリア管理.....	74
機能モジュールの追加.....	79
録画スケジュール設定.....	81
録画スケジュール設定.....	81
カメラの録画スケジュール設定.....	81
録画スケジュール テンプレートの設定.....	85
イベントおよびアラーム設定.....	87
イベントおよびアラーム設定.....	87
カメラ イベント アラームの設定.....	88
ライン横断検知の設定.....	91
侵入検知の設定.....	94
POS 端末アラーム リンクの設定	97
アラーム入力リンクの設定.....	100
デバイス異常リンクの設定.....	104
サーバ異常リンクの設定.....	106
カスタム イベント アラームの設定.....	109
メール設定.....	113
警戒スケジュール テンプレートの設定.....	116
論理アラームの設定.....	119
役割およびユーザ管理.....	123
役割およびユーザ管理.....	123
ロール管理.....	123
ユーザ管理.....	125
基本モジュールのシステム設定.....	129

基本モジュールのシステム設定.....	129
IP アドレス設定	129
NTP 設定	130
アクティブ ディレクトリ設定.....	131
ビデオ管理用のシステム設定.....	133
ビデオ管理用のシステム設定.....	133
ログ設定.....	133
POS データ設定	134
FTP 設定	135
カメラビューアー.....	137
カメラビューアー.....	137
ライブビュー.....	137
再生.....	144
ローカル設定.....	149
付録.....	151
重要なポート.....	151
FAQ.....	152
ストレージ サーバにストレージ スペースを割り当てるには.....	153
索引.....	155

免責事項

ユーザマニュアル

COPYRIGHT ©2016 Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd.

無断複写転載等を禁ず。

文章、画像、図表を含むすべての情報は、Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. またはその子会社（以下、「Hikvision」とする）の所有するものとします。本ユーザマニュアル（以下、「本マニュアル」とする）は、Hikvision の事前の書面による許可なく、部分的または全体的にかかわらず再生産、変更、翻訳または配布できないものとします。特に規定されていない限り、Hikvision は明示的にせよ黙示的にせよ本マニュアルに関して一切の補償、保証または表明を行わないものとします。

本マニュアルについて

このマニュアルは iVMS-5200 プロフェッショナル Web クライアント向けです。

本マニュアルには製品の使用および管理についての指示が含まれています。ここに記載されている写真、表、画像およびその他すべての情報は説明だけを目的としています。本マニュアルに含まれる情報は、ファームウェア更新やその他の理由で通知なく変更されるものとします。当社ウェブサイトで最新版を参照してください（<http://overseas.hikvision.com/en/>）。

専門の技術者の指導の下で本ユーザマニュアルをご利用ください。

商標に関する確認

HIKVISION およびその他 Hikvision の商標およびロゴは、さまざまな裁判管轄地域においても Hikvision の所有物です。以下に示されたその他の商標およびロゴは、各権利保有者の所有物です。

法的免責事項

適用法により許容される範囲内で、記載の製品とそのハードウェア、ソフトウェアおよびファームウェアは、あらゆる誤謬やエラーを含め、そのままの形で提供されるものとし、HIKVISION では明示黙示を問わず一切の保証（商品性、十分な品質、特定の目的の適合性および第三者の権利非侵害を含むがそれだけに限定されない）を行いません。HIKVISION およびその取締役、役員、従業員または代理人は、本製品の利用に関連する事業利益の損失や事業妨害、データや文書の損失に関する損害を含む特別、必然、偶発または間接的な損害に対して、たとえ HIKVISION がそれらについて通知を受けていたとしても、一切の責任を負いません。

インターネットアクセスを伴う製品に関して、当該製品の一切の使用はお客様自身の責任によるものとします。HIKVISIONは、異常操作、プライバシー漏えいまたはサイバー攻撃、ハッキング、ウィルス検査やその他のセキュリティリスクから生じるその他の損害に対して一切の責任を負わないものとします。ただし、必要に応じてHIKVISIONは適宜技術サポートを提供します。

監視に関する法律は裁判管轄地域によって異なります。本製品のご使用前に、使用地の裁判管轄地域におけるすべての関連法を確認して、必ず適用法に準拠するように利用してください。本製品が不正な目的で使用された場合に、HIKVISIONは責任を負わないものとします。

本マニュアルと適用法における矛盾がある場合については、後者が優先されます。

概要

この文書について

このユーザマニュアルは iVMS-5200 プロフェッショナル(以降、iVMS-5200 プロと略記)の管理者のためのものです。この文書は監視システムの設置と設定について説明します。iVMS-5200 プロの設置、CMS のアクティベート、iVMS-5200 プロへのアクセスおよび提供される Web クライアントを通じた監視タスクの設定などを行うには、このマニュアルにしたがってください。iVMS-5200 うろの適切な利用と安定性を保証するために、設置および操作の前には以下の内容を参照し、マニュアルを注意深く確認してください。

iVMS-5200 プロフェッショナルの概要

iVMS-5200 プロは HIKVISION 社がビデオ監視システムの中央管理、柔軟な機能性、スケーラビリティ、高信頼性および強力な機能を目指して開発したものです。複数の監視システムを統合することで、iVMS-5200 プロは一元的管理、情報共有、簡便な接続および複数のサービスの連携を可能にします。管理、ライブ ビュー、録画ファイルの保存と再生、VCA 検索、アラーム連携などのためにデバイスを追加することが可能です。

iVMS-5200 プロのセットには以下のモジュールが含まれます:

注意:

- モジュールの一部は対応するライセンスを購入した場合にのみ利用可能です。詳細情報については当社の営業窓口にお問い合わせください。
- モジュールは必要に応じてインストール可能です。システム インストール手順の詳細については [インストールおよびアンインストール](#) をご参照ください。

モジュール

CMS (中央管理サーバ): 詳細な設定については以下を参照してください:
[サーバ モジュールのインストール](#)。

概要

- クライアントおよびサーバとの接続のために、統合認証サービスを提供します。
- ユーザ、ロール、権限、監視デバイス、アラーム デバイスおよびサーバの中央一元管理を実現します。
- 監視および管理モジュールとサブシステム用の設定インターフェイスを提供します。

- ログ管理と統計機能を提供します。

RSM(リモート サイト マネージャ)
(オプション): 詳細な設定については
以下を参照してください: [サーバモ
ジュールのインストール](#)。

CMS およびそれらのアラームと情
報の中央一元管理を行います。

SMS (ストリーム メディア サーバ)
(オプション): 詳細な設定については
以下を参照してください: [サーバモ
ジュールのインストール](#)。

- ライブ ビューの音声および
ビデオ データを転送、配布
します。
- モバイル クライアント経由
のライブ ビュー機能を提供
します。
- 音声およびビデオ データ ス
トリームを SMS(ストリーム
メディア サーバ)経由、または
接続されたエンコーディ
ング デバイスから直接取得
します。
- インデックス情報を抽出
し、音声およびビデオ デー
タ をデバイスに取り込み、
多数のビデオ ファイルを一
元管理できるようにしま
す。
- 効率的かつ安全に、簡便な
画像用ストレージサービス
を 1 秒あたり 10 画像のスト
レージ効率で提供します。

ストレージ サーバ (オプション): 詳
細な設定については以下を参照して
ください: [サーバモジュールのイ
ンストール](#) と [ストレージ サーバ
にストレージ スペースを割り当
てるには](#)。

スマート検知サーバ (オプション): 詳
細な設定については以下を参照して
ください: [サーバモジュールのイ
ンストール](#)。

スマート検知サーバに追加された
ネットワーク カメラにライン横断
検知および侵入検知機能を提供し
ます。

以下の表は iVMS-5200 プロによるアクセスまたは管理が可能なクライアント
のリストです。

クライアント	概要
コントロール クライアント: 詳細な設定については以下を参 照してください: クライアント	iVMS-5200 コントロール クライアント はリアルタイム ビュー、PTZ 操作、ビ デオ再生とダウンロード、アラーム受 信、ログ照会など、複数の操作機能を提

のインストールとアンインストール。

Web クライアント:

Web クライアントの動作環境の詳細については以下を参照してください: [Web クライアントを開いてログインする。](#)

ビデオ ウォール クライアントソフトウェア:

詳細な設定については以下を参照してください: [クライアントのインストールとアンインストール。](#) 設定の詳細については *iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェアのユーザ マニュアル*を参照してください。

モバイル クライアント:

インストールと設定の詳細については *iVMS-5200 モバイル クライアントのユーザ マニュアル*を参照してください。

提供するクライアント/サーバソフトウェアです。

iVMS-5200 Web クライアントは iVMS-5200 プロの管理用のブラウザ/サーバクライアントです。デバイス管理、録画スケジュール設定、イベント設定、ユーザ管理およびその他の機能を iVMS-5200 プロで接続されたデバイスの管理用に提供します。

iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアントソフトウェアは iVMS-5200 プロ用のビデオ ウォール設定用にデザインされたソフトウェアです。シーンおよびプランコントロール、ビデオ再生、バーチャル LED および背景画像の設定、スクリーン制御など、複数の操作機能を提供します。

iVMS-5200 モバイル クライアントは iVMS-5200 Pro に対し、モバイル デバイスを用いて Wi-Fi、2G、3G および 4G ネットワーク経由でアクセスできるようにするモバイル クライアントソフトウェアで、ライブ ビュー、リモート再生、PTZ 操作などの機能を iVMS-5200 プロに接続されたデバイスに提供します。

管理者権限

サーバモジュール、クライアントおよびソフトウェアをインストールして実行する場合、これらのコンポーネントを実行する PC またはサーバの管理者権限を持っていることが重要です。さもなければ iVMS-5200 プロをインストールして設定することはできません。

権限について確認が必要な場合、IT システム管理者に問い合わせてください。

はじめに

以下の内容は iVMS-5200 プロの運用の設定において一般的に必要なとなるタスクについて解説しています。

注意: 以下の内容はあなたの組織での実際の必要性を必ずしもすべてカバーするものではありません。

- エンコーディング デバイスおよびその他のサーバの初期設定の確認
- iVMS-5200 プロの利用を開始する前に、使用されるデバイス(カメラ、DVR、ストレージサーバなど)が正しくインストールされており、ネットワークに接続されている等、メーカーが指定する通りに準備されていることを確認してください。これらの初期設定はデバイスを iVMS-5200 プロがネットワーク経由で接続するために必要です。
- iVMS-5200 プロのインストール
- 詳細なインストール手順については [インストールおよびアンインストール](#) を参照してください。
- Web クライアントを開く
- 以下を参照: [Web クライアントを開いてログインする](#)。
- ライセンスのアクティベート
- 以下を参照: [CMS のアクティベート](#)。
- デバイスの iVMS-5200 プロへの追加とエリアの設定
- iVMS-5200 プロはネットワーク上の対応するエンコーディング デバイス(カメラ、DVR 等)を迅速にスキャンし、システムに追加します。または必要な情報をマニュアルで入力することでデバイスを追加することもできます。デバイスの簡便な管理のためにはエリアにまとめる必要があります。以下を参照: [リソース管理](#)。
- 録画スケジュールの設定
- カメラの ビデオ ファイルは録画スケジュールに応じてストレージ デバイスに記録することができます。スケジュールは継続、アラーム トリガーまたはコマンド トリガーに任意に設定できます。以下を参照: [録画スケジュール設定](#)。
- イベントおよびアラームの設定
- カメラ異常、デバイス異常、サーバ異常およびアラーム入力は iVMS-5200 プロのリンク アクションをトリガーできます。例: 動体が検知された場合、音声警報を鳴らしたり、通知メールをあなたに送らせたりできます。以下を参照: [イベントおよびアラーム設定](#)。
- ユーザーの設定
- お使いの iVMS-5200 プロに対し、誰がどのようにアクセスできるかを指定してください。ユーザによる iVMS-5200 プロの操作を制限するた

めに異なる権限を設定できます。以下を参照: [ロール管理](#) と [ユーザ管理](#)。

インストールおよびアンインストール

インストールおよびアンインストール

お使いの iVMS-5200 プロ システムを構築するために 3 種類のインストールパッケージが用意されています。

- 基本インストールパッケージ(iVMS-5200_P_V3.3XXXX): システム構築のための必須モジュールを含んでいます。
- 言語インストールパッケージ(iVMS-5200_P_LanguageXXXX): インストール後、言語を切り替えることができます。
- スマート検知サーバインストールパッケージ(iVMS-5200_P_SMDXXXX): システムはインストール後、スマート機能を提供できます。

ここでは基本インストールパッケージのインストール手順を説明します。言語インストールパッケージおよびスマート検知サーバインストールパッケージについては以下のインストール指示にしたがってインストールすることができます。

HIKIVISION が提供する基本インストール パッケージには iVMS-5200 中央管理サーバ、iVMS-5200 リモート サイト管理、iVMS-5200 ストレージサーバ、iVMS-5200 ストリーム メディア サーバおよび iVMS-5200 コントロール クライアントと iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェアを含むサーバモジュール 4 つ、クライアント 2 つが含まれています。サーバモジュールは必要に応じ、異なるサーバまたは PC に個別に、あるいは同一のサーバまたは PC にインストールすることができます。

サーバモジュールのインストール

動作環境

- **オペレーティング システム:** Microsoft Windows 7/Windows 8/Windows 8.1/Windows 10/Windows Server 2008 R2/Windows Server 2012 (64 ビット)
- **プロセッサ:** E5-2620 シリーズ プロセッサ、6 コア(2.0 Ghz)
- **メモリ:** 8GB
- **HDD:** ストレージ容量 600GB のエンタープライズ レベル SATA ディスク
- **ネットワーク コントローラ:** RJ45 ギガビット自己適応型イーサネットインターフェイス

次の手順を実行して、サーバモジュールをインストールします。

方法:

1. プログラム ファイル  (iVMS-5200_P_V3.3XXXXX)をダブルクリックして、InstallShield ウィザードの[ようこそ]画面に入ります。**[次へ]**をクリックし、InstallShield ウィザードを開始します。

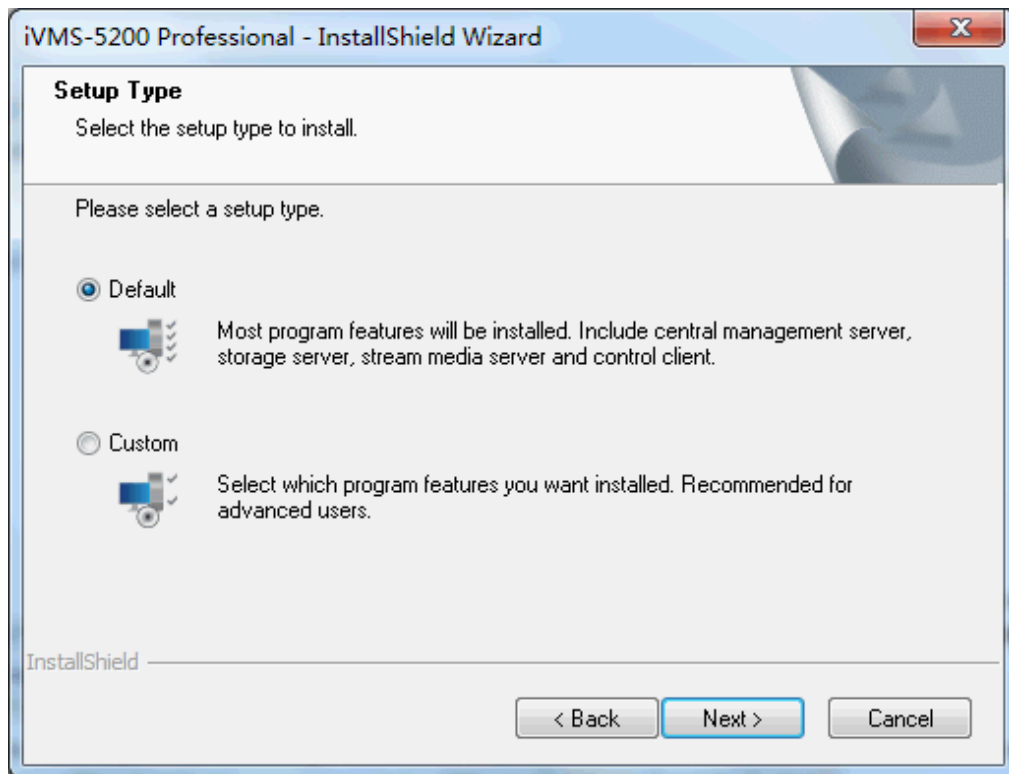


2. ライセンス契約を読みます。ライセンス契約を印刷したい場合は、**[印刷]**をクリックします。

ライセンス契約の条項に同意する場合は**[はい]**をクリックし、ライセンス契約条項を受諾して継続します。

同意されない場合、**[いいえ]**をクリックしてインストールをキャンセルします。

3. 次の画面でインストールするのセットアップ種別を選択するよう求められます。



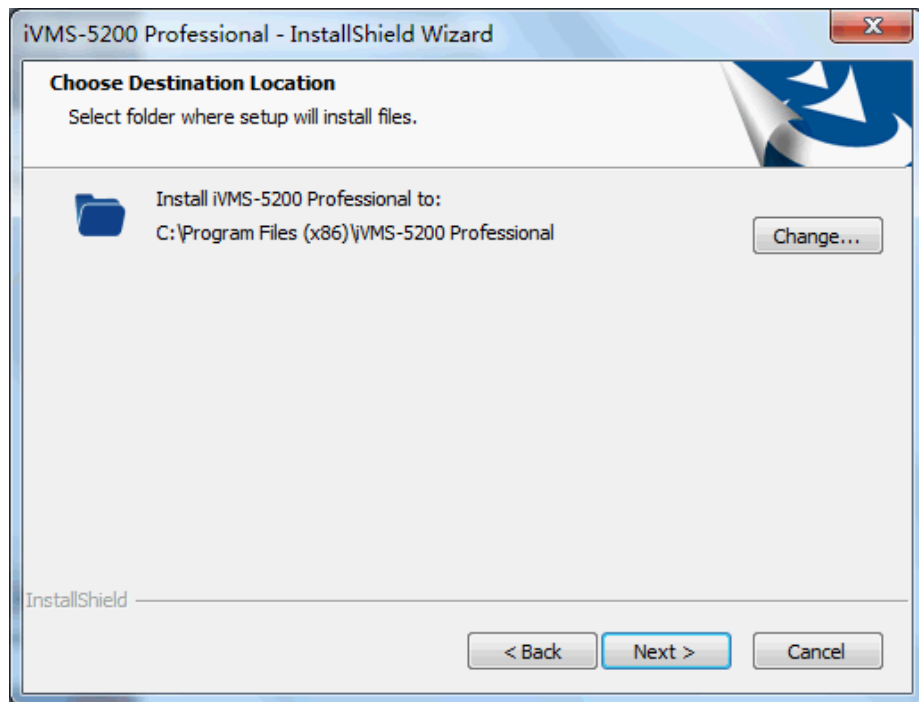
- **デフォルトの場合:** すべてのサーバ モジュール(ストレージ サーバは除く)とクライアントがインストールされます。

注意: デフォルト ディレクトリは *C:\Program Files\iVMS-5200 Professional* (32 ビット OS の場合)または *C:\Program Files (x86)\iVMS-5200 Professional* (64 ビット OS の場合)です。

[次へ]ボタンをクリックして続けます。

注意: 現在のハードウェア サーバにシステムをインストールし、データベースを残したままシステムのアンインストールを行っていた場合、データベースと同じディレクトリにシステムをインストールするかどうかを確認するダイアログがポップアップします。新しい保存パスを指定した場合、データベースは正しく動作しません。

2. I. 必要に応じて[変更]をクリックして適切なディレクトリを選択し、モジュールをインストールします。[次へ]ボタンをクリックして続けます。



- II. インストール事前情報を読み、動作モードを設定して[インストール]をクリックしてインストールを開始します。

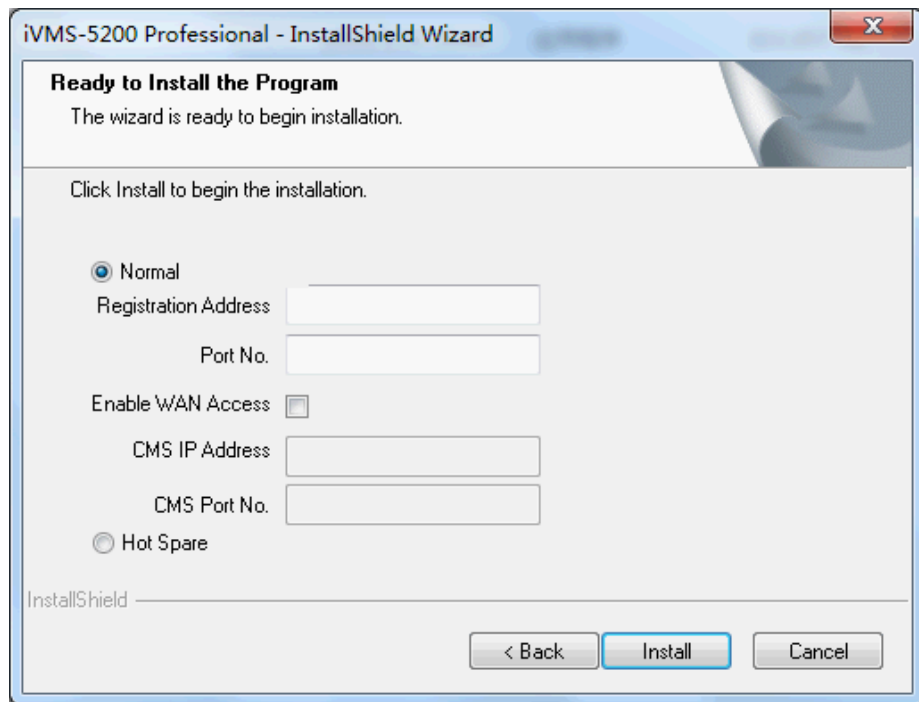
注意: システムの構築については2つの動作モードが選択可能です。

- **ノーマル:** 自動登録のために、CMSのIPアドレスおよびポート番号を入力します。
- **注意:**
 - CMSのインストールを選択した場合、サービスモジュール(SMS、ストレージサーバ)を該当CMSに登録する必要があり、現在のPCまたはハードウェアサーバのIPアドレスを設定しなければなりません。127.0.0.1は指定できません。
 - インストールしたCMSにサービスモジュール(SMS、ストレージサーバ)を追加しなければならない場合、CMSのLAN IPアドレスを確認してください。CMSのLAN IPアドレスを確認するには以下を参照してください: [IPアドレス設定](#)。

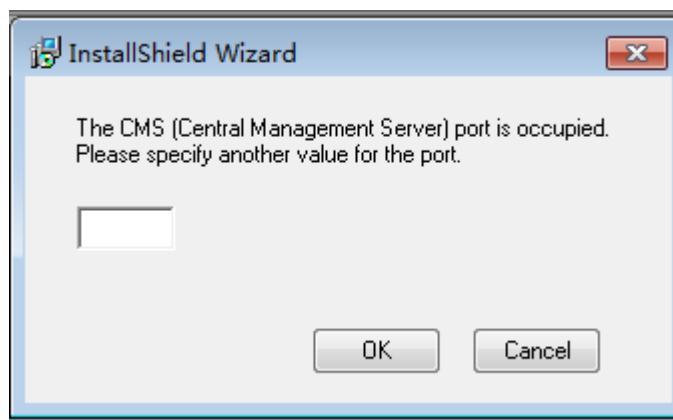
システムにWAN経由でアクセスしなければならない場合、[WANアクセスを有効化]チェックボックスをチェックし、CMSの静的IPアドレスとポート番号を入力してください。

注意: 入力されたWAN IPアドレスは自動的にCMSに設定されます。詳細については以下を参照してください: [IPアドレス設定](#)。

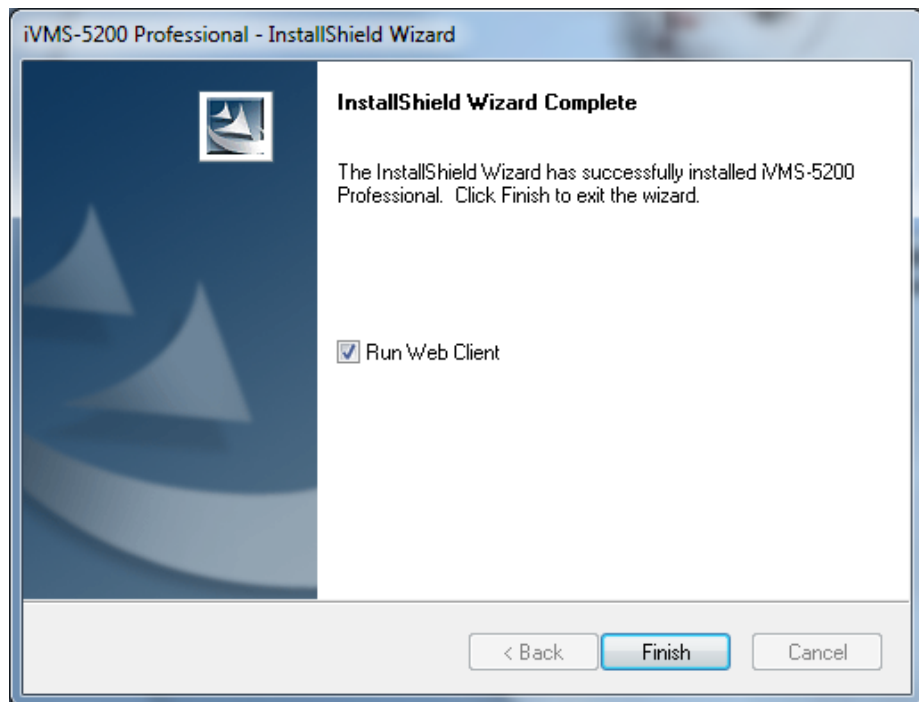
- **ホットスペア:** ホストCMSとスペアCMSから構成される1+1ホットスペアシステムを構築することができます。こうすることで、ホストCMSに障害が起きた場合でもスペアCMSが動作モードに切り替わり、システムの信頼性を向上させることができます。ホットスペアシステム構築の詳細な設定については当社のテクニカルサポートエンジニアにお問い合わせください。



- III. インストールの進行状況を示すパネルが表示されます。
注意: CMS をインストールする場合、お使いの PC またはサーバのポート 80 番が CMS 実行時に利用されます。既に専有されている場合、以下のダイアログボックスがポップアップします。ポートを他の利用可能な値に変更してください。



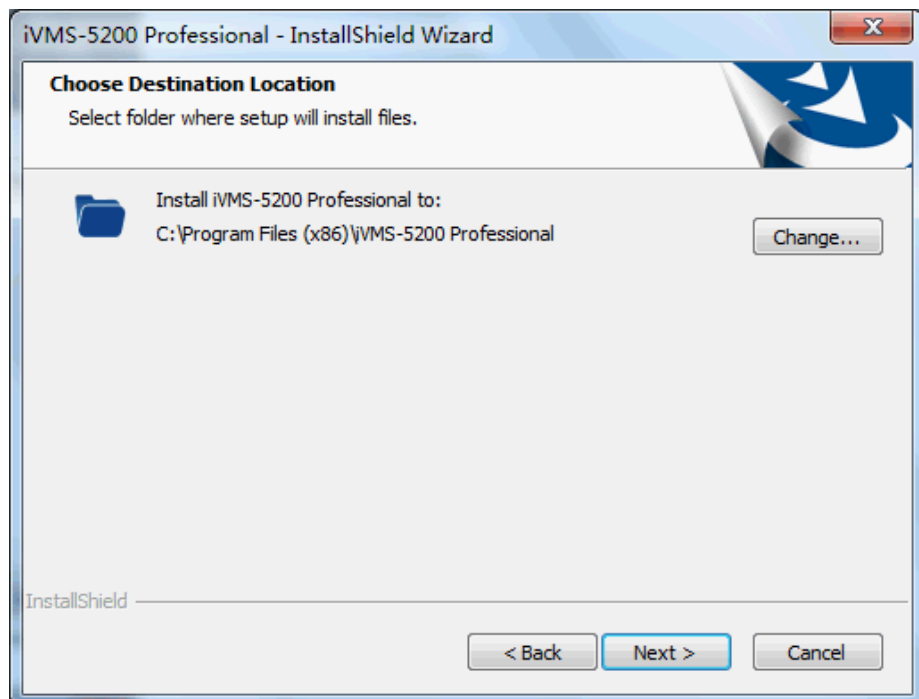
- IV. インストール事後情報を読み、**[完了]**をクリックしてインストールを完了します。
注意: **[Web クライアントの実行]**チェックボックスをチェックし、Web クライアントのログイン インターフェイスを Web ブラウザ経由で自動的に起動することができます。



- **カスタムの場合:** インストール ディレクトリとインストールするモジュールを任意に選択することができます。

[次へ]ボタンをクリックして続きます。

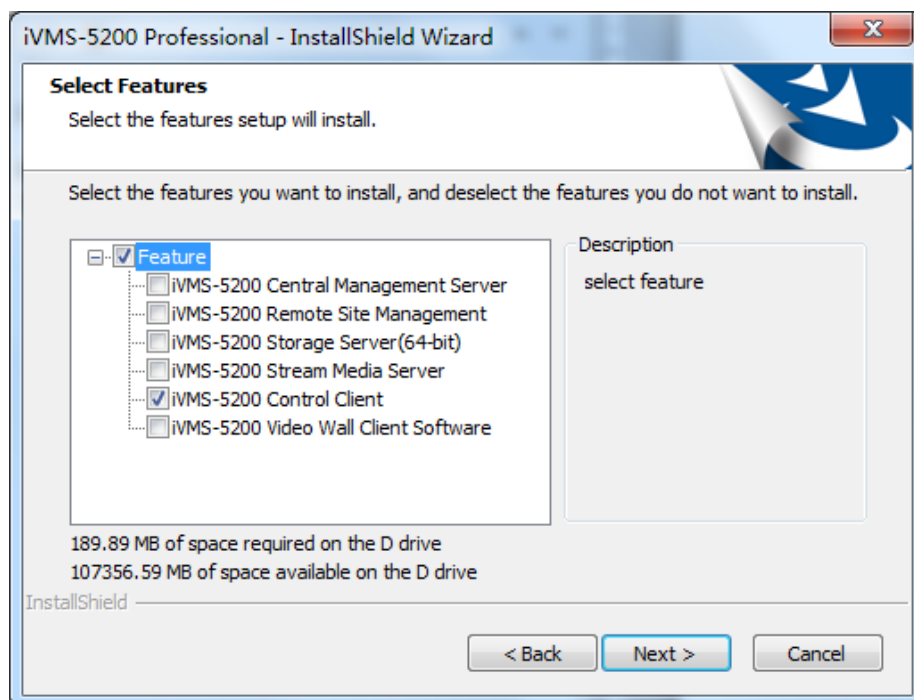
- I. 必要に応じて[変更]をクリックして適切なディレクトリを選択し、モジュールをインストールします。[次へ]ボタンをクリックして続きます。



- II. インストールしたいモジュールを選択し、[次へ]をクリックしてインストールを開始します。このようにして、サーバモジュールを他の PC またはサーバに任意にインストールすることができます。

注意:

- 監視システムを構築するためには、iVMS-5200 CMS がお使いの PC またはサーバのいずれかにインストールされていなければなりません。その他のモジュールについては、実際の必要性に応じてインストールすることができます。モジュールの説明については、[iVMS-5200 プロフェッショナルの概要](#) を参照してください。
- サーバ モジュール(iVMS-5200 中央管理サーバ、iVMS-5200 ストレージサーバ、iVMS-5200 ストリーム メディア サーバ)を選択した場合、iVMS-5200 S サービス マネージャが自動的にインストールされます。
- 機能モジュール(モバイル監視、ANPR)と iVMS-5200 プロを同じ PC をまたはハードウェア サーバにインストールする必要がある場合、機能モジュールの CMS と RSM(必要な場合)および iVMS-5200 プロの CMS はその PC またはハードウェア サーバにインストールされる必要があります。またストレージサーバとストリーム メディア サーバ モジュールは機能モジュールまたは iVMS-5200 プロごとに個別にインストールする必要があります。たとえば、iVMS-5200 プロのストレージサーバとストリーム メディア サーバをインストールした場合、同じ PC に機能モジュールのストレージサーバおよびストリーム メディア サーバをインストールするよう選択することはできません。



- III. インストール事前情報を読み、動作モードを設定して[インストール]をクリックしてインストールを開始します。

注意: システムの構築については 2 つの動作モードが選択可能です。

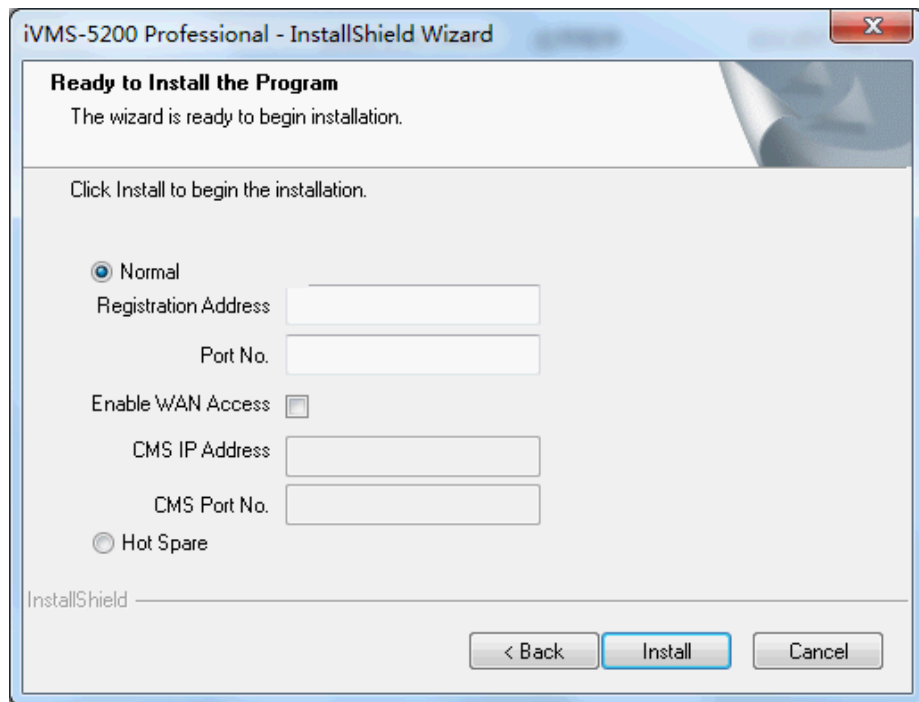
- **CMS または RSM のインストールを選択した場合:**
- **ノーマル:** 自動登録のために、CMS の IP アドレスおよびポート番号を入力します。
- **注意:**
 - CMS のインストールを選択した場合、サービス モジュール(SMS、ストレージサーバ)を該当 CMS に登録する必要があるため、現在の PC またはハードウェア サーバの IP アドレスを設定しなければなりません。127.0.0.1 は指定できません。
 - インストールした CMS にサービス モジュール(SMS、ストレージサーバ)を追加しなければならない場合、CMS の LAN IP アドレス

を確認してください。CMS の LAN Ip アドレスを確認するには以下を参照してください: [IP アドレス設定](#)。

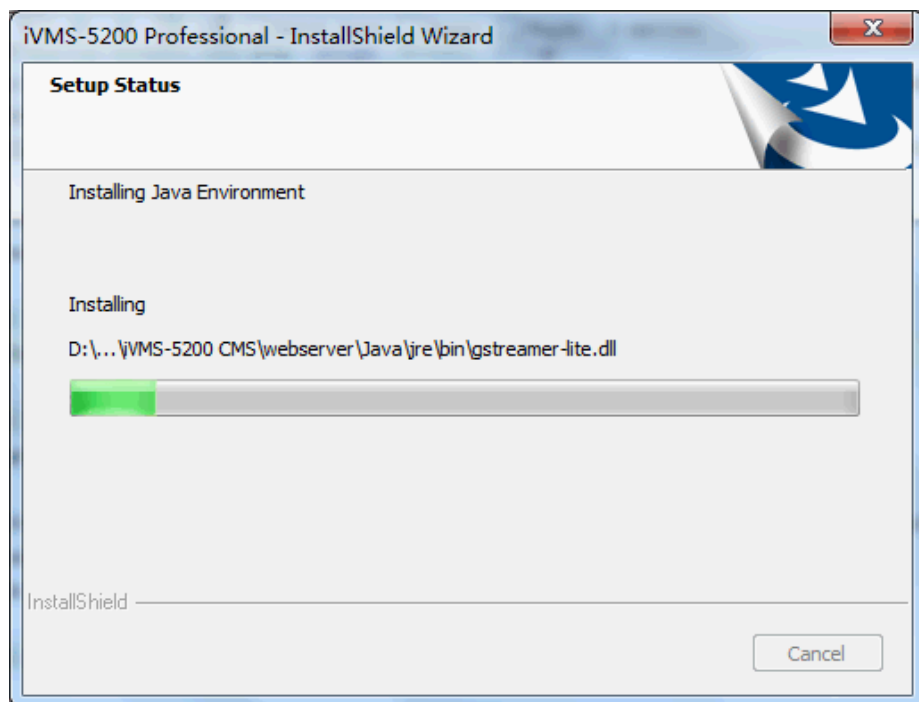
システムに WAN 経由でアクセスしなければならない場合、[WAN アクセスを有効化]チェックボックスをチェックし、CMS の静的 IP アドレスとポート番号を入力してください。

注意: CMS のインストールを選択した場合、入力された WAN IP アドレスは自動的に CMS に設定されます。詳細については以下を参照してください: [IP アドレス設定](#)。

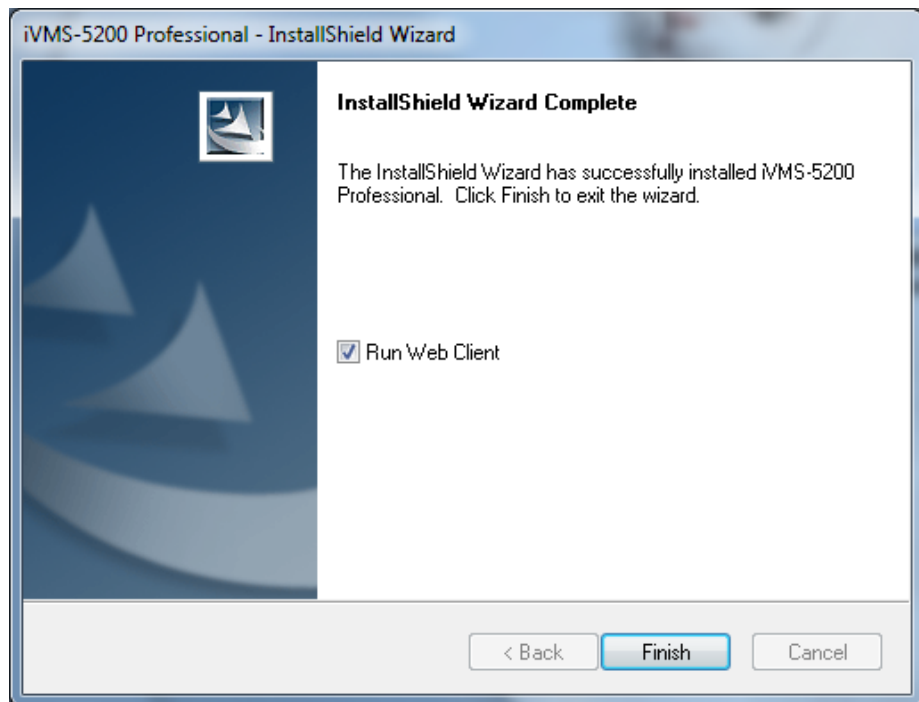
- **ホットスペア:** ホスト CMS とスペア CMS から構成される 1+1 ホットスペアシステムを構築することができます。こうすることで、ホスト CMS に障害が起きた場合でもスペア CMS が動作モードに切り替わり、システムの信頼性を向上させることができます。ホットスペアシステム構築の詳細な設定については当社のテクニカル サポート エンジニアにお問い合わせください。
- **CMS または RSM 以外のサーバ モジュールのインストールを選択した場合:**
- **ノーマル:** CMS の IP アドレスを入力します。
- **注意:**
 - CMS のインストールを選択した場合、サービス モジュール(SMS、ストレージ サーバ)を該当 CMS に登録する必要があり、現在の PC またはハードウェア サーバの IP アドレスを設定しなければなりません。127.0.0.1 は指定できません。
 - インストールした CMS にサービス モジュール(SMS、ストレージサーバ)を追加しなければならない場合、CMS の LAN IP アドレスを確認してください。CMS の LAN Ip アドレスを確認するには以下を参照してください: [IP アドレス設定](#)。
- **ホットスペア:** ホスト CMS とスペア CMS から構成される 1+1 ホットスペアシステムを構築することができます。こうすることで、ホスト CMS に障害が起きた場合でもスペア CMS が動作モードに切り替わり、システムの信頼性を向上させることができます。ホットスペアシステム構築の詳細な設定については当社のテクニカル サポート エンジニアにお問い合わせください。



- IV. インストールの進行状況を示すパネルが表示されます。



- V. インストール事後情報を読み、[完了]をクリックしてインストールを完了します。
注意: [Web クライアントの実行]チェックボックスをチェックし、Web クライアントのログイン インターフェイスを Web ブラウザ経由で自動的に起動することができます。Web ブラウザがポップアップし、Web クライアントのログイン画面が表示されます。お使いの Web ブラウザがログイン ページをブロックするように設定されている場合、Web ブラウザのプロンプト画面にしたいが、ページが適切に表示されるよう許可してください。



3. サーバモジュールが正しくインストールされると、サービスマネージャが自動的に起動します。
4. **注意:**
 - ホットスワップを動作モードにしている場合、サービスマネージャはインストールされません。
 - サービスマネージャは管理者権限で起動する必要があります。そうでない場合、サービスマネージャをいったん終了し、管理者として実行し直してください。権限について確認が必要な場合、ITシステム管理者に問い合わせてください。

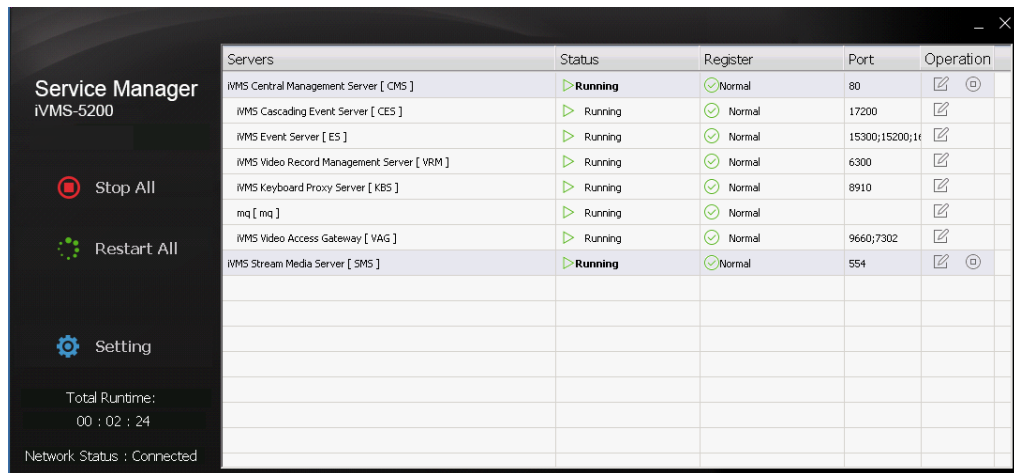
サービスマネージャは以下のように表示されます。表示される項目はインストール時に選択したサーバモジュールによって異なります。

 をクリックし、対応するサーバのポート番号を編集するか、 をクリックしてサーバを停止することができます。また項目を右クリックし、[ファイルロケーションを開く]をクリックしてサーバモジュールのインストールディレクトリを開くこともできます。

注意: サーバのポート番号がほかのサービスに占有されている場合、ポート番号は赤色で表示されます。サーバを適正に動作させるためには、ポート番号を他の数字に変更する必要があります。

[すべて停止]をクリックしてすべてのサーバを停止することもできます。[すべて再起動]をクリックするとすべてのサーバが再度起動されます。

[設定]をクリックし、CMSのIPアドレスとポートおよびログポートを編集することができます。



サーバモジュールのアンインストール

すべてのサーバモジュールのアンインストール

iVMS-5200 プロ(監視サーバソフトウェアと関連するインストール ファイル
およびコントロール クライアント)をお使いの PC またはサーバから完全にア
ンインストールする場合、以下の手順を実行してください:

注意: CMS がアクティベート済みである場合、ライセンスを他の CMS のアクティベートに利用できるようにするために、CMS を削除する前に、まず CMS をディアクティベートしてください。詳細な設定については以下を参照してください: [CMS のアクティベート](#)。

方法:

1. iVMS-5200 プロのすべてのモジュールをシャットダウンして iVMS-5200 サービス マネージャを終了してください。
注意: 以下の標準的なシステム モジュール削除の手順は、OS のバージョンに応じてやや異なる場合があります。
2. Windows の[スタート]メニューから[コントロール パネル]を選択します。
 - カテゴリ ビューを利用している場合、プログラム カテゴリから[プログラムのアンインストール]をクリックします。
 - スモール アイコンまたはラージ アイコン ビューを利用している場合、[プログラムと機能]を選択してください。
3. 現在インストールされているプログラムのリストから iVMS-5200 プロフェッショナルを右クリックします。
4. [アンインストール]を選択し、削除手順にしたがってください。

注意: CMS または RMS モジュールをアンインストールする場合、データベースを残すかどうか確認するダイアログがポップアップします。データベースを残すと選択した場合、リソースおよび設定データは保存され、このハードウェア サーバに後で iVMS-5200 プロをインストールする際に利用することができます。

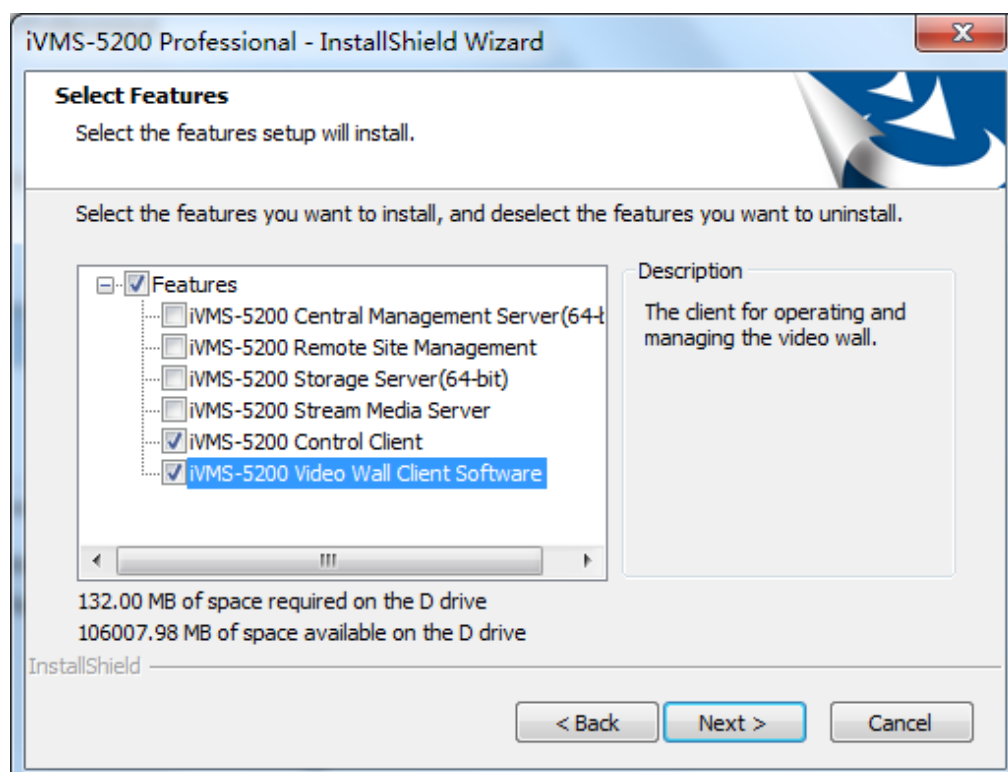
特定のサーバモジュールのアンインストール

iVMS-5200 プロの特定のモジュール(例: CMS、SMS またはコントロール クライアント)をお使いの PC またはサーバから削除する場合、以下の手順を実行してください:

注意: CMS がアクティベート済みである場合、ライセンスを他の CMS のアクティベートに利用できるようにするために、CMS を削除する前に、まずライセンスをディアクティベートしてください。詳細な設定については以下を参照してください: [CMS のアクティベート](#)。

方法:

1. iVMS-5200 プロのすべてのモジュールをシャットダウンして iVMS-5200 サービス マネージャを終了してください。
注意: 以下の標準的なシステム モジュール削除の手順は、OS のバージョンに応じてやや異なる場合があります。
2. Windows の[スタート]メニューから[コントロール パネル]を選択します。
 - カテゴリ ビューを利用している場合、プログラム カテゴリから[プログラムのアンインストール]をクリックします。
 - スモール アイコンまたはラージ アイコン ビューを利用している場合、[プログラムと機能]を選択してください。
3. 現在インストールされているプログラムのリストから iVMS-5200 プロフェッショナルを右クリックします。
4. [変更]を選択すると InstallShield のウィザードがポップアップします。
5. ラジオボタンを選択し、[次へ]をクリックして続けます。
 - **変更:** アンインストールするモジュール(複数可)のチェックボックスのチェックを外し、追加するモジュール(複数可)のチェックボックスをチェックします。
 - **削除:** インストールされたすべてのモジュールを削除できます。
 - **修復:** インストールされたすべてのモジュールを再インストールできます。



注意: CMS または RMS モジュールをアンインストールする場合、データベースを残すかどうか確認するダイアログがポップアップします。データベースを残すと選択した場合、リソースおよび設定データは保存され、このハードウェア サーバに後で iVMS-5200 プロをインストールする際に利用することができます。

クライアントのインストールとアンインストール

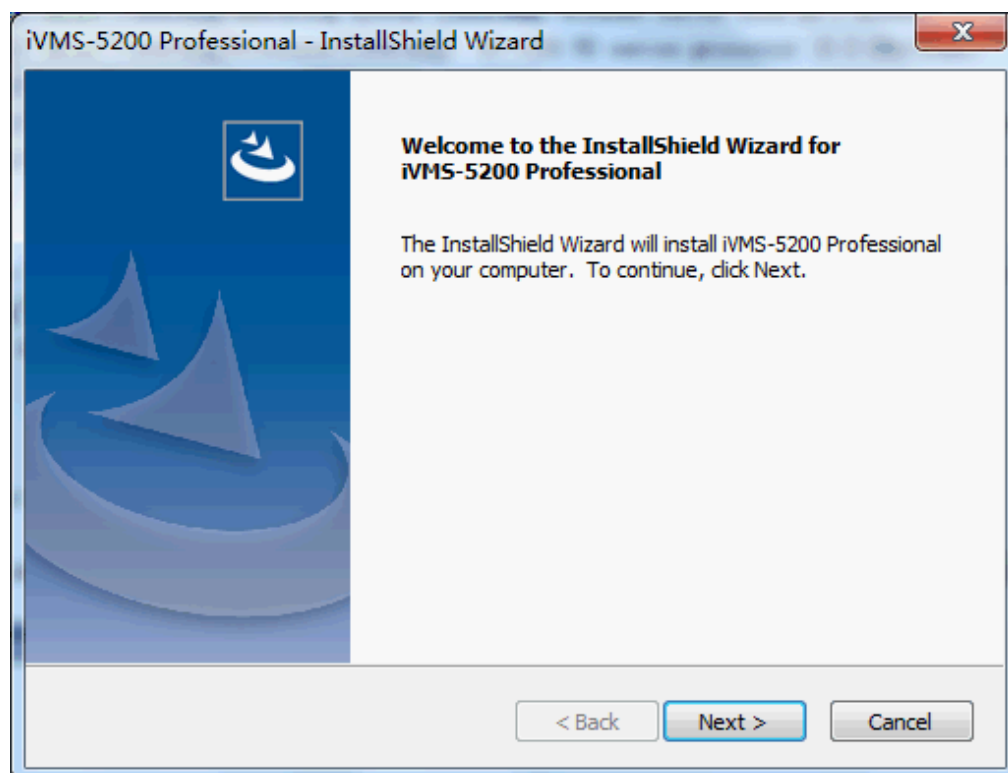
動作環境

- **オペレーティング システム:** Microsoft Windows 7/Windows 8/Windows 8.1/Windows Server 2008 R2/Windows Server 2012 (32/64-bit), Windows 10 (64-bit)
- **CPU:** Intel Core i3-530 またはそれ以上
- **メモリ:** 4GB またはそれ以上
- **ビデオカード:** Geforce GTX 240 またはそれ以上

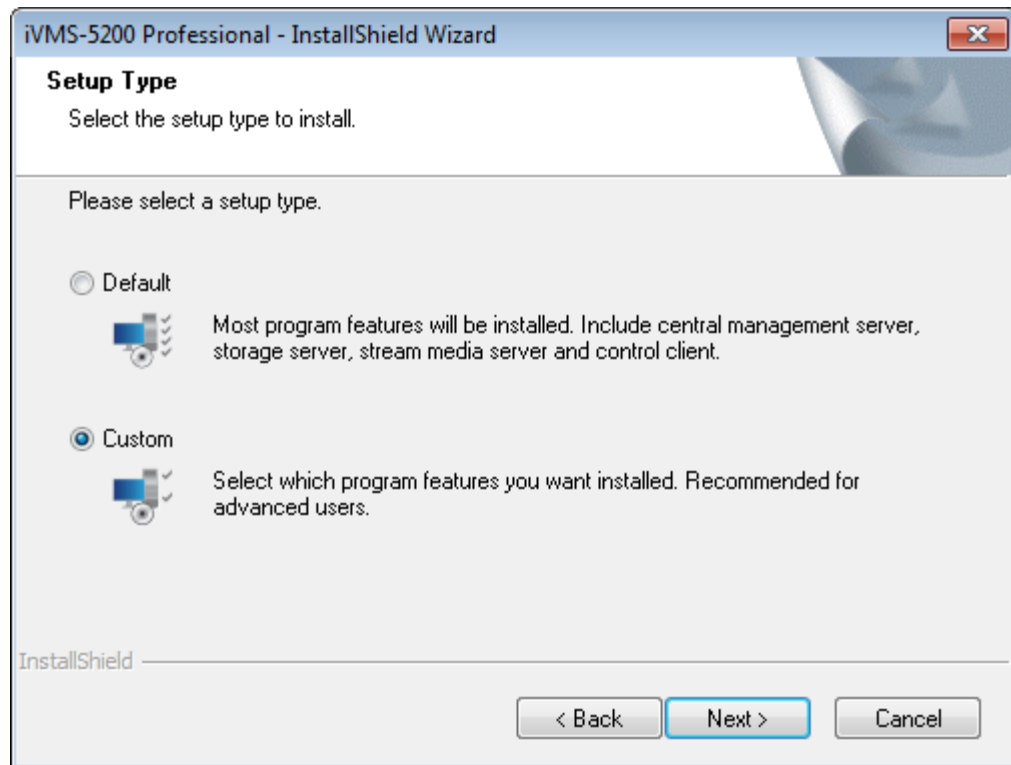
以下の手順を実行して iVMS-5200 プロ クライアント(コントロール クライアントまたはビデオ ウォール クライアント)をインストールしてください。

方法:

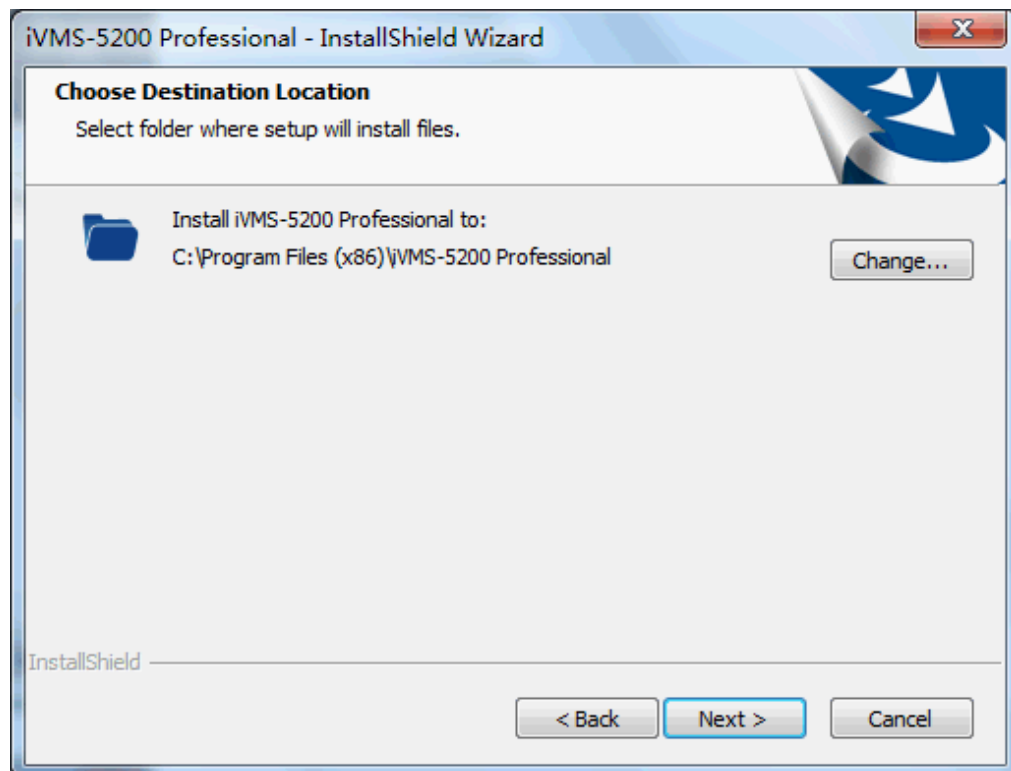
1. プログラム ファイル  をダブルクリックして、InstallShield ウィザードの[ようこそ]画面に入ります。[次へ]をクリックし、InstallShield ウィザードを開始します。



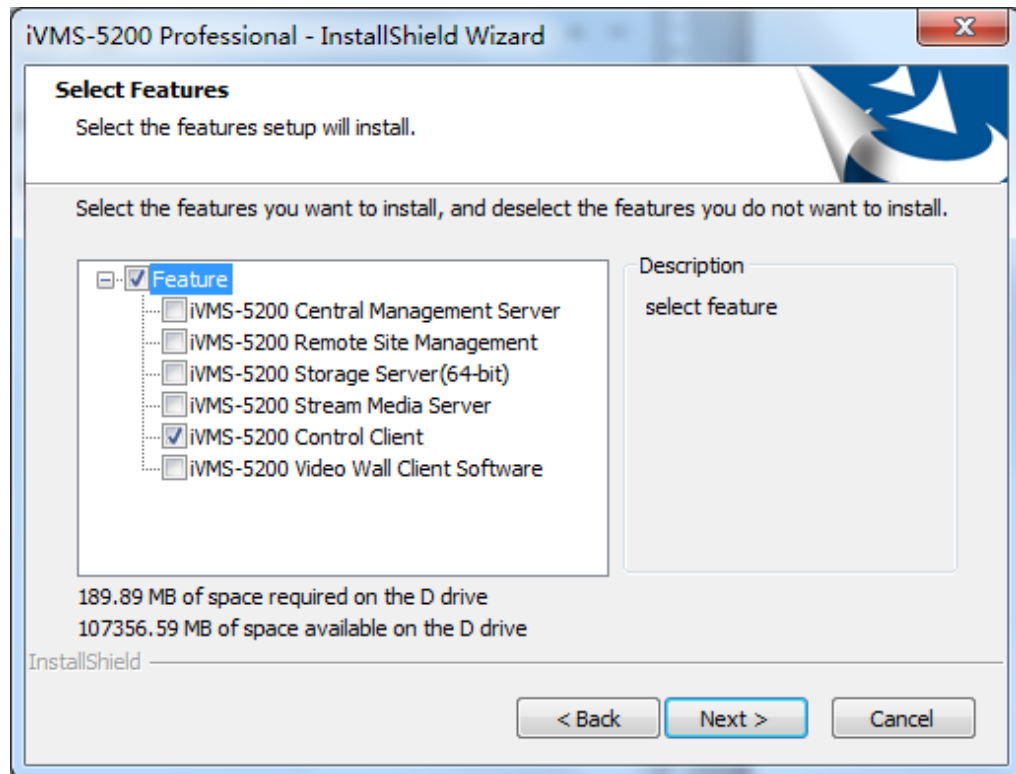
2. 次の画面でインストールするのセットアップ種別を選択するよう求められます。[カスタム]ラジオ ボタンを選択し[次へ]をクリックします。



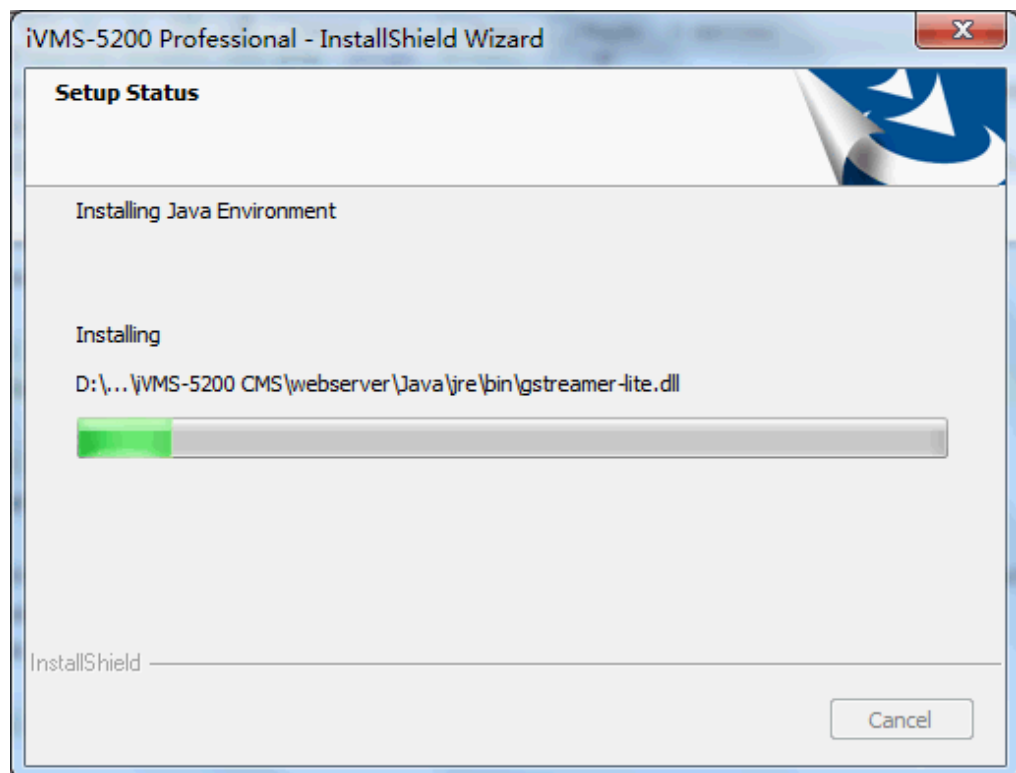
3. 必要に応じて[変更]をクリックして適切なディレクトリを選択し、コントロール クライアントをインストールします。[次へ]ボタンをクリックして継続します。



4. iVMS-5200 クライアント(iVMS-5200 コントロール クライアントまたは iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント)を選択し、[次へ]をクリックしてインストールを開始します。



5. インストール事前情報を読み、[インストール]をクリックしてインストールを開始します。
6. インストールの進行状況を示すパネルが表示されます。



7. インストール事後情報を読み、[完了]をクリックしてインストールを完了します。

クライアントをアンインストールする場合、[サーバモジュールのアンインストール](#)を参照して詳細手順を確認してください。

CMS のアクティベート

CMS のアクティベート

iVMS-5200 プロのインストール後、一定期間、一定数のカメラに対する一時的なライセンスが利用できます。これを試用期間と呼びます。試用期間が終了し、CMS がアクティベートされていない場合、iVMS-5200 プロへのログインや操作はできなくなります。

iVMS-5200 プロの適正な利用を保証するためには、試用期間が終了する前に CMS をアクティベートしてください。

注意:

- CMS をすぐにアクティベートしたくない場合、この章をスキップし、実際の必要に応じてこの操作を後で行うこともできます。
- iVMS-5200 プロ Web クライアントにログインして([Web クライアントを開いてログインする](#))を参照してください)、ライセンス エリアの[ライセンス詳細]をクリックし、試用期間とお使いの iVMS-5200 プロが管理できるデバイスの数を確認してください。

[ライセンス リスト]をクリックしてお使いのシステムでアクティベートされているすべてのライセンスを確認できます。アクティベーションコードをクリックすると関連する使用権利の詳細が確認できます。

License			
License Details	Authorization Details	Total	Used
License List	Video Surveillance	256 Camera(s)	34 Camera(s)
	Storage Server	5 Server(s)	1 Server(s)
	Decoding Device	10 Piece(s)	3 Piece(s)
	Third-Party Device	10 Camera(s)	0 Camera(s)
	VCA Channel	13 Event(s)	0 Event(s)
	SMD Channel	1 Event(s)	0 Event(s)
	Transaction	24 POS Terminals	2 POS Terminals
	Business Intelligence		
	-People Counting Analytics	√	
	-Retail Traffic Analytics	√	
	-Transaction Data Analytics	√	

iVMS-5200 プロには 2 種類のライセンスがあります。必要に応じて個別のライセンスを選択して購入することができます。

- **ベース:** iVMS-5200 プロをアクティベートするには少なくとも 1 つのベーシック ライセンスを購入する必要があります。
- **拡張:** お使いのシステムを拡張したい場合(例: 接続可能なカメラ数を拡大する)、追加の機能を入手するために拡張ライセンスを購入することができます。

ライセンスを購入すると HIKVISION 社からアクティベーション コードが入手できます。ネットワークの状況に応じて 2 つの方法があります: オンラインアクティベーションとオフラインアクティベーションです。これらの 2 つのモードの設定については個別に説明します。

アクティベートされる CMS がインターネットに適切に接続されている場合の設定の詳細については [オンラインアクティベーション](#) を参照してください。

アクティベートされる CMS がインターネットに接続できない場合の詳細については [オフラインアクティベーション](#) を参照してください。

注意:

- アクティベーション操作は管理者ユーザのみが実行できます。
- アクティベートされるハードウェア サーバが以前アクティベートされたことがある場合、前回のアクティベーションの際に利用されたネットワーク カードがそのまま利用されていることを確認してください。そうでない場合、アクティベーションは失敗します。
- アクティベーションの際に問題が発生した場合、ハードウェア サーバのログを当社の技術サポート エンジニアに送付してください。

オンラインアクティベーション

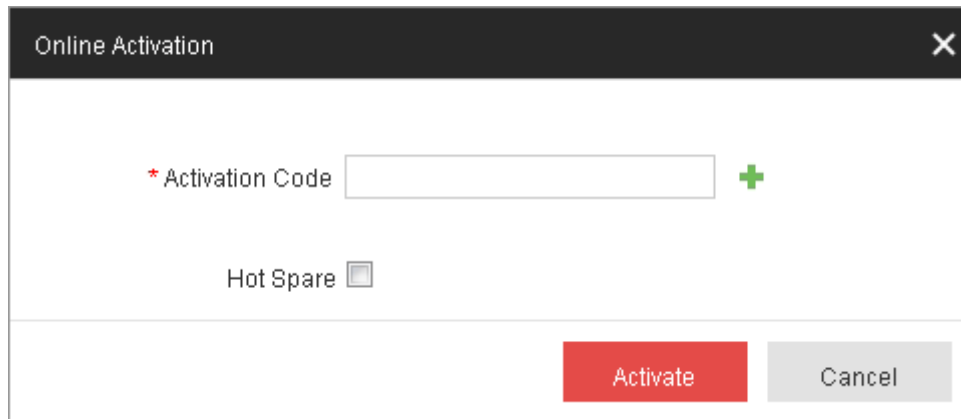
アクティブ

目的:

アクティベートする CMS がインターネットに正しく接続できる場合、以下の手順を実行してライセンスをアクティベートできます。

方法:

1. iVMS-5200 プロ Web クライアントにログインします。以下を参照してください: [Web クライアントの起動とログイン](#)。
2. ログインに成功すると iVMS-5200 プロ Web クライアントのホームページに入ります。ライセンス エリアにある[オンラインアクティベーション]をクリックするとライセンス設定ウィンドウがポップアップします。

The image shows a software dialog box titled "Online Activation" with a close button (X) in the top right corner. Inside the dialog, there is a label "* Activation Code" followed by a text input field. To the right of the input field is a green plus sign (+). Below this, there is a label "Hot Spare" followed by an unchecked checkbox. At the bottom right of the dialog, there are two buttons: a red "Activate" button and a gray "Cancel" button.

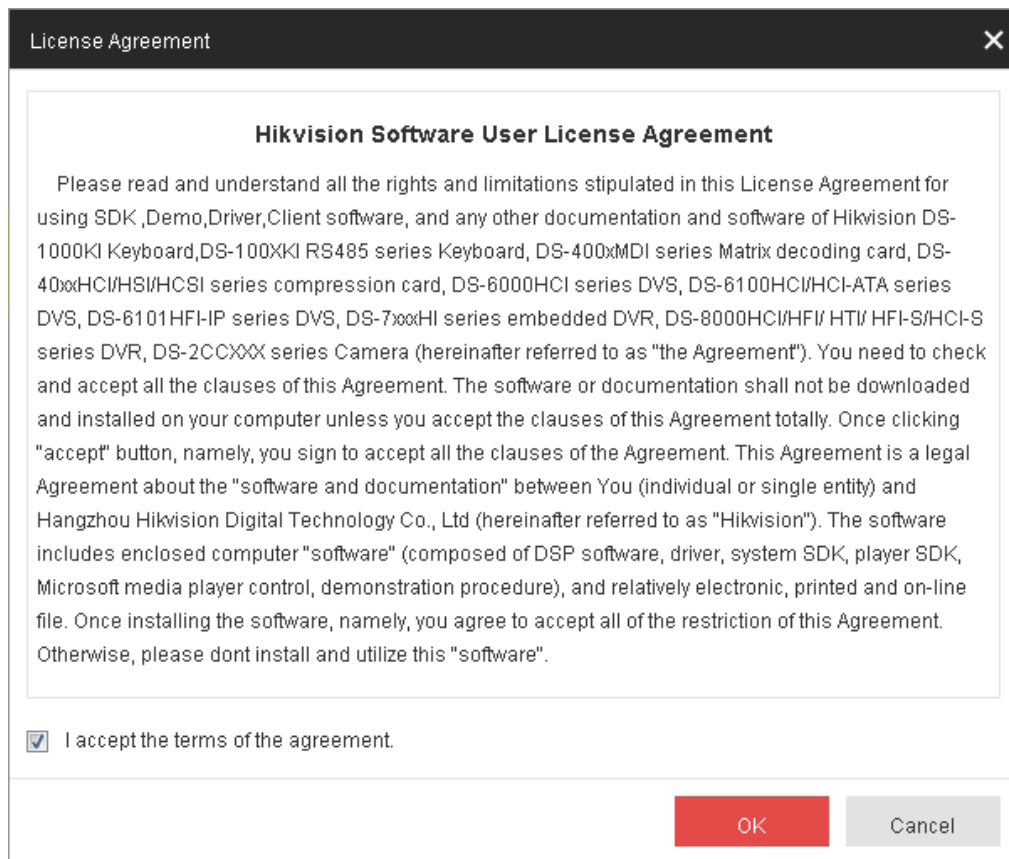
3. ライセンス購入時に受け取ったアクティベーションコードを入力してください。複数のライセンスを購入された場合、**+** をクリックして他のアクティベーションコードを入力できます。

注意: システムのアクティベートには少なくとも1つのベーシックライセンスが必要です。

4. ホットスペアシステムを構築したい場合、**[ホットスペア]**チェックボックスをチェックし、必要なパラメータを入力します。

注意:

- システムをインストールするには**[ホットスペア]**モードを選択する必要があります。詳細については以下を参照してください: [サーバモジュールのインストール](#)。
 - ホットスペアシステムの構築方法については当社のテクニカルサポートエンジニアにお問い合わせください。
5. **[アクティベート]**をクリックするとライセンス契約ダイアログがポップアップします。ライセンス契約を読みます。ライセンス契約に同意される場合、**[契約条件に同意します]**チェックボックスをチェックして**[OK]**をクリックして続けます。CMSが正しくアクティベートされると「**アクティベート完了**」がポップアップします。契約条件に同意されない場合、**[キャンセル]**をクリックしてアクティベーションをキャンセルします。



更新

目的:

あなたのプロジェクトが大きくなるにつれ、お使いの iVMS-5200 プロに接続可能なカメラの数を拡張する必要があるかもしれません。ご利用の販売店または当社営業に連絡して追加機能を購入し、以下の手順を実行してお使いのライセンスをアップデートしてください。

方法:

1. iVMS-5200 プロ Web クライアントにログインします。以下を参照してください: [Web クライアントの起動とログイン](#)。
2. ログインに成功すると iVMS-5200 Web クライアントのホームページに入ります。ライセンスエリアの[**ライセンスのアップデート**]をクリックし、アップデート パネルを展開します。
3. [**オンライン アップデート**]をクリックし、追加するライセンスのアクティベーションコードを入力します。複数のライセンスを購入された場合、**+** をクリックして他のアクティベーションコードを入力できます。
4. [**アップデート**]をクリックするとライセンス契約ダイアログがポップアップします。ライセンス契約を読みます。ライセンス契約に同意される場合、[**契約条件に同意します**]チェックボックスをチェックして[**OK**]をクリックして続けます。CMS が正しくアップデートされると「**アクティベート完了**」のプロンプトがポップアップします。契約条件に同意されない場合、[**キャンセル**]をクリックしてアップデートをキャンセルします。

ディアクティベーション

目的:

CMS を他の PC またはサーバで実行したい場合、まず CMS をディアクティベートしてから再度アクティベートする必要があります。CMS をディアクティベートした後、そのライセンスを他の CMS のアクティベートに利用することができます。

方法:

1. iVMS-5200 プロ Web クライアントにログインします。以下を参照してください: [Web クライアントの起動とログイン](#)。
2. ログインに成功すると iVMS-5200 Web クライアントのホームページに入ります。ライセンスエリアの[**ライセンスのディアクティベート**]をクリックし、ディアクティベーションパネルを展開します。
3. [**オンライン ディアクティベーション**]をクリックし、ディアクティベートするアクティベーションコード(複数可)のチェックボックスのチェックを外します。
4. [**ディアクティベート**]をクリックするとライセンス契約ダイアログがポップアップします。ライセンス契約を読みます。ライセンス契約に同意される場合、**[契約条件に同意します]**チェックボックスをチェックして**[OK]**をクリックして続けます。ライセンスが正しくディアクティベートされると「**ディアクティベート完了**」のプロンプトがポップアップします。契約条件に同意されない場合、**[キャンセル]**をクリックしてディアクティベーションをキャンセルします。

オフラインアクティベーション

アクティブ

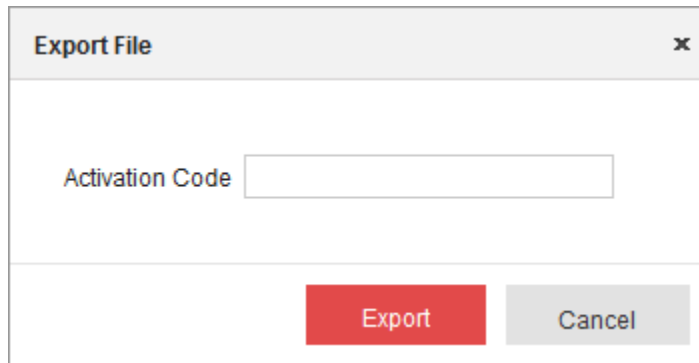
目的:

アクティベートする CMS がインターネットに接続できない場合、以下の手順を実行してライセンスをアクティベートできます。

注意: HIKVISION の Web サイト(<http://overseas.hikvision.com/>)から VMS->VMS サポート->ライセンス管理->オフライン ライセンス管理ページに移動し、**[新規ユーザ]**をクリックしてアカウントを登録します。

方法:

1. iVMS-5200 プロ Web クライアントにログインします。以下を参照してください: [Web クライアントの起動とログイン](#)。
2. ログインに成功すると iVMS-5200 Web クライアントのホームページに入ります。ライセンスエリアにある**[ライセンス リクエスト ファイルのエクスポート]**をクリックするとライセンス設定ウィンドウがポップアップします。



3. ライセンス購入時に受け取ったアクティベーションコードを入力してください。
4. **[エクスポート]**をクリックし、リクエスト ファイルを適切なディレクトリに保存するか、リムーバブルストレージメディア(例: USB フラッシュ ディスク)に保存してください。
5. リクエスト ファイルをインターネットに接続できる PC にコピーします。
注意: Web クライアント経由で iVMS-5200 プロにアクセスしている PC がインターネットに接続可能な場合、手順 5 はスキップできます。
6. HIKVISION の Web サイト(<http://overseas.hikvision.com/>)から VMS->VMS サポート->ライセンス管理->オフライン ライセンス管理ページに移動し、お使いのアカウントでログインします。
7. 「アカウント アクティベートの方法」を選択し、ページ下部にある**[表示]**をクリックし、リクエスト ファイルを選択して**[送信]**をクリックし、レスポンス ファイルを要求します。
8. ポップアップ ダイアログ上で**[ダウンロード]**をクリックし、レスポンス ファイルの名前と保存先パスを設定します。
9. レスポンス ファイルを iVMS-5200 プロに Web クライアント経由で接続する PC 上の適当なディレクトリに保存します。
10. ライセンス設定ウィンドウ上で**[アクティベーション ファイルのインポート]**をクリックし、レスポンス ファイルをインポートするとライセンス同意ダイアログがポップアップします。ライセンス契約を読みます。ライセンス契約に同意される場合、**[契約条件に同意します]**チェックボックスをチェックして**[OK]**をクリックして継続します。CMS が正しくアクティベートされると「**アクティベート完了**」のプロンプトがポップアップします。契約条件に同意されない場合、**[キャンセル]**をクリックしてアクティベーションをキャンセルします。

更新

目的:

あなたのプロジェクトが大きくなるにつれ、お使いの iVMS-5200 プロに接続可能なカメラの数を拡張する必要があるかもしれません。ご利用の販売店または当社営業に連絡して追加機能を購入し、以下の手順を実行してお使いのライセンスをアップデートしてください。

方法:

1. iVMS-5200 プロ Web クライアントにログインします。以下を参照してください: [Web クライアントの起動とログイン](#)。
2. ログインに成功すると iVMS-5200 Web クライアントのホームページに入ります。ライセンスエリアの**[ライセンスのアップデート]**をクリックし、アップデート パネルを展開します。
3. ライセンス エリアにある**[ライセンス リクエスト ファイルのエクスポート]**をクリックするとライセンス設定ウィンドウがポップアップします。追加ライセンスのアクティ

バージョンコードを入力してください。複数のライセンスを購入された場合、 をクリックして他のアクティベーションコードを入力できます。

4. **[エクスポート]**をクリックし、リクエスト ファイルを適切なディレクトリに保存するか、リムーバブルストレージメディア(例: USB フラッシュ ディスク)に保存してください。
5. リクエスト ファイルをインターネットに接続できる PC にコピーします。
注意: Web クライアント経由で iVMS-5200 プロにアクセスしている PC がインターネットに接続可能な場合、手順 5 はスキップできます。
6. HIKVISION の Web サイト(<http://overseas.hikvision.com/>)から VMS->VMS サポート->ライセンス管理->オフライン ライセンス管理ページに移動し、お使いのアカウントでログインします。
7. アカウント アップデートの方法を選択し、ページ下部にある**[表示]**をクリックし、リクエスト ファイルを選択して**[送信]**をクリックし、レスポンス ファイルを要求します。
8. ポップアップ ダイアログ上で**[ダウンロード]**をクリックし、レスポンス ファイルの名前と保存先パスを設定します。
9. レスポンス ファイルを iVMS-5200 プロに Web クライアント経由で接続する PC 上の適当なディレクトリに保存します。
10. ライセンス設定ウィンドウ上で**[アクティベーション ファイルのインポート]**をクリックし、レスポンス ファイルをインポートするとライセンス同意ダイアログがポップアップします。ライセンス契約を読みます。ライセンス契約に同意される場合、**[契約条件に同意します]**チェックボックスをチェックして**[OK]**をクリックして継続します。CMS が正しくアップデートされると「**アクティベート完了**」のプロンプトがポップアップします。契約条件に同意されない場合、**[キャンセル]**をクリックしてアップデートをキャンセルします。

ディアクティベーション

目的:

CMS を他の PC またはサーバで実行したい場合、まず CMS をディアクティベートしてから再度アクティベートする必要があります。CMS をディアクティベートした後、そのライセンスを他の CMS のアクティベートに利用することができます。

方法:

1. iVMS-5200 プロ Web クライアントにログインします。以下を参照してください: [Web クライアントの起動とログイン](#)。
2. ライセンス エリアの**[ライセンスのディアクティベート]**をクリックし、ディアクティベーション パネルを展開します。
3. **[ライセンス リクエスト ファイルのエクスポート]**をクリックし、ディアクティベートするアクティベーションコード(複数可)のチェックボックスのチェックを外します。
4. **[エクスポート]**をクリックし、リクエスト ファイルを適切なディレクトリに保存するか、リムーバブルストレージメディア(例: USB フラッシュ ディスク)に保存してください。
5. リクエスト ファイルをインターネットに接続できる PC にコピーします。
注意: Web クライアント経由で iVMS-5200 プロにアクセスしている PC がインターネットに接続可能な場合、手順 5 はスキップできます。
6. HIKVISION の Web サイト(<http://overseas.hikvision.com/>)から VMS->VMS サポート->ライセンス管理->オフライン ライセンス管理ページに移動し、お使いのアカウントでログインします。
7. アカウント ディアクティベートの方法を選択し、ページ下部にある**[表示]**をクリックし、エクスポートされたリクエスト ファイルを選択して**[送信]**をクリックし、レスポンス ファイルを要求します。

8. ポップアップ ダイアログ上で[ダウンロード]をクリックし、レスポンス ファイルの名前と保存先パスを設定します。
9. レスポンス ファイルを iVMS-5200 プロに Web クライアント経由で接続する PC 上の適当なディレクトリに保存します。
10. ライセンス設定ウィンドウ上で[アクティベーション ファイルのインポート]をクリックし、レスポンス ファイルをインポートするとライセンス同意ダイアログがポップアップします。ライセンス契約を読みます。ライセンス契約に同意される場合、[契約条件に同意します]チェックボックスをチェックして[OK]をクリックして続けます。

注意: 契約条件に同意されない場合、[キャンセル]をクリックしてディアクティベーションをキャンセルします。

11. 新しいリクエスト ファイルが自動的に生成され、再度エクスポートするように指示されます。または[ライセンス リクエスト ファイルのエクスポート]をクリックしてリクエスト ファイルを手動でエクスポートします。リクエスト ファイルを適切なディレクトリまたはリムーバブル ストレージ メディアに保存し、手順 5~10 を再度実行してディアクティベーション処理を完了してください。

ディアクティベーションが正しく完了すると、「ディアクティベーション完了」がポップアップします。そのライセンスで他の CMS をアクティベートできます。

iVMS-5200 プロにアクセスする

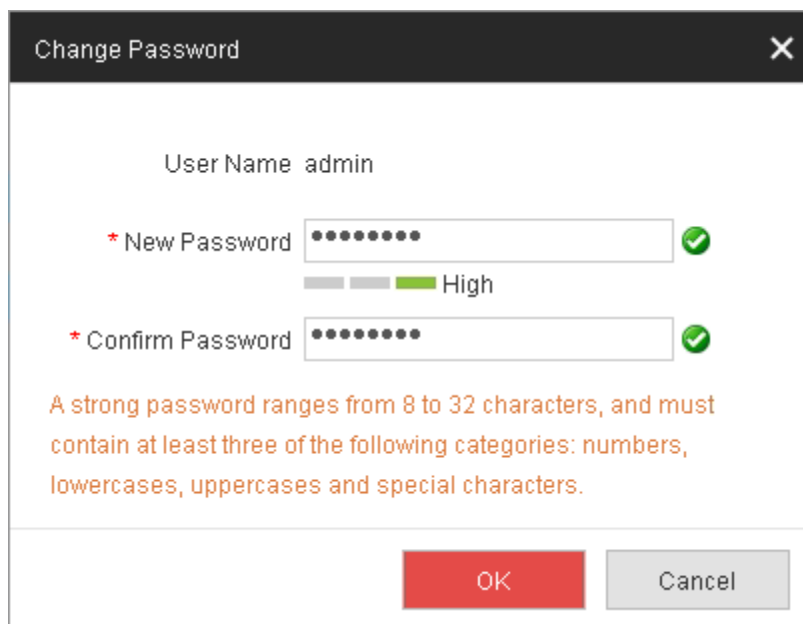
Web クライアントを開いてログインする

動作環境

- CPU: Intel Pentium IV 3.0 GHz およびそれ以上
- メモリ: 1G およびそれ以上
- ビデオカード: RADEON X700 シリーズ
- Web ブラウザ: Internet Explorer 9/10/11 またはそれ以上(32 ビット)、Chrome 35/36/37/38/39/40/41/42/43/44 (32 ビット)、Firefox 32/33/34/35/36/37/38/39/40 (32 ビット)

方法:

1. Web ブラウザのアドレス バーに CMS(中央管理サーバ)のアドレスを入力し、[Enter]キーを押します。ログイン ウィンドウがポップアップします。
注意: アドレスは「http://CMS の IP アドレス」のフォーマットです。
例: CMS の IP アドレスが 172.6.21.96 であれば、アドレス バーには **http://172.6.21.96** と入力してください。
2. ポップアップ ウィンドウ上の[新パスワード]と[パスワード確認]フィールドにカスタマイズしたパスワードを入力し、[OK]をクリックしてパスワードを設定します。



Change Password

User Name admin

* New Password 

 High

* Confirm Password 

A strong password ranges from 8 to 32 characters, and must contain at least three of the following categories: numbers, lowercases, uppercases and special characters.

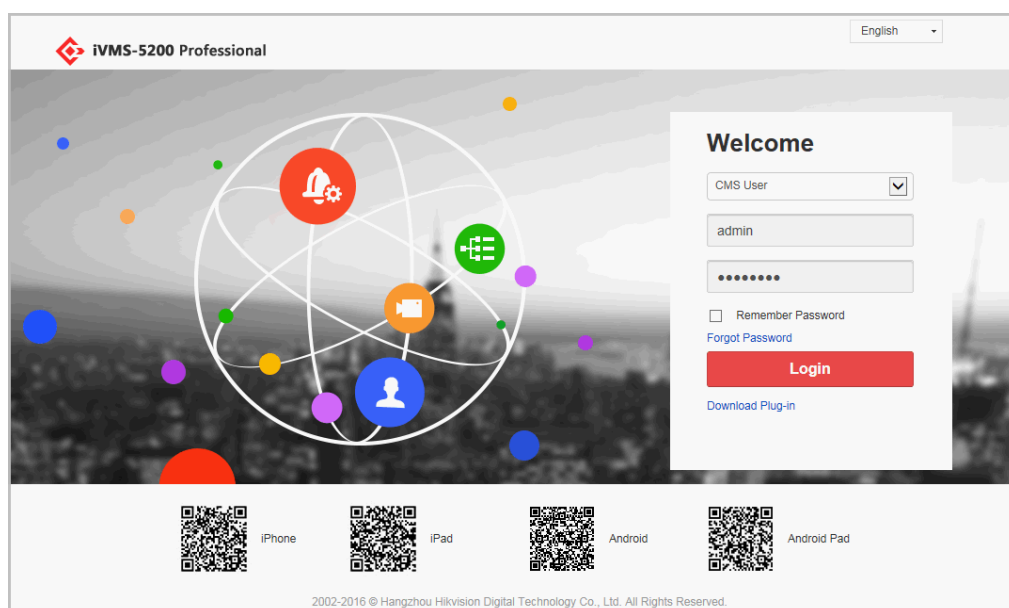
OK Cancel



- パスワードの強度をシステムでチェックすることができます。プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードは必ず、あなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも8文字以上)に変更してください。
 - すべてのパスワードやその他のセキュリティの適切な設定は、**設置者およびまたはエンドユーザーの責任です。**
- 3. 初めてログインするには機能にアクセスする前にプラグインをインストールする必要があります。
 - ポップアップ ダイアログ上で[プラグインのダウンロード]チェックボックスをチェックし、[OK]をクリックします。
 - プラグイン ファイルを保存し、Web ブラウザを終了します。
 - プラグイン ファイルを保存したディレクトリに移動し、ダブルクリックしてプロンプトにしたがい、プラグインをインストールします。
 - インストール後、Web ブラウザを再起動し、iVMS-5200 プロにログインします(ステップ 1)。ポップアップ プロンプト上でプラグインの実行を許可します。
- 4. ドロップダウンリストでユーザ種別を選択します。
 - **CMS ユーザ:** 現在の CMS のユーザです。
 - **RSM ユーザ:** 現在の CMS にアクセスする権限を持った RSM のユーザです。
- 5. 新しいパスワードを入力して、[ログイン]をクリックしてください。オプションとして、[パスワードを保存する]チェックボックスをチェックしてパスワードを保存することもできます。

注意:

- ログインの失敗が検知されると、ログインに成功するまで認証コードの入力が求められるようになります。
- ログインが5回失敗すると、アカウントは以後 10 分間凍結されます。
- お使いの iVMS-5200 プロをアップデートした場合、Web クライアント ページを正しく表示するために、Web ブラウザのキャッシュをクリアしなければいけない場合があります。キャッシュのクリアの方法が分からない場合、IT システム管理者に問い合わせてください。



システムのパスワードを忘れた場合、[パスワードを忘れた場合]をクリックし、ポップアップ ウィンドウ上でアクティベーション コード、新パスワード、確認パスワードを入力してください。[OK] をクリックすると、システムのパスワードがリセットされます。

注意: パスワードのリセットは iVMS-5200 プロをアクティベートしている場合にのみ実行できます。詳細な設定については以下を参照してください:

[CMS のアクティベート](#)。



- パスワードの強度をシステムでチェックすることができます。プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードは必ず、あなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更してください。
- すべてのパスワードやその他のセキュリティの適切な設定は、設置者およびまたはエンドユーザーの責任です。

Reset Password

Activation Code

* New Password

* Confirm Password

A strong password ranges from 8 to 32 characters, and must contain at least three of the following categories: numbers, lowercases, uppercases and special characters.

OK

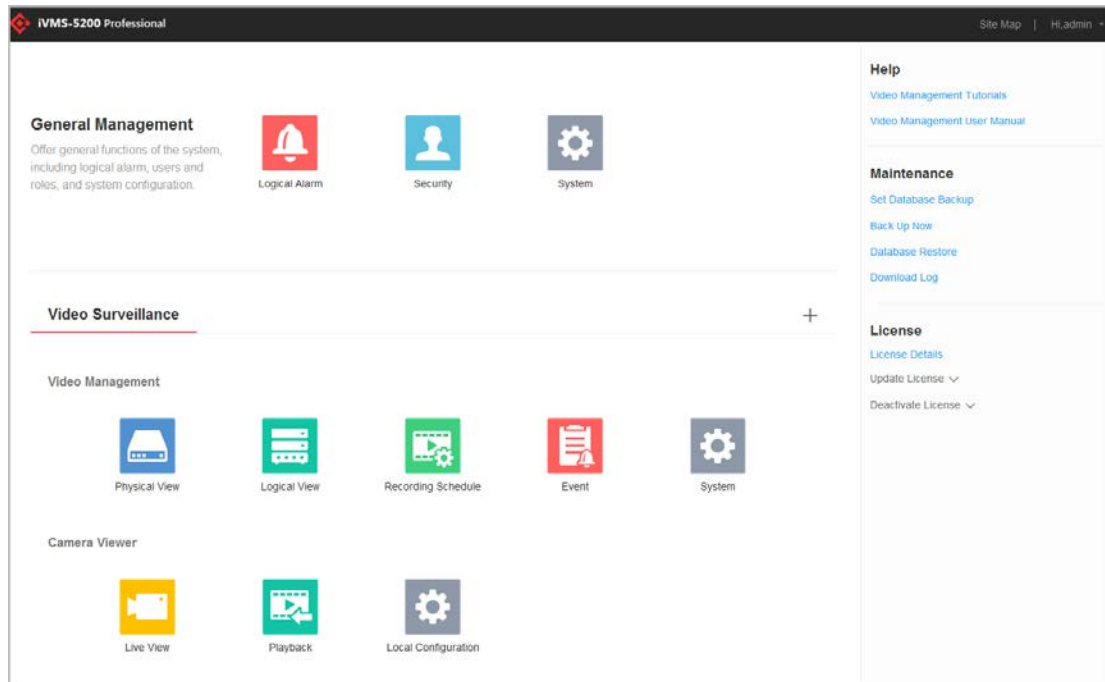
Cancel

ログインインターフェイスではモバイル クライアントのダウンロード用の QR コードも入手できます。対応する QR コードをお使いのモバイル端末でスキャンしてモバイル クライアントをダウンロードしてください。モバイル クライアント導入の詳細については iVMS-5200 モバイル クライアントのユーザ マニュアルを参照してください。

ホームページ イントロダクション

ログインすると iVMS-5200 Web クライアントのホームページに入ります。

注意: ホームページ上に表示されるモジュールは購入したライセンスに応じて変わります。詳細情報については当社のテクニカル サポート エンジニアにお問い合わせください。



iVMS-5200 Web クライアントは以下のモジュールから構成されます:

論理アラーム、役割およびユーザ管理、システム設定を含むベーシック モジュールの一般設定を行えます。

注意: ベーシック モジュールは機能モジュールを統合する目的で使用され、同じシステムからすべての機能モジュールを管理する基本的な機能(例: ユーザ管理、ライセンス管理、論理アラーム設定)を提供します。デフォルトではビデオ監視モジュールが iVMS-5200 プロに含まれており、モバイル監視および ANPR モジュールを iVMS-5200 プロに追加して集中管理することができます。

ビデオの管理 デバイスを iVMS-5200 プロに追加し、録画スケジュール、イベント設定およびシステム パラメータの設定することができます。

カメラビューアー ライブ ビュー、再生、論理設定の機能を提供します。

- ヘルプ ビデオ チュートリアルおよびユーザマニュアルを閲覧し、システム設定についての詳細を確認することができます。
- データベース バックアップを設定することで、異常発生時、あなたのデータを十分に保護し、復元できるようにします。
- メンテナンス ○ データベースバックアップファイルからシステムを復元します。
- サーバ モジュールのログ情報はローカル ストレージにエクスポートすることができます。

ライセンスの情報を確認します。ライセンスのアクティベート、ライセンスの更新およびライセンスのディアクティベートを行います。

注意:  をクリックして iVMS-5200 プロに他の機能モジュール(モバイル監視および ANPR モジュール)を追加して管理することができます。機能モジュールの追加の詳細設定については以下を参照してください: [機能モジュールの追加](#)。

メイン ページの右上隅で、以下の機能を実行することができます:

- [サイト マップ]をクリックし、システムの概要を確認し、必要なページに容易に移動することができます。
- ログイン名をクリックし、[パスワード変更]をクリックしてパスワードを変更できます。
- ログイン名をクリックし、[情報]をクリックして iVMS-5200 プロのバージョン情報を確認できます。
- ログイン名をクリックし、[ログアウト]を選択してシステムからログアウトすることができます。

クイック スタート

目的:

クイック スタートはエンコーディング デバイスの追加、録画スケジュールの設定、システムのイベント パラメータの設定を含む、iVMS-5200 プロの基本的な操作を解説するものです。

[物理ビュー]をクリックし、左側にある  をクリックしてクイック スタート ページを開きます。

エンコーディング デバイスの追加

Web クライアントと同じローカル サブネット上にあるアクティブなオンライン エンコーディング デバイスの追加、IP アドレスまたはドメイン名によるデバイスの追加、HiDDNS によるデバイスの追加、IP セグメントによるデバイスの追加およびポート セグメントによるデバイスの追加が可能です。

詳細な設定については、[エンコーディング デバイスの追加](#) を参照してください。

録画スケジュールの設定

ビデオ ストレージ デバイス(例: HDD、Net HDD、SD/SDHC カード)がローカル デバイス上にある場合、またはストレージ サーバが利用可能である場合、カメラの録画スケジュールを設定し、連続的、アラーム契機またはコマンド契機による録画を行わせることができます。

詳細な設定については、[録画スケジュール設定](#) を参照してください。

イベント設定

検知されたイベントについて、通知に対するリンク アクションを設定できます。例えば、動体が検知された場合、音声警報を鳴らしたり、その他のリンク アクションを起こすことができます。

詳細な設定については、[イベントおよびアラーム設定](#) を参照してください。

メンテナンス

目的:

iVMS-5200 プロはデータベースのバックアップを提供し、あなたのデータが十分に保護され、異常が起きた場合には復旧できるようにします。サーバモジュールのログファイルをダウンロードし、システムに問題が起きたときにはその箇所を迅速に特定することもできます。

データベース バックアップの設定

[今すぐバックアップ]をクリックし、データベース バックアップを直ちに実行することができます。または、データベース バックアップ タスクを定期的に行うよう、スケジュールを設定することもできます。

方法:

1. システムのホームページ上で[データベース バックアップ設定]をクリックします。
2. データベースをバックアップしたい機能モジュールを選択します。
3. データベースをバックアップを行う頻度を選択します。 バックアップ タスクの実行に、週次、月次を選択する場合、どの日に実行するかを選択してください。 対象日の何時にバックアップを開始するか選択します。

Set Database Backup

Video Surveillance

Mobile Surveillance

ANPR

How Often: Daily

Which Day:

When: 0:00

* Save To: C:\Program Files (x86)\iVMS-5200 Default Path

OK Cancel

4. データベースの保存先パスを設定します。または[デフォルトパス]をクリックして、デフォルトの保存先パスを指定することもできます。
5. [OK]をクリックして設定を保存します。

データベースのリストア

異常が発生した場合、データベースをバックアップをしていれば、データベースのリストアが可能です。

注意: データベース リカバリーはデータベースを以前の状態に復旧します。したがって、その状態から後に追加されたデータは失われます。

方法:

1. システムのホームページ上で[データベース リストア]をクリックします。
2. データベースを以前の状態にリストアしたい機能モジュールのバックアップ ファイル選択します。

Database Restore

Select Backup File

	Module	File Name	Backup Time	
☐	Video Surveillance	2016-05-15 000000_IPM_v3.3.2.02.90567.backup	2016-05-15	
☐	Video Surveillance	2016-05-16 000000_IPM_v3.3.2.02.90567.backup	2016-05-16	
☐	ANPR	2016-05-15 000000_ANPR_v1.0.0.00.90560.backup	2016-05-15	
☐	ANPR	2016-05-16 000000_ANPR_v1.0.0.00.90560.backup	2016-05-16	
☐	Mobile Surveillance	2016-05-15 000000_MSM_v1.0.0.00.90561.backup	2016-05-15	
☐	Mobile Surveillance	2016-05-16 000000_MSM_v1.0.0.00.90561.backup	2016-05-16	

Restore
Cancel

3. [リストア]をクリックしてデータベース リカバリーを確定します。

ログ ファイルのダウンロード

方法:

1. システムのホームページ上で[ログのダウンロード]をクリックします。
2. ログ ファイルをダウンロードしたい機能モジュールを選択します。
3. 始点と終点時刻を設定して、ダウンロードするログ ファイルの対象期間を指定します。

Download Log

	Module	Service Name	IP Address
☐	Mobile Surveillance	iVMS STREAM	192.168.1.104
☐	Mobile Surveillance	Central Management Server	192.168.1.104
☐	ANPR	iVMS STREAM	192.168.1.106
☒	ANPR	iVMS Parking Event Server	192.168.1.106
☐	ANPR	iVMS PCNVR	192.168.1.106
☐	ANPR	Central Management Server	192.168.1.106
☐	Video Surveillance	iVMS STREAM	192.168.1.103
☐	Video Surveillance	iVMS PCNVR	192.168.1.103
☐	Video Surveillance	Central Management Server	192.168.1.102

Select a Log Time

Start Time
2016-05-16 00:00:00
End Time
2016-05-16 23:59:59

Download
Cancel

4. **[ダウンロード]**をクリックし、ログ ファイルのダウンロードを開始します。

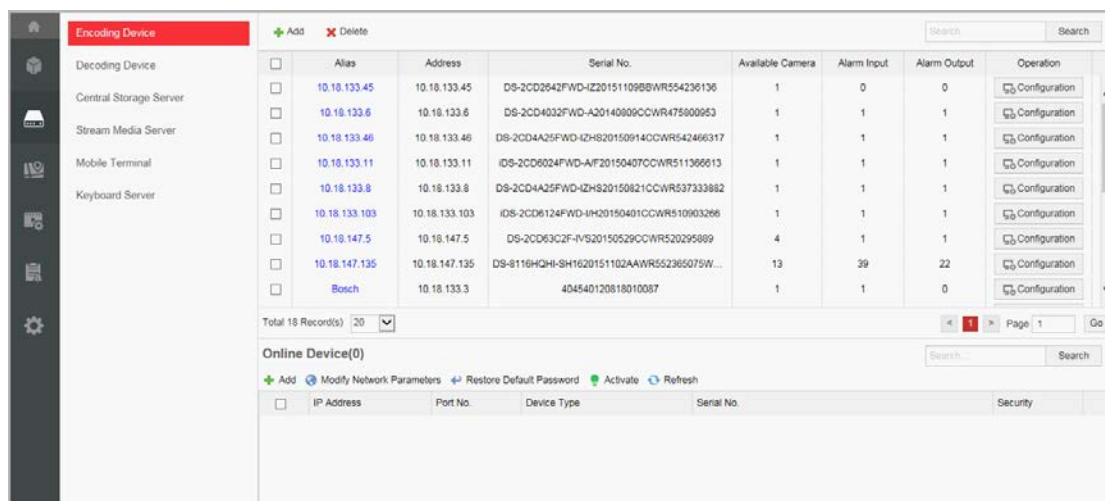
リソース管理

リソース管理

目的:

ライブビュー、コントロールクライアント経由での再生、録画スケジュールの設定、Webクライアント経由でのイベント設定を行うためには、iVMS-5200 プロにデバイスを追加し、それらをエリアで管理する必要があります。以下からデバイスの追加を行うこともできます: [クイックスタート](#)。

[物理ビュー]タブをクリックしてデバイスおよびサーバ管理ページを開きます。



Encoding Device		+	Add	×	Delete	Search	
	Alias	Address	Serial No.	Available Camera	Alarm Input	Alarm Output	Operation
☐	10.18.133.45	10.18.133.45	D9-2CD262FWD-IZ2015110988WRS54236136	1	0	0	Configuration
☐	10.18.133.6	10.18.133.6	D9-2CD4032FWD-A20140809CCWR475800953	1	1	1	Configuration
☐	10.18.133.46	10.18.133.46	D9-2CD4A25FWD-IZH20150914CCWR542466317	1	1	1	Configuration
☐	10.18.133.11	10.18.133.11	ID9-2CD6024FWD-AF20150407CCWR511366613	1	1	1	Configuration
☐	10.18.133.8	10.18.133.8	D9-2CD4A25FWD-IZH20150821CCWR537333882	1	1	1	Configuration
☐	10.18.133.103	10.18.133.103	ID9-2CD6124FWD-IH20150401CCWR510903266	1	1	1	Configuration
☐	10.18.147.5	10.18.147.5	D9-2CD63C2F-IVS20150529CCWR520295889	4	1	1	Configuration
☐	10.18.147.135	10.18.147.135	D9-8116HQHI-SH1620151102AAWRS552365075W...	13	29	22	Configuration
☐	Bosch	10.18.133.3	404540120818010087	1	1	0	Configuration

Total 18 Record(s) 20

Online Device(0)

+ Add | ⚙️ | Modify Network Parameters | ↺ | Restore Default Password | 🟢 | Activate | 🔄 | Refresh | Search | || ☐ | IP Address | Port No. | Device Type | Serial No. | Security | | | | | | |

管理用に2種類のビューがあります: 物理ビューはデバイスおよびサーバの管理を提供し、論理ビューはエリアの管理を行います。

注意: iVMS-5200 プロは追加されたデバイスとCMSの間の時刻同期を行います。

エンコーディング デバイスの追加

エンコーディング デバイスの追加

目的:

システムにエンコーディング デバイス(DVR およびネットワーク カメラなど)を追加できます。

以下の方法でデバイスを追加することができます:

- オンライン デバイスを検知して追加を行うには以下を参照してください: [オンラインデバイスの追加](#)。
- デバイスの IP アドレスまたはドメイン名を指定して追加を行うには、以下を参照してください: [IP アドレスまたはドメイン名によるデバイスの追加](#)。
- Ip セグメントを指定して追加を行うには、以下を参照してください: [IP セグメントによるデバイスの追加](#)。
- ポート セグメントの場合は以下を参照してください: [ポート セグメントによるデバイスの追加](#)。
- HiDDNS の場合は以下を参照してください: [HiDDNS によるデバイスの追加](#)。

問題なく追加されたデバイスは管理用のデバイス リストに表示されます。

フィルタ フィールドにデバイス名を入力して検索することもできます。

デバイスの[エイリアス]フィールドをクリックしてデバイスの情報を編集または取得できます。

リストからデバイスを選択し[削除]をクリックすると選択されたデバイスを削除できます(複数可)。

必要に応じて[設定]をクリックし、リモート設定を行うことができます。 リモート設定についての詳細な操作手順については、デバイスのユーザ マニュアルを参照してください。

パスワードの作成

目的:

デバイスによっては、ソフトウェアに追加して適切に利用できるようにするために、デバイスをアクティベートするパスワードを作成する必要があります。

注意: この機能はデバイスがサポートしている必要があります。

方法:

1. [物理ビュー]タブをクリックします。
2. オンライン デバイス パネル上でデバイス ステータスを確認し()([セキュリティ]欄に表示されます)、チェックボックスをチェックしてインアクティブなデバイスを選択します。
3. [アクティベート]ボタンをクリックすると、アクティベーション インターフェイスがポップアップします。

4. パスワード フィールドに新たなパスワードを入力して、パスワードを確認します。



強力なパスワードの推奨– お使いの製品のセキュリティ向上のため、自分自身で選択した強力なパスワード（最低 8 文字を使用し、大文字、小文字、数字および特殊記号を含むもの）を作成することを強く推奨します。また、定期的にパスワードを再設定し、特に高いセキュリティシステムでは、毎月または毎週パスワードを再設定すると、より安全に製品を保護できます。

The screenshot shows a web interface window titled "Add". It contains three input fields, each preceded by an asterisk (*):

- * User Name**: The input field contains the text "admin".
- * Password**: The input field contains masked characters (dots). Below the field is a strength indicator consisting of a horizontal bar divided into segments, with the rightmost segment highlighted in green and the label "High" next to it.
- * Reset Password**: The input field contains masked characters (dots).

At the bottom right of the window, there are two buttons: a red "Activate" button and a grey "Cancel" button.

5. [アクティベート]をクリックし、デバイスのパスワードを作成します。パスワードが問題なく設定されると「アクティベートされました」ウィンドウがポップアップします。
6. アクティベートされたデバイスのチェックボックスをチェックし[ネットワークパラメータの修正]をクリックするとネットワークパラメータ修正インターフェイスがポップアップします。
7. デバイスをシステムに追加する必要がある場合、デバイスの IP アドレスをお使いの PC と同じサブネットに変更してください。
8. ステップ 4 で設定したパスワードを入力し、保存をクリックしてネットワーク設定を完了します。

Modify Network Parameters

* Device Address 10.16.1.250

* Device Port 8000

* HTTP Port 80

* Subnet Mask 255.255.255.0

* Parking GateWay 10.16.1.254

* Password ●●●●●●●● ✓

Save Cancel

オンライン デバイスの追加

目的:

Web クライアントと同じローカル サブネットに属するアクティブなオンライン エンコーディング デバイスがリストに表示されます。[更新]ボタンをクリックしてオンライン デバイスの最新状態を取得できます。 デバイスのキーワードを入力して[検索]をクリックすると対応するデバイスが表示されます。

方法:

1. [物理ビュー]タブをクリックします。
2. [エンコーディング デバイス]をクリックし、オンライン デバイス パネル上で、追加するデバイス(複数可)のチェックボックスをチェックします。

注意: 非アクティブなデバイスについては、パスワードを作成しなければ正しく追加することはできません。 詳細な設定については以下を参照してください: [パスワードの作成](#)

3. [追加]をクリックしてデバイス追加ダイアログ ボックスを開きます。

4. 必要な情報を入力します。

1 デバイスを追加する場合:

- **デバイスアドレス:** デバイスの IP アドレスを入力します。この追加モードではデバイスの IP アドレスは自動的に取得されます。
- **デバイスポート:** デバイスのポート番号を入力します。デフォルトの値は **8000** です。
- **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
- **ユーザー名:** デバイスのユーザ名を入力します。
- **パスワード:** デバイスのパスワードを入力します。
- **注意:** デバイスのパスワードの強度をシステムでチェックすることができます。プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更することを強く推奨します。

[追加]をクリックし、デバイスのエリア設定を行います。

- I. デバイスのエリア名をカスタマイズします。または**[エリアにエクスポート]**フィールドをクリックして既に存在するエリアを選択できます。
- II. (オプション) ストリーム メディア サーバを選択してサーバ経由でデバイスのビデオストリームを取得できます。また**[新規追加]**をクリックしてストリーム メディア サーバを追加することもできます。
 - **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - **IP アドレス:** サーバの IP アドレスを入力します。
 - **コントロールポート:** サーバのコントロール ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **データポート:** サーバのデータ ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **ネットワークポート:** サーバのネットワーク番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **WAN アクセスの有効化:** サーバに WAN 経由でアクセスする必要がある売、チェックボックスをチェックして対応するパラメータを設定します。

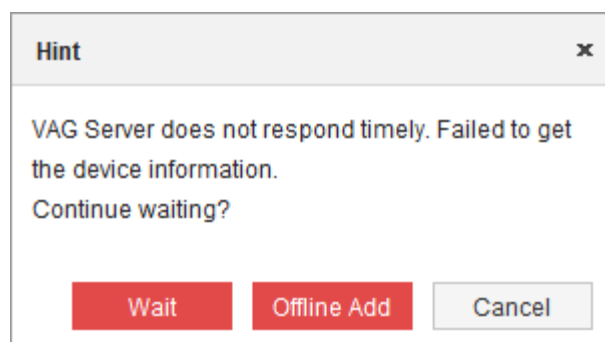
- III. (オプション) [カメラ名の同期]チェックボックスをチェックしてデバイスからカメラ名を取得します。
- IV. (オプション) [デバイスの録画スケジュールを取得]チェックボックスをチェックしてローカル デバイスに設定されている録画スケジュールを取得します。すると、スケジュールに応じて録画タスクが自動的に実行されます。
- V. [カメラの追加]をクリックしてエリアに追加する対象(カメラやアラーム入力など)を選択します。
- VI. [OK]をクリックし、デバイス追加を完了します。

複数デバイスを追加する場合:

- ユーザー名: デバイスのユーザ名を入力します。
- パスワード: デバイスのパスワードを入力します。
- **注意:** デバイスのパスワードの強度をシステムでチェックすることができます。 プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更することを強く推奨します。
- エリアにエクスポート (オプション): チェックボックスをチェックしてデバイスのエリアでエリアを作成します。 すべてのカメラ、アラーム入力、アラーム出力およびデバイスのアクセス コントロールがデフォルトでエリアに追加されます。
- ストリームメディアサーバー(オプション): ストリーム メディア サーバの IP アドレスを選択してサーバ経由でカメラのビデオ ストリームを取得できます。 また[新規追加]をクリックしてストリーム メディア サーバを追加することもできます。
 - 別名: 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - IP アドレス: サーバの IP アドレスを入力します。
 - コントロールポート: サーバのコントロール ポート番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - データポート: サーバのデータ ポート番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - ネットワークポート: サーバのネットワーク番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - WAN アクセスの有効化: サーバに WAN 経由でアクセスする必要がある売、チェックボックスをチェックして対応するパラメータを設定します。

[保存]をクリックし、デバイスの追加を確定します。

注意: 以下のダイアログボックスがポップアップした場合、VAG サーバが正しく動作するまで待つか、[オフライン追加]をクリックしてください。 オフライン追加を選択した場合、[エリアス](物理ビュー ページ)をクリックし、[更新]をクリックするとデバイスの詳細情報(カメラ番号、アラーム入力情報)などを取得することができます。



ネットワーク情報の変更

リストからデバイスを選択し、[ネットワークパラメータの変更]をクリックし、選択したデバイスのネットワーク情報を変更します。

注意: パスワードとはデバイスの管理者パスワードを指します。

デフォルトパスワードの復元

異なるデバイスごとに、デフォルトパスワードの復元またはパスワードをリセットするための3つの異なる方法があります。

リストからデバイスを選択し、[デフォルトパスワードを復元]をクリックします。

オプション1:

セキュリティコードフィールドのあるウィンドウがポップアップした場合、セキュリティコードを入力することで選択したデバイスのデフォルトパスワードを復元できます。

注意: セキュリティコードはデバイスのデータとシリアル番号をメーカーに送ると返信されてきます。

オプション2:

ファイルインポートとファイルエクスポートのボタンがあるウィンドウがポップアップした場合、次の手順を実行してデフォルトパスワードを復元します:

1. [エクスポート]をクリックし、PCにデバイスファイルを保存します。
2. ファイルを当社のテクニカルエンジニアに送信します。
3. [インポート]をクリックし、テクニカルエンジニアから受信したファイルを選択します。
4. [OK]をクリックし、デバイスのデフォルトパスワードを復元します。



- 管理者アカウント用のデフォルトパスワード(12345)は、初回ログインのためだけに利用されます。製品が正しく動作することを妨げたり、その他の望ましくない結果に繋がるおそれのある、他者による製品への無許可のアクセスのようなセキュリティリスクに対して安全性を高めるために、このデフォルトパスワードは変更しなければいけません。
- プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも8文字以上)に変更することを強く推奨します。
- すべてのパスワードやその他のセキュリティの適切な設定は、設置者およびまたはエンドユーザーの責任です。

オプション3:

ファイル インポートとファイル エクスポートのボタンがあるウィンドウがポップアップし、パスワードとパスワード確認のフィールドがポップアップした場合、次の手順を実行してパスワードをリセットします:

1. [エクスポート]をクリックし、PC にデバイス ファイルを保存します。
2. ファイルを当社のテクニカル エンジニアに送信します。
3. [インポート]をクリックし、テクニカル エンジニアから受信したファイルを選択します。
4. [パスワード]と[パスワードの確認]の各テキストフィールドに新しいパスワードを入力します。
5. [OK]をクリックし、パスワードをリセットします。



デバイスのパスワードの強度をシステムでチェックすることができます。プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更することを強く推奨します。また、定期的にパスワードを再設定し、特に高いセキュリティシステムでは、毎月または毎週パスワードを再設定すると、より安全に製品を保護できます。

IP アドレスまたはドメイン名によるデバイスの追加

方法:

1. [物理ビュー]タブをクリックします。
2. [エンコーディング デバイス]をクリックし、[追加]をクリックしてデバイス追加ダイアログボックスを起動します。
3. [IP/ドメイン名]を追加モードとして選択します。
4. 必要な情報を入力します。
 - メーカー: デバイスのメーカーを入力します。
 - **注意:** HIKVISION 以外のメーカーを選択した場合、そのデバイスに対して SMS を設定する必要があります。[\(ストリーム メディア サーバ参照\)](#)。
 - デバイスアドレス: デバイスの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。
 - デバイスポート: デバイスのポート番号を入力します。デフォルトでは、8000 番です。
 - 別名: 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - ユーザー名: デバイスのユーザー名を入力します。
 - パスワード: デバイスのパスワードを入力します。
 - **注意:** デバイスのパスワードの強度をシステムでチェックすることができます。プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更することを強く推奨します。

5. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加し、エリア管理ウィンドウを開きます。
6. デバイスのエリア名をカスタマイズします。または**[エリアにエクスポート]**フィールドをクリックして既に存在するエリアを選択できます。
7. (オプション) ストリーム メディア サーバを選択してサーバ経由でデバイスのビデオ ストリームを取得できます。また**[新規追加]**をクリックしてストリーム メディア サーバを追加することもできます。
 - **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - **IP アドレス:** サーバの IP アドレスを入力します。
 - **コントロールポート:** サーバのコントロール ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **データポート:** サーバのデータ ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **ネットワークポート:** サーバのネットワーク番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **WAN アクセスの有効化:** サーバに WAN 経由でアクセスする必要がある場合、チェックボックスをチェックして対応するパラメータを設定します。
8. (オプション) **[カメラ名の同期]**チェックボックスをチェックしてデバイスからカメラ名を取得します。
9. (オプション) **[デバイスの録画スケジュールを取得]**チェックボックスをチェックしてローカルデバイスに設定されている録画スケジュールを取得します。すると、スケジュールに応じて録画タスクが自動的に実行されます。
10. **[カメラの追加]**をクリックしてエリアに追加する対象(カメラやアラーム入力など)を選択します。チェックボックスをチェックして対象を選択し、**[削除]**をクリックしてそれを削除したり、**[クリア]**をクリックしてすべての対象を削除することもできます。
11. **[OK]**をクリックして設定を終了します。

Add

1 Add Device

2 Assign Camera

Export to Area: Speed Dome-Door

Stream Media Server: SMS_10.16.1.15

Synchronize Camera Name: ☒

Get Device Recording Schedule: ☒

Please select the camera for allocation.

	Area	Channel	Stream Media Server
☐	Speed Dome-Door	IP Camera33_Speed Do...	
☐	Speed Dome-Door	IP Camera34_Speed Do...	
☐	Speed Dome-Door	IP Camera35_Speed Do...	
☐	Speed Dome-Door	IP Camera36_Speed Do...	
☐	Speed Dome-Door	IP Camera37_Speed Do...	

OK Cancel

IP セグメントによるデバイスの追加

方法:

1. [物理ビュー]タブをクリックします。
2. [エンコーディング デバイス]をクリックし、[追加]をクリックしてデバイス追加ダイアログボックスを起動します。
3. [IP セグメント]を追加モードとして選択します。
4. 必要な情報を入力します。
 - **メーカー:** デバイスのメーカーを入力します。
 - **注意:** HIKVISION 以外のメーカーを選択した場合、そのデバイスに対して SMS を設定する必要があります。[\(ストリームメディアサーバ参照\)](#)。
 - **開始 IP アドレス:** IP セグメントの開始アドレスを入力します。
 - **終了 IP アドレス:** IP セグメントの終了アドレスを入力します。
 - **デバイスポート:** デバイスのポート番号を入力します。デフォルトでは、8000 番です。
 - **ユーザー名:** デバイスのユーザ名を入力します。
 - **パスワード:** デバイスのパスワードを入力します。
 - **注意:** デバイスのパスワードの強度をシステムでチェックすることができます。プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更することを強く推奨します。
 - **エリアにエクスポート (オプション):** チェックボックスをチェックしてデバイスのエイリアスでエリアを作成します。すべてのカメラ、アラーム入力、アラーム出力およびデバイスのアクセス コントロールがデフォルトでエリアに追加されます。

- **ストリームメディアサーバー(オプション):** ストリーム メディア サーバを選択してサーバ経由でデバイスのビデオ ストリームを取得できます。 また[新規追加]をクリックしてストリーム メディア サーバを追加することもできます。
 - **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - **IP アドレス:** サーバの IP アドレスを入力します。
 - **コントロールポート:** サーバのコントロール ポート番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **データポート:** サーバのデータ ポート番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **ネットワークポート:** サーバのネットワーク番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **WAN アクセスの有効化:** サーバに WAN 経由でアクセスする必要がある売、チェックボックスをチェックして対応するパラメータを設定します。
5. **[追加]**をクリックすると、IP アドレスが始点 IP アドレスと終点 IP アドレスの間にあるデバイスが、デバイス リストに追加されます。

Add

1 Add Device

* Adding Mode ☐ IP/Domain Name ☒ IP Segment ☐ Port Segment

* Manufacturer HIKVISION

* Start IP Address 10.18.1.25

* End IP Address 10.18.1.45

* Device Port 8000

User Name admin

Password High

Export to Area ☒

Stream Media Server SMS_10.18.137.114

Add Cancel

ポート セグメントによるデバイスの追加

方法:

1. **[物理ビュー]**タブをクリックします。
2. **[エンコーディング デバイス]**をクリックし、**[追加]**をクリックしてデバイス追加ダイアログボックスを起動します。
3. **[ポート セグメント]**を追加モードとして選択します。
4. 必要な情報を入力します。
 - **メーカー:** デバイスのメーカーを入力します。
 - **注意:** HIKVISION 以外のメーカーを選択した場合、そのデバイスに対して SMS を設定する必要があります。(ストリーム メディア サーバ参照)。
 - **デバイスアドレス:** デバイスの IP アドレスを入力します。

注意: IP アドレスのみ許可されます。

- **開始ポート:** ポート セグメントの始点ポート番号を入力します。
- **終了ポート:** ポート セグメントの終点ポート番号を入力します。
- **ユーザー名:** デバイスのユーザ名を入力します。
- **パスワード:** デバイスのパスワードを入力します。

注意: デバイスのパスワードの強度をシステムでチェックすることができます。 プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更することを強く推奨します。

- **エリアにエクスポート (オプション):** チェックボックスをチェックしてデバイスのエリアスでエリアを作成します。 すべてのカメラ、アラーム入力、アラーム出力およびデバイスのアクセス コントロールがデフォルトでエリアに追加されます。
 - **ストリームメディアサーバー(オプション):** ストリーム メディア サーバを選択してサーバ経由でデバイスのビデオ ストリームを取得できます。 また[新規追加]をクリックしてストリーム メディア サーバを追加することもできます。
 - **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - **IP アドレス:** サーバの IP アドレスを入力します。
 - **コントロールポート:** サーバのコントロール ポート番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **データポート:** サーバのデータ ポート番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **ネットワークポート:** サーバのネットワーク番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **WAN アクセスの有効化:** サーバに WAN 経由でアクセスする必要がある売、チェックボックスをチェックして対応するパラメータを設定します。
5. [OK]をクリックすると、ポート番号が始点ポート番号と終点ポート番号の間にあるデバイスが、デバイス リストに追加されます。

Add

1 Add Device

* Adding Mode ☐ IP/Domain Name ☐ IP Segment ☒ Port Segment

* Manufacturer HIKVISION

* Device Address 10.16.1.28

* Start Port 8000

* End Port 8080

User Name admin

Password

High

Export to Area ☒

Stream Media Server SMS_10.18.137.114

Add Cancel

HiDDNS によるデバイスの追加

方法:

1. **[物理ビュー]**タブをクリックします。
2. **[エンコーディング デバイス]**をクリックし、**[追加]**をクリックしてデバイス追加ダイアログボックスを起動します。
3. **[IP/ドメイン名]**を追加モードとして選択します。
4. **[製造元]**として**[HIKVISION]**を選択し、**[HiDDNS]**のチェックボックスをチェックします。
5. 必要な情報を入力します。
 - **サーバアドレス:** HiDDNS サーバアドレスを入力します。
 - **サーバポート:** HiDDNS サーバポートを入力します。デフォルトでは、**80** 番です。
 - **デバイスドメイン:** HiDDNS に登録されたデバイス ドメイン名を入力します。
 - **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - **ユーザー名:** デバイスのユーザ名を入力します。
 - **パスワード:** デバイスのパスワードを入力します。
 - **注意:** デバイスのパスワードの強度をシステムでチェックすることができます。プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更することを強く推奨します。

The screenshot shows a dialog box titled 'Add' with a close button (X) in the top right corner. On the left side, there is a vertical sidebar with two steps: '1 Add Device' (highlighted in red) and '2 Assign Camera'. The main area of the dialog is for configuring the device. At the top, it says '* Adding Mode' with three radio buttons: 'IP/Domain Name' (selected), 'IP Segment', and 'Port Segment'. Below this, there are several fields with labels and status indicators (green checkmarks or red asterisks):

- * Manufacturer: A dropdown menu showing 'HIKVISION'.
- * Server Address: A text field containing 'www.hik-online.com' with a green checkmark.
- * Server Port: A text field containing '80' with a green checkmark.
- * Device Domain: A text field containing 'Smart Camera A' with a green checkmark.
- * Alias: A text field containing 'Smart Camera of Shop A' with a green checkmark.
- User Name: A text field containing 'admin'.
- Password: A text field with masked characters '.....' and a strength indicator below it showing 'High' with a green bar.

At the bottom right, there are two buttons: 'Add' (in a red box) and 'Cancel' (in a grey box).

6. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加し、エリア管理ウィンドウを開きます。
7. デバイスのエリア名をカスタマイズします。または**[エリアにエクスポート]**フィールドをクリックして既に存在するエリアを選択できます。
8. (オプション) ストリーム メディア サーバを選択してサーバ経由でデバイスのビデオ ストリームを取得できます。また**[新規追加]**をクリックしてストリーム メディア サーバを追加することもできます。
 - **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - **IP アドレス:** サーバの IP アドレスを入力します。
 - **コントロールポート:** サーバのコントロール ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **データポート:** サーバのデータ ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。

- **ネットワークポート:** サーバのネットワーク番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **WAN アクセスの有効化:** サーバに WAN 経由でアクセスする必要がある場合、チェックボックスをチェックして対応するパラメータを設定します。
9. (オプション) **[カメラ名の同期]** チェックボックスをチェックしてデバイスからカメラ名を取得します。
 10. (オプション) **[デバイスの録画スケジュールを取得]** チェックボックスをチェックしてローカルデバイスに設定されている録画スケジュールを取得します。すると、スケジュールに応じて録画タスクが自動的に実行されます。
 11. **[カメラの追加]** をクリックしてエリアに追加する対象(カメラやアラーム入力など)を選択します。 チェックボックスをチェックして対象を選択し、**[削除]** をクリックしてそれを削除したり、**[クリア]** をクリックしてすべての対象を削除することもできます。
 12. **[OK]** をクリックして設定を終了します。

Export to Area: Speed Dome-Door

Stream Media Server: SMS_10.16.1.15

Synchronize Camera Name: ☒

Get Device Recording Schedule: ☒

Please select the camera for allocation.

	Area	Channel	Stream Media Server
☐	Speed Dome-Door	IP Camera33_Speed Do...	
☐	Speed Dome-Door	IP Camera34_Speed Do...	
☐	Speed Dome-Door	IP Camera35_Speed Do...	
☐	Speed Dome-Door	IP Camera36_Speed Do...	
☐	Speed Dome-Door	IP Camera37_Speed Do...	

Buttons: OK, Cancel

デコーディング デバイスの追加

デコーディング デバイスの追加

目的:

システムにデコーディング デバイス(ビデオ ウォール コントローラおよびデコーダなど)を追加できます。

以下の方法でデバイスを追加することができます:

- オンライン デバイスを検知して追加を行うには以下を参照してください: [オンライン デバイスの追加](#)。
- デバイスの IP アドレスを指定して追加を行うには、以下を参照してください: [IP アドレスによるデバイスの追加](#)。

問題なく追加されたデバイスは管理用のデバイス リストに表示されます。

フィルタ フィールドにデバイス名を入力して検索することもできます。

デバイスの[エイリアス]フィールドをクリックしてデバイスの情報を編集または取得できます。

リストからデバイスを選択し[削除]をクリックすると選択されたデバイスを削除できます(複数可)。

必要に応じて[設定]をクリックし、リモート設定を行うことができます。 リモート設定についての詳細な操作手順については、デバイスのユーザ マニュアルを参照してください。

オンライン デバイスの追加

目的:

Web クライアントと同じローカル サブネットに属するアクティブなオンライン デコーディング デバイスがリストに表示されます。 [更新]ボタンをクリックしてオンライン デバイスの最新状態を取得できます。 デバイスのキーワードを入力して[検索]をクリックすると対応するデバイスが表示されます。

方法:

1. [物理ビュー]タブをクリックします。
2. [デコーディング デバイス]をクリックし、リストから追加されるデバイス(複数可)のチェックボックスをチェックします。
3. [追加]をクリックしてデバイス追加ダイアログ ボックスを開きます。
4. 必要な情報を入力します。

1 デバイスを追加する場合:

- **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
- **IP アドレス:** デバイスの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。
- **ポート番号:** デバイスのポート番号を入力します。 デフォルトでは、8000 番です。
- **キーボード番号:** ネットワーク キーボードに対応するユニークな番号(2 桁)を設定します。 これによりネットワーク キーボードはこの番号を用いて iVMS-5200 プロにアクセスし、対応するデコーディング デバイスを操作できるようになります。 ネットワーク キーボードによるデコーディング デバイスの操作の詳細手順については、ネットワーク キーボードのユーザマニュアルを参照してください。
- **ユーザー名:** デバイスのユーザ名を入力します。
- **パスワード:** デバイスのパスワードを入力します。

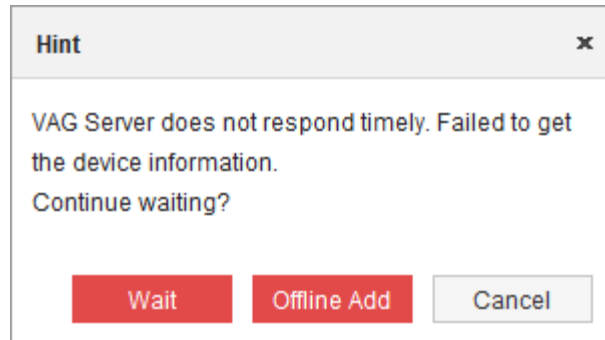
[OK]をクリックし、デバイス追加を完了します。

複数デバイスを追加する場合:

- **ユーザー名:** デバイスのユーザ名を入力します。
- **パスワード:** デバイスのパスワードを入力します。

[保存]をクリックし、デバイスの追加を確定します。

注意: 以下のダイアログボックスがポップアップした場合、VAG サーバが正しく動作するまで待つか、[オフライン追加]をクリックしてください。オフライン追加を選択した場合、[エイリアス](物理ビュー ページ)をクリックし、[更新]をクリックするとデバイスの詳細情報(カメラ番号、アラーム入力情報)などを取得することができます。



ネットワーク情報の変更

リストからデバイスを選択し、[ネットワークパラメータの変更]をクリックし、選択したデバイスのネットワーク情報を変更します。

注意: パスワードとはデバイスの管理者パスワードを指します。

デフォルトパスワードの復元

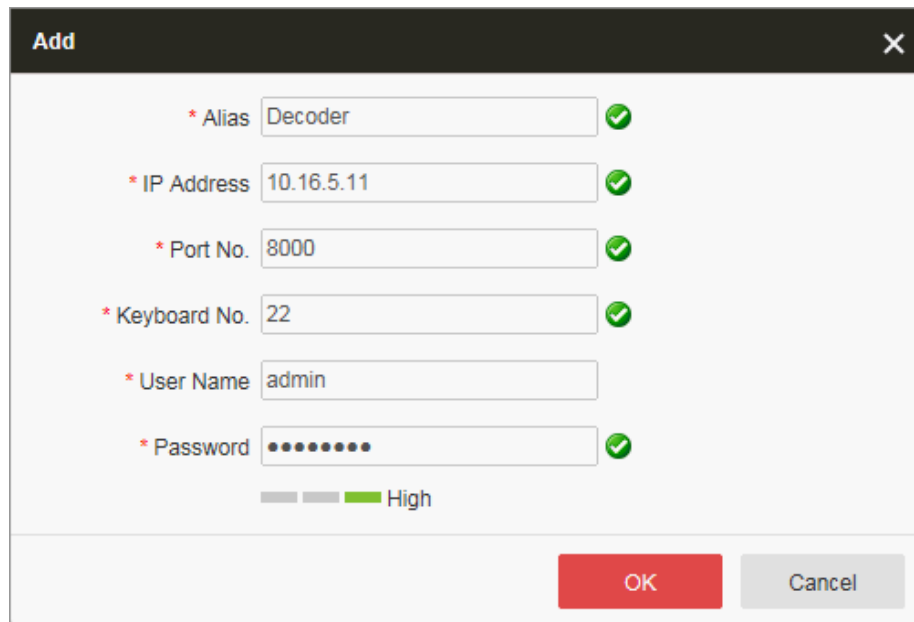
デバイスをリストから選択し、[デフォルトパスワードの復元]をクリックしてセキュリティコードを入力することで、選択したデバイスのデフォルトパスワードを復元できます。

注意: セキュリティコードはデバイスのデータとシリアル番号をメーカーに送ると返信されてきます。

IP アドレスによるデバイスの追加

方法:

1. [物理ビュー]タブをクリックします。
2. [デコーディング デバイス]をクリックし、[追加]をクリックしてデバイス追加ダイアログボックスを起動します。
3. 必要な情報を入力します。
 - **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - **IP アドレス:** デバイスの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。
 - **ポート番号:** デバイスのポート番号を入力します。デフォルトでは、8000 番です。
 - **キーボード番号:** ネットワーク キーボードに対応するユニークな番号(2 桁)を設定します。これによりネットワーク キーボードはこの番号を用いて iVMS-5200 プロにアクセスし、対応するデコーディング デバイスを操作できるようになります。ネットワーク キーボードによるデコーディング デバイスの操作の詳細手順については、ネットワーク キーボードのユーザマニュアルを参照してください。
 - **ユーザー名:** デバイスのユーザ名を入力します。
 - **パスワード:** デバイスのパスワードを入力します。



4. [OK]をクリックして設定を終了します。

スマート検知サーバの追加

目的:

ネットワーク カメラをスマート検知サーバに追加すると、追加されたデバイスはライン横断および侵入検知にアサインできます。ライン横断および侵入検知の設定については以下を参照してください: [ライン横断検知の設定](#) と [侵入検知の設定](#)。

始める前に:

スマート検知サーバをインストールしておく必要があります。

方法:

1. iVMS-5200 プロにスマート検知サーバを追加します。詳細な設定については、[IP アドレスまたはドメイン名によるデバイスの追加](#) を参照してください。
注意: スマート検知サーバの IP アドレスとは、スマート検知モジュールがインストールされた PC またはサーバの IP アドレスを指します。
2. スマート検知サーバの[設定]をクリックしてリモート設定インターフェイスを起動します。
3. インターフェイス左側の[システム]の下の[カメラ]をクリックし、ネットワーク カメラを追加します。
4. [追加]をクリックすると、ネットワーク カメラ追加ダイアログボックスがポップアップします。
5. 対応するパラメータを設定し、[次へ]をクリックしてカメラにリンクするための IP カメラ番号を設定します。
6. [保存] をクリックし、ネットワーク カメラの追加を完了します。
7. ステップ 4~6 を繰り返し、他のネットワーク カメラを追加します。最大で 32 台のカメラを追加できます。
注意: デバイスを選択し、[編集]をクリックすると編集できます。[削除]をクリックするとカメラを削除できます。

8. **[適用]**をクリックして設定を保存し、**[更新]**をクリックしてカメラの最新のステータスを取得します。

セントラルストレージサーバの追加

目的:

ビデオ ファイルを保存するために、iVMS-5200 プロに、ストレージサーバ、CVR(セントラル ビデオ レコーダー)および NVR(ネットワーク ビデオ レコーダー)を含むセントラルストレージサーバを追加できます。

方法:

1. **[物理ビュー]**タブをクリックします。
2. **[セントラルストレージサーバ]**をクリックし、**[追加]**をクリックしてサーバ追加ダイアログボックスを起動します。

The screenshot shows a dialog box titled "Add" with a close button (X) in the top right corner. The dialog contains the following fields and options:

- * Alias:** A text input field.
- * Type:** A dropdown menu with "Central Video Recorder" selected.
- * User Name:** A text input field containing "admin".
- * Password:** A password input field with six dots. Below it is a strength indicator showing a red bar and the text "Low".
- * Network Location:** Radio buttons for "LAN IP Address" (selected) and "WAN IP Address".
- * Address:** A text input field.
- * Control Port:** A text input field containing "2004".
- * Port No.:** A text input field containing "8000".
- Enable WAN Access:** A checkbox that is currently unchecked.

At the bottom right, there are two buttons: "OK" (red) and "Cancel" (gray).

3. 必要な情報を入力します。
 - **別名:** 任意のサーバ名を編集します。
 - **タイプ:** サーバ種別を選択します。
 - **ユーザー名:** 追加するセントラルストレージサーバのユーザ名を入力します。
 - **パスワード:** 追加するセントラルストレージサーバのパスワードを入力します。パスワードはシステムによってチェックされます。

注意: デバイスのパスワードの強度をシステムでチェックすることができます。 プライバシーのために、製品のセキュリティを

向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更することを強く推奨します。

ストレージサーバを追加する場合

- **ネットワークロケーション:** ストレージサーバが CMS と同じ LAN にある場合、LAN IP アドレスを選択します。そうでない場合、WAN IP アドレスを選択します。
- **アドレス:** CMS と通信できるようにサーバの IP アドレスを入力します。
- **コントロールポート:** サーバのコントロール ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
- **データポート:** サーバのデータ ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
- **ネットワークポート:** サーバのネットワーク番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
- **画像ストレージポート:** サーバ画像を保存するためのポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。この項目はストレージサーバの場合にのみ利用できます。
- **WAN アクセスの有効化:** WAN を経由してサーバにアクセスする必要がある場合、チェックボックスをチェックして、WAN 経由でサーバにアクセスする場合に利用できる対応パラメータを設定します。

注意: このフィールドはネットワーク ロケーションが LAN IP アドレスの場合にのみ利用できます。

セントラル ビデオ レコーダーの追加

- **ユーザー名:** サーバのユーザ名を入力します。
- **パスワード:** サーバのパスワードを入力します。

注意: デバイスのパスワードの強度をシステムでチェックすることができます。プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更することを強く推奨します。

- **ネットワークロケーション:** ストレージサーバが CMS と同じ LAN にある場合、LAN IP アドレスを選択します。そうでない場合、WAN IP アドレスを選択します。
- **IP アドレス:** CMS と通信できるようにサーバの IP アドレスを入力します。
- **コントロールポート:** サーバのコントロール ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
- **ポート番号:** サーバのポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
- **WAN アクセスの有効化:** WAN を経由してサーバにアクセスする必要がある場合、チェックボックスをチェックして、WAN 経由でサーバにアクセスする場合に利用できる対応パラメータを設定します。

注意: このフィールドはネットワーク ロケーションが LAN IP アドレスの場合にのみ利用できます。

ネットワーク ビデオ レコーダーを追加する場合

- **ネットワークロケーション:** ネットワーク ビデオ レコーダーが CMS と同じ LAN にある場合、LAN IP アドレスを選択します。そうでない場合、WAN IP アドレスを選択します。
- **アドレス:** サーバの IP アドレスを入力します。
- **コントロールポート:** サーバのコントロール ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
- **ポート番号:** サーバのポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
- **WAN アクセスの有効化:** WAN を経由してサーバにアクセスする必要がある場合、チェックボックスをチェックして、WAN 経由でサーバにアクセスする場合に利用できる対応パラメータを設定します。

注意: NVR をエンコーディング デバイスとして追加している場合、それをセントラル ストレージ サーバとして追加することは推奨されません。逆も同様です。

4. [OK]をクリックし、サーバを追加します。

問題なく追加されたサーバは管理用のサーバ リストに表示されます。追加されたサーバの関連情報はリスト上で確認できます。

フィルタ フィールドにサーバ名を入力して検索することもできます。

サーバの[エイリアス]フィールドをクリックしてサーバの情報を編集できます。

リストからサーバを選択し[削除]をクリックすると選択されたサーバを削除できます(複数可)。

ストレージ サーバの場合、録画ファイルや画像を保存する前に[設定]をクリックしてストレージ スペースを割り当ててください。詳細な操作手順については以下を参照してください: [ストレージ サーバにストレージ スペースを割り当てるには](#)。

注意:

- ストレージ サーバの 1 つのディスクの容量は 100GB から 8TB の範囲です。
- ストレージ サーバのディスクの総容量は 100GB から 80TB の範囲です。
- ストレージ サーバがサポートしているディスク ファイル システムには NTFS と exFAT が含まれます。デフォルトでは、NTFS です。
- ストレージ サーバは iSCSI プロトコル(IP SAN)に対応し、マウントされたネットワーク ディスクを利用することができます。その他のネットワーク ディスクはストレージ サーバには利用できません。

ネットワーク ビデオ レコーダーの場合、[設定]をクリックし、NVR のログイン インターフェイスが表示されます。NVR にログインし、管理を行うことができます。設定の詳細については NVR のユーザ マニュアルを参照してください。

セントラル ビデオ レコーダーの場合、[設定]をクリックし、CVR のログイン インターフェイスが表示されます。CVR にログインし、管理

を行うことができます。設定の詳細についてはセントラル ビデオ レコーダーのユーザ マニュアルを参照してください。セントラル ビデオ レコーダーに CVR ストレージ設定がなされていない場合、[ワンタッチ設定]をクリックすると、カメラのビデオ ファイルをセントラル ビデオ レコーダーに保存することができます。

CVR N+1 設定

複数の CVR によって、N+1 ホットスペア システムを構築することができます。このシステムは複数のワーキング CVR と 1 つのホットスペア CVR から構成されます。ワーキング CVR に障害が発生した場合、ホットスペア CVR が運用モードに切り替わるので、iVMS-5200 プロのビデオ ストレージの信頼性が向上します。

注意:

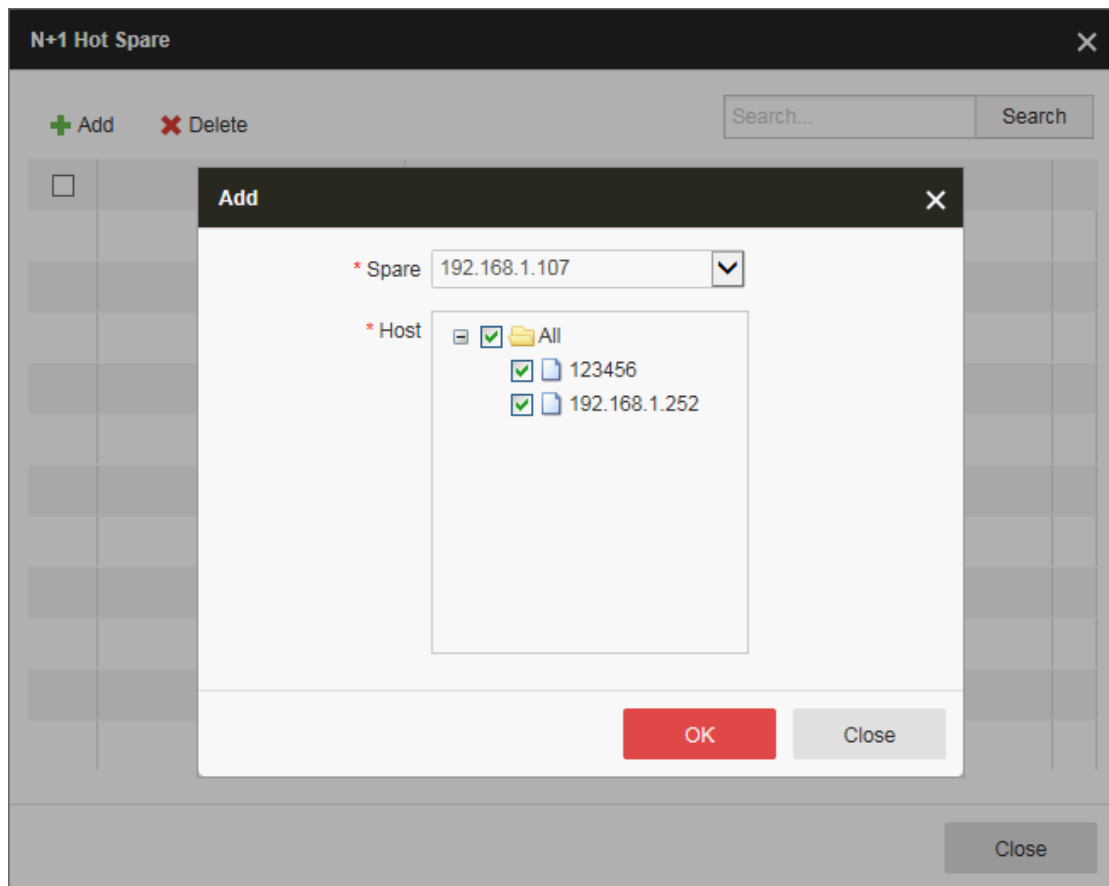
- N+1 ホットスペア システムを構築するには少なくとも 2 つのオンライン CVR を追加する必要があります。
- スペア CVR はワーキング CVR に切り替わるまではビデオの保存には選択できません。
- ワーキング CVR はスペア CVR として設定することはできず、スペア CVR はワーキング CVR として設定することはできません。

方法:

1. セントラル ストレージ サーバ ページ上で[N+1 ホットスペア]をクリックすると N+1 ホットスペア ダイアログがポップアップします。
2. [追加]をクリックして N+1 ホットスペアを設定します。
3. ドロップダウンリストから CVR を選択し、スペア CVR として設定します。
4. チェックボックスをチェックして CVR を選択し、ワーキング CVR として設定します(複数可)。
5. [OK]をクリックして設定を保存します。

N+1 ホットスペア ダイアログでスペア CVR をクリックして設定を編集できます。対象の N+1 ホットスペアを選択して[削除]をクリックすると、N+1 ホットスペア設定をキャンセルすることができます。

注意: N+1 ホットスペアをキャンセルすると、ホットスペアの関連付けがすべてキャンセルされ、スペア CVR 上の録画スケジュールがクリアされます。



ストリーム メディア サーバの追加

目的:

iVMS-5200 プロに SMS(ストレージ メディア サーバ)を追加することができます。

方法:

1. [物理ビュー]タブをクリックします。
2. [ストレージメディア サーバ]をクリックし、[追加]をクリックしてサーバ追加ダイアログボックスを起動します。

Add [X]

* Alias

* Network Location ☒ LAN IP Address ☐ WAN IP Address

* Address

* Control Port

* Data Port

* Network Port

Enable WAN Access ☐

OK Cancel

3. 必要な情報を入力します。
- **別名:** 任意のサーバ名を編集します。
 - **ネットワークロケーション:** SMS と CMS が同じ LAN にある場合、LAN IP アドレスを選択します。 そうでない場合、WAN IP アドレスを選択します。
 - **アドレス:** CMS と通信できるように SMS の IP アドレスを入力します。
 - **コントロールポート:** サーバのコントロール ポート番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **データポート:** サーバのデータ ポート番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **ネットワークポート:** サーバのネットワーク番号を入力します。 変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **WAN アクセスの有効化:** WAN を経由してサーバにアクセスする必要がある場合、チェックボックスをチェックして、WAN 経由でサーバにアクセスする場合に利用できる対応パラメータを設定します。

注意: このフィールドはネットワーク ロケーションが LAN IP アドレスの場合にのみ利用できます。

4. [OK]をクリックし、サーバを追加します。

問題なく追加されたサーバは管理用のサーバリストに表示されます。
追加されたサーバの関連情報はリスト上で確認できます。

フィルタ フィールドにサーバ名を入力して検索することもできます。

サーバの[エイリアス]フィールドをクリックしてサーバの情報を編集
できます。

リストからサーバを選択し[削除]をクリックすると選択されたサーバを削除できます(複数可)。

モバイル端末の追加

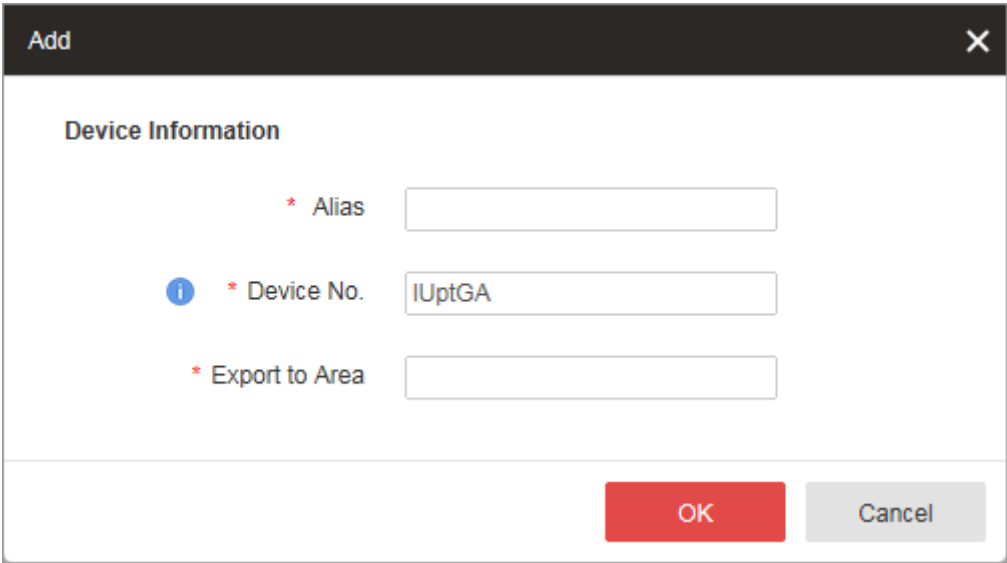
目的:

モバイル端末(携帯電話およびタブレット)をシステムに追加し、モバイル端末からアップロードされるビデオを確認できます。

注意: ビデオ アップロード機能を正しく実行するためにはモバイル端末には iVMS-5200 モバイル クライアントをインストールしておく必要があります。アップロードされたビデオの確認するにはコントロール クライアントに移動してください。

方法:

1. [物理ビュー]タブをクリックします。
2. [モバイル端末]をクリックし、[追加]をクリックしてデバイス追加ダイアログボックスを起動します。



The screenshot shows a dialog box titled "Add" with a close button (X) in the top right corner. The main content area is titled "Device Information". It contains three input fields, each preceded by a red asterisk (*):

- Alias:** An empty text input field.
- Device No.:** A text input field containing the value "IUptGA". To the left of the label is a blue circular icon with a white lowercase 'i'.
- Export to Area:** An empty text input field.

At the bottom right of the dialog, there are two buttons: a red "OK" button and a grey "Cancel" button.

3. 必要な情報を入力します。
 - **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - **デバイス番号:** モバイル端末の一意な識別番号で、デフォルトではシステムが生成します。任意に編集して一意な値を設定することもできます。モバイル クライアントからのビデオのアップロードを有効にする際に必要になります。
 - **エリアにエクスポート:** フィールドをクリックしてモバイル端末を追加する既存のエリアを選択します。[検索]をクリックして目的のエリアを見つけるためのキーワードを入力することもできます。
4. [OK]をクリックしてシステムにモバイル端末を追加します。

モバイル端末のエイリアス フィールドをクリックしてデバイスの情報を編集または取得することができます。

リストから端末を選択し[削除]をクリックすると選択された端末を削除できます(複数可)。

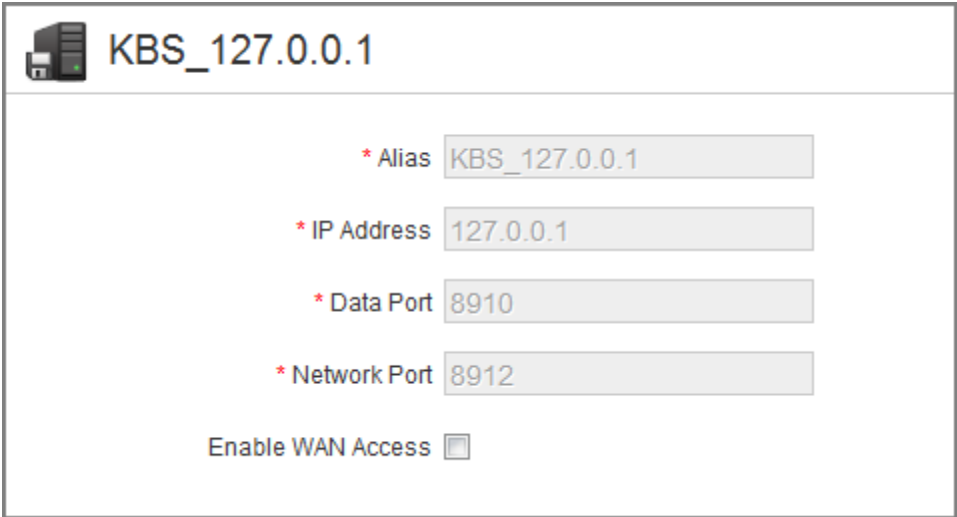
キーボード サーバの編集

目的:

KBS(キーボード サーバ)はネットワーク キーボードの追加とビデオ ウォールのコントロールのためのモジュールで、CMS に含まれています。KBS 情報の確認、KBS への WAN アクセスのためのパラメータの編集ができます。

方法:

1. [物理ビュー]タブをクリックします。
2. [キーボードサーバ]をクリックすると KBS がリストされます。[エイリアス]フィールドをクリックするとサーバの詳細情報が表示されます。



The screenshot displays the configuration page for a KBS (Keyboard Server) with the title 'KBS_127.0.0.1'. It contains four input fields, each preceded by a red asterisk indicating they are required:

- * Alias: KBS_127.0.0.1
- * IP Address: 127.0.0.1
- * Data Port: 8910
- * Network Port: 8912

At the bottom, there is a checkbox labeled 'Enable WAN Access' which is currently unchecked.

3. (オプション) チェックボックスをチェックして、WAN 経由でサーバにアクセスする場合に利用できる対応パラメータを設定します。
 - **IP アドレス:** WAN アクセスのためのサーバの IP アドレスを入力します。
 - **データポート:** サーバのデータ ポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **ネットワークポート:** サーバのネットワーク番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
4. [保存]をクリックし、サーバを編集します。または[戻る]をクリックして設定を保存せずに戻ります。

エリア管理

目的:

エンコーディング デバイスの簡便な管理のためにはエリアにまとめる必要があります。エンコーディング デバイスをエリアごとに管理すると、ライブビューの取得、録画ファイルの再生など、デバイスの操作を行うことができます。

始める前に:

エリア管理のためにはエンコーディング デバイスを iVMS-5200 プロに追加しておく必要があります。デバイス追加の設定の詳細については、[エンコーディング デバイスの追加](#) を参照してください。

[論理ビュー] タブをクリックし、エリア管理インターフェイスを開きます。



Area Name	Encoding Channel	Alarm Input	Alarm Output	POS
10.18.147.137	4	0	0	0
10.18.147.135	13	39	22	0
10.18.133.45	1	0	0	0
10.18.137.108	0	0	0	0
QBY	0	0	0	0
MSM	1	0	0	0
ANPR	16	0	0	0
Canon172.10.12.102	0	0	0	0
Canon172.10.12.106	0	0	0	0
canon172.10.12.105	0	0	0	0
canon172.10.12.99	0	0	0	0
canon172.10.12.100	0	0	0	0
dahua172.10.42.110	0	0	0	0
dahua172.10.42.112	0	0	0	0
canon172.10.12.105	0	0	0	0
canon	0	0	0	0

エリアの追加

方法:

1.  をクリックしてエリア追加ダイアログボックスを開きます。

2. **[上位]**ドロップダウンリストから親エリアを選択します。
3. 任意のエリア名を入力します。
4. オプションとして、エリアでストレージメディアサーバを選択し、サーバ経由でこのエリアに属するカメラのビデオストリームを取得することもできます。また**[新規追加]**をクリックしてストリームメディアサーバを追加することもできます。
 - **別名:** 希望に応じて、デバイスの名前を編集します。
 - **ネットワークロケーション:** SMS と CMS が同じ LAN にある場合、LAN IP アドレスを選択します。そうでない場合、WAN IP アドレスを選択します。
 - **IP アドレス:** CMS と通信できるように SMS の IP アドレスを入力します。
 - **コントロールポート:** サーバのコントロールポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **データポート:** サーバのデータポート番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **ネットワークポート:** サーバのネットワーク番号を入力します。変更しない場合、デフォルト値を使用してください。
 - **WAN アクセスの有効化:** サーバに WAN 経由でアクセスする必要がある場合、チェックボックスをチェックして対応するパラメータを設定します。
5. **[保存]**をクリックし、新規エリアを追加します。
エリアを選択してクリックし、エリアを編集することもできます。

エリアにカメラ/アラーム入力/アラーム出力/POS を追加する

方法:

1. エリア ツリー パネル上でクリックしてエリアの要素を選択します。要素とはエリアに属するエンコーディングチャンネル、アラーム入力、アラーム出力および POS のことです。
2. **[追加]**をクリックするとダイアログボックスがポップアップします。

カメラ/アラーム入力/アラーム出力を追加する場合:

- I. チェックボックスをチェックし、追加する要素(複数可)を選択します
- II. (オプション) **[カメラ名の同期]**チェックボックスをチェックしてデバイスからカメラ名を取得します。
- III. (オプション) **[デバイスの録画スケジュールを取得]**チェックボックスをチェックしてローカルデバイスに設定されている録画スケジュールを取得します。すると、スケジュールに応じて録画タスクが自動的に実行されます。
- IV. **[OK]**をクリックして設定を保存します。

POS を追加する場合:

- I. 必要なパラメータを入力します。
 - **名前:** 任意の名前を入力します。
 - **IP アドレス:** POS 端末の IP アドレスを入力します。
 - **リンクされたカメラ:** POS 端末にリンクするエリアのカメラを選択します。
 - **プロトコルタイプ:** POS を端末に接続するプロトコルを選択します。
- II. [OK]をクリックして設定を保存します。

注意:

- 1つのエリアには最大 64 台のカメラを追加できます。
- 1つのカメラ、アラーム入力、アラーム出力および POS は 1つのエリアにしか追加できません。テキストフィールドにキーワードを入力し、**[検索]**をクリックして必要なデバイス、カメラ、アラーム入力、アラーム出力または POS を検索できます。

カメラの設定

エリア リストからカメラを選択し、チェックボックスをチェックしてカメラを選択して**[カメラ名を同期]**をクリックし、デバイスからカメラ名を取得します。

スピード ドーム リンクをサポートしたフィッシュアイ カメラの場合、リンクするスピード ドームを設定することができます。

1. フィッシュアイ カメラの名前フィールドをクリックし、カメラ詳細インターフェイスに入ります。
2. **[設定]**をクリックするとフィッシュアイ カメラのリモート設定インターフェイスがポップアップし、スピード ドーム リンクが設定できます。手順の詳細についてはフィッシュアイ カメラのユーザマニュアルをご覧ください。

注意: リンクするスピード ドームが iVMS-5200 プロに追加されていない場合、まず物理ビューに移動して追加してください(以下参照: [エンコーディング デバイスの追加](#))。

Camera Information

* Camera Name

* Stream Type

* Protocol Type

Keyboard No.

Linked Camera

カメラ/アラーム入力/アラーム出力/POS を編集する

方法:

1. 要素を選択し、[名前]フィールドをクリックして要素のパラメータを編集します。
2. 対応する情報を編集します。
カメラの場合: 名前、ストリーム種別、プロトコル種別およびキーボード番号(オプション)を編集できます。録画やカメラのイベント設定の確認もできます。カメラに録画スケジュールやイベント設定がされていない場合、[録画設定]をクリックして録画スケジュールを設定できます(以下参照: [録画スケジュール設定](#))。または[イベント設定]をクリックし、イベント設定を行うこともできます(以下参照 [イベント設定](#))。
 - **キーボード番号:** ネットワーク キーボードに対応するユニークな番号(2桁)を設定します。これによりネットワーク キーボードはこの番号を用いて iVMS-5200 プロにアクセスし、対応するビデオ ウォール上のカメラのビデオを表示できるようになります。ネットワーク キーボードによるカメラの操作の詳細手順については、ネットワーク キーボードのユーザマニュアルを参照してください。
アラーム入力の場合: アラーム入力の名前を編集することができます。イベント設定の確認もできます。アラーム入力にイベント設定がされていない場合、[イベント設定]をクリックしてイベント設定を行えます(以下参照: [アラーム入力リンクの設定](#))。
アラーム出力の場合: アラーム出力の名前を編集することができます。
POS の場合: 名前、IP アドレス、リンクするカメラおよびプロトコル種別が編集できます。イベント設定の確認もできます。POS 端末にイベント設定がされていない場合、[イベント設定]をクリックしてイベント設定を行えます(以下参照: [POS 端末アラーム リンクの設定](#))。
3. [保存] をクリックし、新しい設定を保存します。
エンコーディング デバイス欄のフィールドをクリックしてデバイスの詳細を確認することもできます。

エリアからカメラ/アラーム入力/アラーム出力/POS を削除する

方法:

1. 要素を選択します。
2. チェックボックスをチェックして対象を選択し、[削除]をクリックして対象をエリアから削除します(複数可)。

エリアの削除

方法:

1. エリア ツリー パネルからエリアを選択します。
2.  をクリックすると選択したエリアが削除されます。

機能モジュールの追加

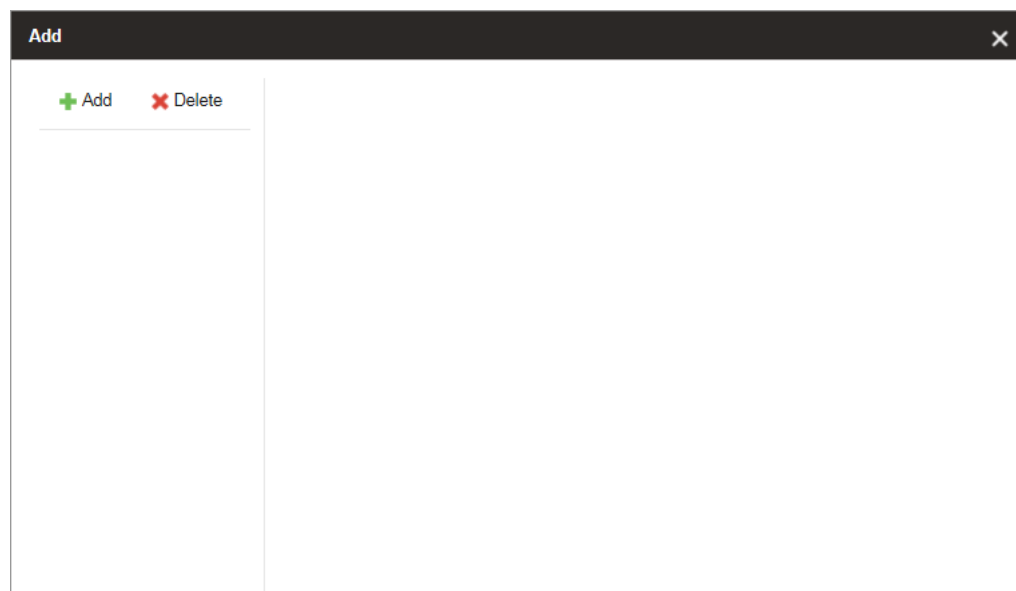
目的:

機能モジュール(モバイル監視と ANPR(自動ナンバープレート識別))を iVMS-5200 プロに追加することで、ビデオ監視システムに強力な機能を、容易に連携させることができます。

方法:

1. ホームページ上で  をクリックすると機能モジュール追加ダイアログがポップアップします。

機能モジュールがすでに追加されている場合、その情報を確認したり、パラメータを編集したりすることができます。



2. **[追加]**をクリックし、追加する機能モジュール種別を選択して**[OK]**をクリックしてください。
3. 必要な情報を入力します。
 - **サーバアドレス:** 機能モジュールのアドレスを入力します。
 - **サーバポート:** 機能モジュールのポート番号を入力します。デフォルトでは、80 番です。
 - **WAN アクセスの有効化:** WAN を経由して機能モジュールにアクセスする必要がある場合、チェックボックスをチェックして、WAN 経由でサーバにアクセスする場合に利用できる対応パラメータを設定します。

The screenshot shows a dialog box titled "Add" with a close button (X) in the top right corner. The dialog is divided into two main areas. On the left, there is a list area with a "+ Add" button and a "- Delete" button. On the right, there are several form fields: "Alias" with the value "Mobile Surveillance", "Server Address" with the value "10.19.18.46", "Server Port" with the value "80", "Enable WAN Access" with a checked checkbox, another "Server Address" with the value "115.10.33.89" and a green checkmark icon to its right, and another "Server Port" with the value "80". A red "Save" button is located at the bottom right of the dialog.

4. **[保存]**をクリックして機能モジュールを追加し、ホームページに戻ります。

追加された機能モジュールのタブをクリックするとその機能を表示できます。詳細情報および機能モジュールの設定についてはユーザ マニュアルを参照してください。

追加した機能モジュールの情報を確認したい場合およびパラメータの編集を行う場合には、**+**をクリックして対応するモジュールを選択してください。

録画スケジュール設定

録画スケジュール設定

目的:

ビデオ ストレージ デバイス(例: HDD、Net HDD、SD/SDHC カード)がローカル デバイス上にある場合、またはセントラル ストレージ サーバ(ストレージ サーバ、セントラル ビデオ レコーダーまたはネットワーク ビデオ レコーダー)が利用可能である場合、カメラの録画スケジュールを設定し、連続的、アラーム契機またはコマンド契機による録画を行わせることができます。

[録画スケジュール]タブをクリックして録画スケジュール ページを開きます。

録画スケジュールが設定されたすべてのカメラを確認することができます。エリアをクリックしてそのエリアのカメラの録画スケジュールを確認することもできます。

Recording Schedule	Camera Name	Area	Storage Location	Apply N+1 Settings
☐ Configured	Camera 01	10.18.147.135	LOCAL	
☐ Configured	Camera 05	10.18.147.135	LOCAL	
☐ Configured	Camera 06	10.18.147.135	LOCAL	
☐ Configured	Camera 07	10.18.147.135	LOCAL	
☐ Configured	Camera 08	10.18.147.135	LOCAL	
☐ Configured	Camera 09	10.18.147.135	LOCAL	
☐ Configured	Camera 10	10.18.147.135	LOCAL	
☐ Configured	IPCamera 05	10.18.147.135	LOCAL	
☐ Configured	ZeroChan 1	10.18.147.135	Storage Server_192.10.40.100	
☐ Configured	Camera1_Fisheye	Fisheye	Storage Server_192.10.40.100	

カメラの録画スケジュール設定

目的:

iVMS-5200 プロは設定された録画スケジュールにもとづくカメラのビデオ ファイルの保存に対して、2つのストレージ方式(ローカル デバイスへの保存とセントラル ストレージ サーバ(ストレージ サーバ、セントラル ビデオ サーバまたはネットワーク ビデオ レコーダー)への保存)を提供しています。

始める前に:

- ローカル デバイスの場合:

DVR、NVR、ネットワーク カメラなどのローカル デバイスは、録画ファイル用の HDD、Net HDD、SD/SDHC カードのようなストレージ デバイスを備えていなければなりません。新たにインストールされたストレージ デバイスはフォーマットする必要があります。デバイスのリモート設定ページ([物理ビュー] -> [設定])から、[ストレージ] -> [一般]をクリックし、HDD、NetHDD または SD/SDHC カードを選択します。[フォーマット]をクリックして、選択したストレージ デバイスを初期化します。

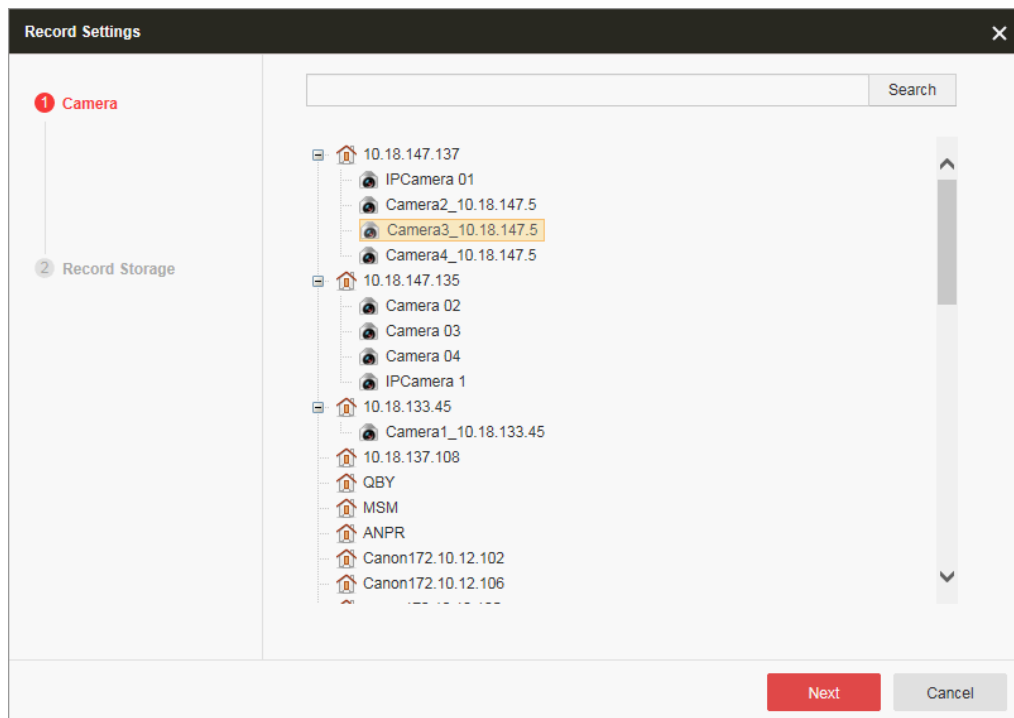
- セントラルストレージ サーバの場合:

少なくとも 1 つの利用可能なセントラル ストレージ サーバが iVMS-iVMS-5200 プロに追加されていなければなりません。iVMS-5200 ソフトウェアのインストール時に、[ストレージ サーバ]チェックボックスをチェックし、ストレージ サーバのインストールを有効にしてください。セントラル ストレージ サーバの追加については以下を参照してください: [セントラル ストレージ サーバの追加](#)。

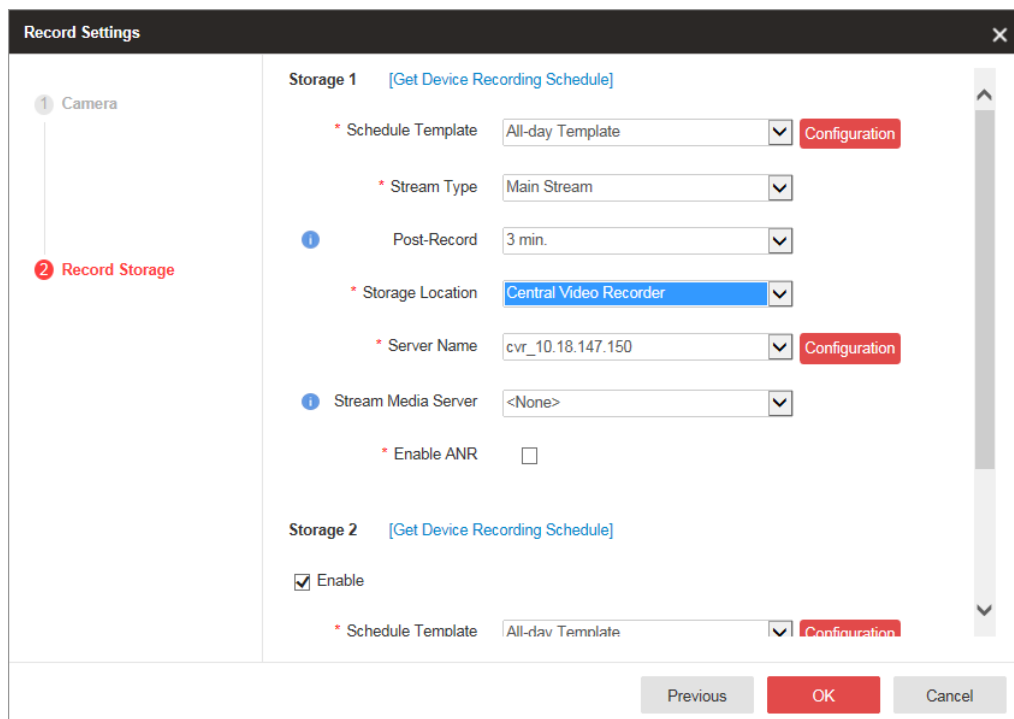
方法:

1. 録画スケジュール ページを開きます。
2. エリアを選択し、[追加]をクリックすると録画設定ウィンドウがポップアップします。

注意: どのカメラにも録画スケジュールが設定されていない場合、[録画スケジュール設定]をクリックして録画設定ウィンドウを起動します。



3. 録画設定を行うカメラをクリックして選択します。
4. **[次へ]**をクリックして録画スケジュールとストレージ ロケーションを設定します。 デフォルトではストレージ 1 が有効化されています。



5. **[デバイス録画スケジュールの取得]**チェックボックスをチェックしてローカル デバイス上に設定された録画スケジュールを取得することができます。 または以下の手順を実行して任意の録画スケジュールを設定することができます。
6. ストレージ 1 用の録画スケジュール テンプレートを選択します。
 - **全日テンプレート:** 一週間を通じた一日中、継続的に行う録画です。
 - **平日テンプレート:** 月曜日から金曜日まで、一日中、継続的に行う録画です。

- **週末テンプレート**: 土曜日から日曜日の間、一日中、継続的に行う録画です。
- **テンプレート 01-08**: テンプレートを任意に編集できます。**[設定]**をクリックして録画スケジュール テンプレート インターフェイスを開きます。詳細な設定については以下を参照してください: [録画スケジュール テンプレートの設定](#)。

7. 録画のストリーム種別を選択します。
8. 検知されたイベントに続く時間帯のビデオ録画を行う、事後録画時間を設定します。
9. ストレージ ロケーションを選択します。ビデオ ファイルは、ローカル デバイス(エンコーディング デバイス)上またはストレージ サーバ、セントラル ビデオ レコーダー またはネットワーク ビデオ レコーダーのいずれかを選択して保存することができます。

[**ストレージ サーバ**]、[**セントラル ビデオ レコーダー**]または[**ネットワーク ビデオ レコーダー**]を選択した場合、サーバを選択し、(オプション)カメラのビデオ ストリームを経由させるストリーム メディア サーバを選択してください。

[**設定**]をクリックすると選択したセントラル ストレージ サーバの管理が行えます。ストレージ サーバへのストレージ スペースの割り当て方法については、[ストレージ サーバにストレージ スペースを割り当てるには](#) を参照してください。

セントラル ビデオ レコーダーの詳細設定についてはセントラル ビデオ レコーダーのユーザ マニュアルを参照してください。

ネットワーク ビデオ レコーダーの詳細設定については NVR のユーザ マニュアルを参照してください。

または[**サーバ名**]または[**ストリーム メディア サーバ**]のドロップダウンリストから[**新規追加**]をクリックして新しいセントラル ストレージ サーバまたはストリーム メディア サーバを追加することができます。

セントラル ストレージ サーバ追加の詳細な手順については、[セントラル ストレージ サーバの追加](#) を参照してください。ストリーム メディア サーバ追加の詳細な手順については、[ストリーム メディア サーバの追加](#) を参照してください。

10. ストレージ ロケーションとして CVR を選択した場合、[**ANR を有効化**]をチェックすると、ネットワーク自動補填機能をオンにし、ネットワーク障害時にはビデオを一時的にカメラに保存し、ネットワーク回復時に自動的にビデオを CVR に転送させることができます。
11. (オプション) ストレージ 2 の[**有効化**]チェックボックスをチェックして関連パラメータを設定すると録画ファイル用に別のストレージ ロケーションを設定することができます(手順 5~8 を参照)。

例: ストレージ 1 のストレージ ロケーションをストレージ サーバを選択する場合、ストレージ 2 にはエンコーディング デバイス、セントラル ビデオ レコーダーまたはネットワーク ビデオ レコーダーしか選択できません。逆も同様です。

12. [**OK**]をクリックして設定を保存します。

カメラの録画設定を行った後、エリアの下に録画スケジュールの項目が表示されます。

録画スケジュールの項目をクリックして選択し、[削除]をクリックすると、それを削除することができます。

録画スケジュールの編集については、[カメラ名]フィールドをクリックして録画スケジュールを任意に編集してください。オプションとして、[コピー先...]をクリックすると、録画スケジュールをこのエリアの中の他のカメラにコピーできます。

録画スケジュール テンプレートの設定

カスタマイズした録画スケジュール テンプレートを設定する必要がある場合、以下の手順を実行してください:

方法:

1. 録画設定を行っている際に、スケジュール テンプレートの項目に対する[設定]をクリックしてください。テンプレート 01-08 を編集できます。
2. 設定するテンプレートを選択するとテンプレート名が編集できます。
3. [録画種別]ボタンをクリックし、タイム バーの上でクリックアンドドラッグすると、録画スケジュールを設定できます。設定された時間帯をクリックして選択すると、厳密な時間のポイントが表示されます。

[スケジュール録画]は連続的な録画のことです。スケジュール タイムバーは青い色でマークされます。

[イベント録画]はイベント(例: アラーム入力または動体検知)によってトリガーされる録画のことです。スケジュール タイムバーは赤い色でマークされます。

4. オプションとして、スケジュールの時間帯を選択し、[削除]をクリックして選択した時間帯を削除することができます。あるいは[すべて削除]をクリックしてすべての時間帯を削除することもできます。[コピー先...]をクリックし、時間帯の設定を他の日付にコピーできます。
5. [OK]をクリックして設定を保存します。

注意: 録画スケジュールでは、各日について最大 8 つの時間帯を設定できます。

イベントおよびアラーム設定

イベントおよびアラーム設定

目的:

iVMS-5200 Web クライアントで検知されたイベントに対するリンク アクションを設定できます。イベントはアラームとして保存することもできます。 イベントおよびアラームに対してそれぞれ個別にリンク アクションを設定することができます。 たとえば、動体検知はイベントおよびアラームの両方として設定でき、動体検知が発生した場合、イベントのリンク アクションとアラームのリンク アクションが両方トリガーされます。 イベントおよびアラームのアラーム情報は iVMS-5200 コントロール クライアントで受信できます。アラーム通知確認の詳細な情報については *iVMS-5200 コントロール クライアントのユーザ マニュアル*を参照してください。

[イベント]タブをクリックすると、イベントおよびアラーム設定ページが開きます。

Event Name	Event Type	Event Property	Area	Camera	Alarm	Upload to Center
☐ Camera 01_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	Camera 01	✓	✓
☐ Camera 02_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	Camera 02	✓	✓
☐ Camera 03_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	Camera 03	✓	✓
☐ Camera 04_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	Camera 04	✓	✓
☐ Camera 05_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	Camera 05	✓	✓
☐ Camera 06_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	Camera 06	✓	✓
☐ Camera 07_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	Camera 07	✓	✓
☐ Camera 08_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	Camera 08	✓	✓
☐ Camera 09_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	Camera 09	✓	✓
☐ Camera 10_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	Camera 10	✓	✓
☐ IPCamera 1_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	IPCamera 1	✓	✓
☐ IPCamera 05_Scene Change	Scene Change		10.18.147.135	IPCamera 05	✓	✓
☐ Camera1_10.18.133.45_Line Cros...	Line Crossing Detection		10.18.133.45	Camera1_10.18.133.45	✗	✗

以下のイベントに対して様々なリンク アクションを設定できます:

- カメラ イベント
- トランザクション イベント
- アラーム入力 イベント
- デバイス異常
- サーバ異常
- カスタム イベント

注意:

- カメラ イベントとは、ビデオ異常または動体検知、ビデオ損失、ライン横断など、カメラの監視エリア内で検知されたイベントのことを指します。
- カスタム イベントを選択すると、新しいイベントを作成して受信した TCP または UDP データパッケージを解析し、特定の条件に合致したときにイベントをトリガーさせるように、ルールをカスタマイズすることができます。このようにしてお使いのシステムをアクセス コントロール システムやアラーム システムなど、広範な外部ソースと容易に統合することができます。

カメラ イベント アラームの設定

注意: カメラ イベントの種別は接続されたデバイスによって異なります。

目的:

カメラ イベントとは、ビデオ異常または動体検知、ビデオ損失、ライン横断など、カメラの監視エリア内で検知されたイベントのことを指します。通知目的で検知されるイベントに対してリンク アクションを設定することができます。

例: 動体検知アラームはカメラが定義されたエリアの中での動きを検知した時にトリガーされます。録画および E メール通知のようなリンク アクションを設定できます。

方法:

1. イベント設定ページを開き、イベント パネル上の**[カメラ]**を選択します。イベントの設定がリスト上に表示されます。
2. **[追加]**をクリックすると、イベント設定ウィンドウがポップアップします。

3. [カメラ]フィールドでイベントを設定するカメラを選択します。キーワードを入力して**[検索]**をクリックするとカメラを検索することができます。
4. カメラのイベント種別を選択します。
5. **[設定]**をクリックすると、ポップアップインターフェイス上でイベントのパラメータを設定できます。イベント設定が正しく行われている場合、この手順はスキップすることができます。

注意: イベント設定についての詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

6. イベント名を任意に編集します。
7. **[追加]**をクリックし、イベントのリンクアクション設定を行います。詳細については表: カメライベント/アラーム向けリンク アクションを参照してください。
8. **[保存]**をクリックするとイベントの設定が保存されます。または、イベントをアラームとしても保存したい場合、**[次へ]**をクリックし、以下の手順を実行してください。
9. アラームのスケジュール テンプレートを選択します。設定されたスケジュールの間、受信したアラームがシステムによって処理されます(音声警報など)。
 - **全日テンプレート:** 週全体にわたる、全日の警戒スケジュールです。
 - **平日テンプレート:** 月曜日から金曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **週末テンプレート:** 土曜日から日曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **テンプレート 01-08:** テンプレートを任意に編集できます。**[設定]**をクリックして警戒スケジュール テンプレート インターフェイスを開きます。詳細な設定については以下を参照してください: [警戒スケジュール テンプレートの設定](#)。

注意: 設定されたスケジュールの間、イベント リンク アクションおよびアラーム リンク アクションの両方がイベントが検知された場合にト

リガーされます。他の時間帯については、イベント リンク アクショ
ンのみがトリガーされます。

Add

1 Event Information

2 Save as Alarm

Alarm Information

Schedule Template

All-day Template

Configuration

Level

High

Medium

Low

Upload to Center

☒

Alarm Linkage

Add

Delete

Linkage Action

Link to

Previous

Save

Cancel

10. 実際の必要に応じてアラーム レベルを選択してください。
11. RSMにアラーム情報をアップロードしたい場合、[センターにアップロード]チェックボックスをチェックすると、アラーム情報はコントロール クライアント経由で確認できます。
12. [追加]をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。詳細については表: カメライベント向けリンク アクションを参照してください。
13. 保存をクリックして設定を保存します。

表: カメラ イベント アラーム向けリンク アクション

リンク アクション	説明
カメラのポップアップ画像を起動	アラームがトリガーされると、選択されたカメラ(複数可)のライブビデオがポップアップします。
音声警報	アラームがトリガーされた場合に PC 上で再生される音声テキストを設定してください。 注意: コントロール クライアントの論理設定ページから、アラーム音としてボイス エンジンを設定する必要があります。
PTZ リンケージ	アラームがトリガーされると、選択されたカメラ(複数可)のプリセット、パトロールまたはパターンがトリガーされます。
アラーム出力リンク	(利用可能な場合)アラーム出力を選択すると接続された外部デバイスがアラームのトリガーによって起動されます。

録画リンク	イベントがトリガーされると、選択したカメラ(複数可)の選択されたストレージ ロケーションへの録画が開始されます。 注意: カメラ(複数可)を選択する前に録画スケジュール ページ上でカメラの録画スケジュールを設定しておく必要があります。 詳細な設定については以下を参照してください: カメラの録画スケジュール設定。
E メール送信	イベントが発生すると指定した E メール アカウント(複数可)にイベント情報が送信されます。 注意: E メール テンプレートの設定については以下を参照してください: メール設定。
ビデオ ウォール表示	アラームがトリガーされると、選択したカメラのビデオをビデオウォールに表示します。 注意: iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェア経由でアラーム ウィンドウ設定を行う必要があります。 詳細については iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェアのユーザ マニュアルを参照してください。
アラーム通知	アラーム情報が選択されたユーザにモバイル クライアント経由で送信されます。 注意: アラーム通知確認の詳細な手順については iVMS-5200 モバイル クライアントのユーザ マニュアルを参照してください。

カメラのイベント設定を行うと、イベント設定項目が表示されます。

イベント設定の項目をクリックし、[削除]をクリックすると、それを削除することができます。 イベント設定の編集については、[イベント名]フィールドをクリックしてイベント設定を任意に編集してください。 オプションとして、[コピー先...]をクリックすると、イベント設定をこのエリアの中の他のカメラにコピーできます。

 をクリックすると、イベント項目をフィルターするための検索条件を設定することができます。

ライン横断検知の設定

注意: この章はスマート検知サーバのカメラについてのみ利用可能です。 スマート検知サーバの追加については以下を参照してください: [スマート検知サーバの追加](#)。

目的:

この機能は、事前定義されたエリアを横断する人物、車両およびオブジェクトを検知するために使用できます。ライン横断検知は、左から右や、右から左の双方向で設定可能です。何らかの物体が検知された場合は一連のリンクメソッドがトリガーされます。

方法:

1. イベント設定ページを開き、イベントパネル上の**[カメラ]**を選択します。イベントの設定がリスト上に表示されます。
2. **[追加]**をクリックすると、イベント設定ウィンドウがポップアップします。

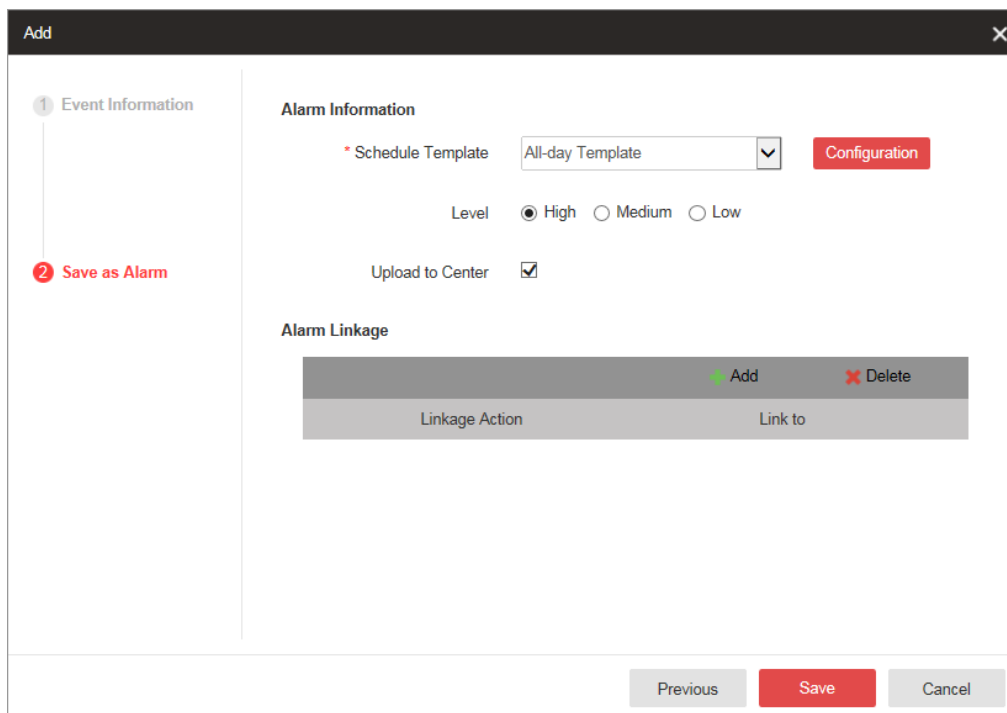
The screenshot shows the 'Add' event configuration window. It features a sidebar on the left with '1 Event Information' and '2 Save as Alarm'. The main content area includes input fields for '* Camera', 'Event Type' (with a dropdown arrow), and '* Event Name'. A red 'Configuration' button is next to the 'Event Type' dropdown. Below these is the 'Event Linkage' section, which contains a table with 'Linkage Action' and 'Link to' columns, and 'Add' and 'Delete' buttons. The bottom of the window has 'Save', 'Next', and 'Cancel' buttons.

3. **[カメラ]**フィールドでイベントを設定するカメラを選択します。キーワードを入力して**[検索]**をクリックするとカメラを検索することができます。
4. **[ライン横断検知]**をカメラ向けのイベント種別として設定します。
5. **[設定]**をクリックすると、ポップアップインターフェイス上でライン横断検知のパラメータを設定できます。
 - I. **[検知を有効化]**チェックボックスをチェックします。
 - II. バーチャルラインIDを選択してください。最大4本までのラインが設定できます。方向は次のいずれかから選択できます: A<->B, A->BまたはB->A。
 - **A<->B:** Bサイドの矢印のみ表示; ラインを横断する対象をどちら向きの方向でも検知でき、アラームが起動されます。
 - **A->B:** AサイドからBサイドに設定されたラインを通過するオブジェクトのみ検知できます。
 - **B->A:** BサイドからAサイドに設定されたラインを通過するオブジェクトのみ検知できます。

- IV. をクリックして、プレビュー画像上でラインを指定することができます。をクリックして設定したラインをドラッグして位置を調整することができます。またはをクリックしてラインを削除することもできます。
- V. 手順 II～IV を繰り返すことで、ほかのバーチャル ラインを設定することができます。
- VI. 感度を[1～100]の間で設定します。
- VII. 警戒スケジュールとリンク方式(センターへのアップロードおよびカメラのトリガー)を設定します。
- VIII. **[適用]**をクリックして設定を保存し、をクリックして終了します。
6. イベント名を編集します。
7. オプションとして**[E メール送信]**チェックボックスをチェックすると、Eメールのテンプレートを選択できます。このようにすると、イベント発生時、アラーム情報を指定したEメールアカウントに送信することができます。また、**[E メール テンプレート]**ドロップダウンリストにある**[新規追加]**をクリックすると、カスタマイズしたEメールテンプレートを設定することができます。

- **有効化:** チェックボックスをチェックしてEメールテンプレートを有効にします。
- **名前:** テンプレートのユーザ定義名を編集します。
- **受信者:** Eメールが送信される受信者(複数可)を入力します。「;」で区切ることで複数の受信者を入力することができます。
- **件名:** テンプレートを任意に編集できます。ウィンドウ下部のボタンをクリックすることで、件名に関連する情報を追加することができます。
- **内容:** 送信されるアラーム情報を定義します。ウィンドウ下部のボタンをクリックすることで、内容に関連する情報を追加することができます。
- **注意:** Eメールの件名または内容にアラーム時刻を追加することを選択した場合、Eメールアプリケーション(Outlook など)とCMSが異なるタイムゾーンにある場合には、表示されるアラーム時刻がずれる可能性があります。

8. **[次へ]**をクリックしてアラーム設定を行います。



The screenshot shows a software window titled "Add" with a close button in the top right corner. On the left is a sidebar with two items: "1 Event Information" and "2 Save as Alarm". The main content area is split into two sections. The top section, "Alarm Information", contains a label "* Schedule Template" followed by a dropdown menu showing "All-day Template" and a "Configuration" button. Below this are "Level" radio buttons with "High" selected, and an "Upload to Center" checkbox which is checked. The bottom section, "Alarm Linkage", features "Add" and "Delete" buttons. Below these is a table with two columns: "Linkage Action" and "Link to". At the bottom of the window are three buttons: "Previous", "Save", and "Cancel".

9. アラームのスケジュール テンプレートを選択します。設定されたスケジュールの間、受信したアラームがシステムによって処理されます(録画リンクなど)。
 - **全日テンプレート**: 週全体にわたる、全日の警戒スケジュールです。
 - **平日テンプレート**: 月曜日から金曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **週末テンプレート**: 土曜日から日曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **テンプレート 01-08**: テンプレートを任意に編集できます。[設定]をクリックして警戒スケジュール テンプレート インターフェイスを開きます。詳細な設定については以下を参照してください: [警戒スケジュール テンプレートの設定](#)。

注意: 設定されたスケジュールの間、イベント リンク アクションおよびアラーム リンク アクションの両方がイベントが検知された場合にトリガーされます。他の時間帯については、イベント リンク アクションのみがトリガーされます。

10. 実際の必要に応じてアラーム レベルを選択してください。
11. [追加]をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。詳細については以下を参照してください: [カメラ イベント アラームの設定](#)。
12. [OK]をクリックして設定を保存します。

侵入検知の設定

注意: この章はスマート検知サーバのカメラについてのみ利用可能です。スマート検知サーバの追加については以下を参照してください: [スマート検知サーバの追加](#)。

目的:

この機能は、事前に定義された範囲に設定時間以上に侵入した人物、車両およびオブジェクトがあるかどうかを検知するために使用できます。

方法:

1. イベント設定ページを開き、イベント パネル上の[カメラ]を選択します。イベントの設定がリスト上に表示されます。
2. [追加]をクリックすると、イベント設定ウィンドウがポップアップします。

3. [カメラ]フィールドでイベントを設定するカメラを選択します。キーワードを入力して**[検索]**をクリックするとカメラを検索することができます。
4. **[侵入検知]**をカメラ向けのイベント種別として設定します。
5. **[設定]**をクリックすると、ポップアップインターフェイス上で侵入検知のパラメータを設定できます。
 - I. **[侵入検知を有効化]**チェックボックスをチェックします。
 - II. エリア ID を選択してください。最大 4 つまでのエリアが設定できます。
 - III. 時間と比率を設定します。

時間しきい値: 範囲は[0-10 秒]で、対象がエリア内を移動している時間の長さです。値を 0 に設定すると、エリア内に対象が侵入した時点で直ちにアラームをトリガーします。

パーセンテージ: 範囲は[1-100]です。パーセンテージは、アラームのトリガーとなりうる対象のエリア内に入っている部分の比率を定義します。たとえば、パーセンテージを 50% に設定した場合、対象の半分がエリアに入るとアラームがトリガーされます。

- IV.  をクリックして、プレビュー画像上で四角形を指定することができます。  をクリックして設定した四角形をドラッグして位置を調整することができます。  または  をクリックして四角形を削除することもできます。
 - V. 手順 II～IV を繰り返すことで、ほかの四角形を設定することができます。
 - VI. 感度を[1～100]の間で設定します。
 - VII. 警戒スケジュールとリンク方式(センターへのアップロードおよびカメラのトリガー)を設定します。
 - VIII. **[適用]**をクリックして設定を保存し、  をクリックして終了します。
6. イベント名を編集します。

7. オプションとして[Eメール送信]チェックボックスをチェックすると、Eメールのテンプレートを選択できます。このようにすると、イベント発生時、アラーム情報を指定したEメールアカウントに送信することができます。また、[Eメールテンプレート]ドロップダウンリストにある[新規追加]をクリックすると、カスタマイズしたEメールテンプレートを設定することができます。

- **有効化:** チェックボックスをチェックしてEメールテンプレートを有効にします。
- **名前:** テンプレートのユーザ定義名を編集します。
- **受信者:** Eメールが送信される受信者(複数可)を入力します。「;」で区切ることで複数の受信者を入力することができます。
- **件名:** テンプレートを任意に編集できます。ウィンドウ下部のボタンをクリックすることで、件名に関連する情報を追加することができます。
- **内容:** 送信されるアラーム情報を定義します。ウィンドウ下部のボタンをクリックすることで、内容に関連する情報を追加することができます。
- **注意:** Eメールの件名または内容にアラーム時刻を追加することを選択した場合、Eメールアプリケーション(Outlook など)とCMSが異なるタイムゾーンにある場合には、表示されるアラーム時刻がずれる可能性があります。

8. [次へ]をクリックしてアラーム設定を行います。

The screenshot shows a modal window titled "Add" with a close button. On the left is a sidebar with two items: "1 Event Information" and "2 Save as Alarm". The main content area is titled "Alarm Information" and contains the following elements:

- A label "* Schedule Template" followed by a dropdown menu currently showing "All-day Template" and a "Configuration" button.
- A "Level" section with three radio buttons: "High" (selected), "Medium", and "Low".
- An "Upload to Center" checkbox which is checked.
- An "Alarm Linkage" section containing:
 - Buttons for "Add" (with a green plus icon) and "Delete" (with a red X icon).
 - A table with two columns: "Linkage Action" and "Link to".

At the bottom of the dialog are three buttons: "Previous", "Save", and "Cancel".

9. アラームのスケジュール テンプレートを選択します。設定されたスケジュールの間、受信したアラームがシステムによって処理されます(録画リンクなど)。

- **全日テンプレート:** 週全体にわたる、全日の警戒スケジュールです。
- **平日テンプレート:** 月曜日から金曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
- **週末テンプレート:** 土曜日から日曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
- **テンプレート 01-08:** テンプレートを任意に編集できます。[設定]をクリックして警戒スケジュール テンプレート インターフェイスを開きます。詳細な設定につ

いては以下を参照してください: [警戒スケジュール テンプレートの設定](#)。

注意: 設定されたスケジュールの間、イベント リンク アクションおよびアラーム リンク アクションの両方がイベントが検知された場合にトリガーされます。他の時間帯については、イベント リンク アクションのみがトリガーされます。

10. 実際の必要に応じてアラーム レベルを選択してください。
11. [追加]をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。詳細については以下を参照してください: [カメラ イベント アラームの設定](#)。
12. [OK]をクリックして設定を保存します。

POS 端末アラーム リンクの設定

目的:

接続された POS 端末上での指定した操作やトランザクションには通知のためのトリガー アクションを設定することができます。

方法:

1. イベント設定ページを開き、イベントパネル上の[トランザクション]を選択します。イベントの設定がリスト上に表示されます。
2. [追加]をクリックすると、イベント設定ウィンドウがポップアップします。

3. [POS]フィールドでイベントを設定する POS 端末を選択します。キーワードを入力して**[検索]**をクリックすると POS 端末を検索することができます。
4. イベント名を編集します。
5. **[条件]**を選択します。[AND]ラジオボタンを選択すると、アラームは選択された操作ないしトランザクションがすべて発生した場合にアラームがトリガーされます。[OR]ラジオボタンを選択すると、アラームは選択された操作ないしトランザクションのいずれかが発生した場合にアラームがトリガーされます。
6. スクロールバーをスクロールダウンしてイベントリンクエリアを表示させます。**[追加]**をクリックし、イベントのリンクアクション設定を行います。詳細については表: カスタム トランザクション イベント/アラーム向けリンク アクションを参照してください。
7. **[保存]**をクリックするとイベントの設定が保存されます。または、イベントをアラームとしても保存したい場合、**[次へ]**をクリックし、以下の手順を実行してください。
8. アラームのスケジュールテンプレートを選択します。設定されたスケジュールの間、受信したアラームがシステムによって処理されます(録画リンクなど)。
 - **全日テンプレート**: 週全体にわたる、全日の警戒スケジュールです。
 - **平日テンプレート**: 月曜日から金曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **週末テンプレート**: 土曜日から日曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **テンプレート 01-08**: テンプレートを任意に編集できます。**[設定]**をクリックして警戒スケジュールテンプレートインターフェイスを開きます。詳細な設定については以下を参照してください: [警戒スケジュールテンプレートの設定](#)。

注意: 設定されたスケジュールの間、イベントリンクアクションおよびアラームリンクアクションの両方がイベントが検知された場合にトリガーされます。他の時間帯については、イベントリンクアクションのみがトリガーされます。

Add

×

1 Event Information

2 Save as Alarm

Alarm Information

* Schedule Template

All-day Template

▼

Configuration

Level

☒ High
☐ Medium
☐ Low

Upload to Center

☒

Alarm Linkage

Add

Delete

Linkage Action

Link to

Previous

Save

Cancel

9. 実際の必要に応じてアラーム レベルを選択してください。
10. RSM にアラーム情報をアップロードしたい場合、**[センターにアップロード]**チェックボックスをチェックすると、アラーム情報はコントロール クライアント経由で確認できます。
11. **[追加]**をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。詳細については表: カスタム トランザクション イベント/アラーム向けリンク アクションを参照してください。
12. **[OK]**をクリックして設定を保存します。

表: トランザクション イベント/アラーム向けリンク アクション

リンク アクション	説明
カメラのポップアップ画像を起動	アラームがトリガーされると、選択されたカメラ(複数可)のライブビデオがポップアップします。
音声警報	アラームがトリガーされた場合に PC 上で再生される音声テキストを設定してください。 注意: コントロール クライアントの論理設定ページから、アラーム音としてボイス エンジンを設定する必要があります。
PTZ リンケージ	アラームがトリガーされると、選択されたカメラ(複数可)のプリセット、パトロールまたはパターンがトリガーされます。
アラーム出力リンク	(利用可能な場合)アラーム出力を選択すると接続された外部デバイスがアラームのトリガーによって起動されます。
録画リンク	アラームがトリガーされると、選択したカメラ(複数可)の選択されたストレージ ロケーションへの録画が開始されます。

	注意: カメラ(複数可)を選択する前に録画スケジュール ページ上でカメラの録画スケジュールを設定しておく必要があります。 詳細な設定については以下を参照してください: カメラの録画スケジュール設定 。
E メール送信	イベントが発生すると指定した E メール アカウント(複数可)にアラーム情報が送信されます。 注意: E メール テンプレートの設定については以下を参照してください: メール設定。
ビデオ ウォール表示	アラームがトリガーされると、選択したカメラのビデオをビデオウォールに表示します。 注意: iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェア経由でアラーム ウィンドウ設定を行う必要があります。 詳細については iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェアのユーザ マニュアルを参照してください。
アラーム通知	アラーム情報が選択されたユーザにモバイル クライアント経由で送信されます。 注意: アラーム通知確認の詳細な手順については iVMS-5200 モバイル クライアントのユーザ マニュアルを参照してください。

POS 端末のイベント設定を行うと、イベント設定項目が表示されます。

イベント設定の項目をクリックし、[削除]をクリックすると、それを削除することができます。 イベント設定の編集については、[イベント名]フィールドをクリックしてイベント設定を任意に編集してください。 オプションとして、[コピー先...]をクリックすると、イベント設定をこのエリアの中の他の POS 端末にコピーできます。

 をクリックすると、イベント項目をフィルターするための検索条件を設定することができます。

アラーム入力リンクの設定

目的:

デバイスのアラーム入力ポートが煙感知器、ドア ベルなどの外部のアラーム デバイスから信号を受けた場合、通知のためにアラーム入力リンク アクションがトリガーされます。

注意: そのデバイスがアラーム入力に対応している必要があります。

始める前に:

管理するエリアにアラーム入力を追加する必要があります。 詳細な設定については以下を参照してください: [エリア管理](#)。

方法:

1. イベント設定ページを開き、イベント パネル上の[アラーム入力]を選択します。 イベントの設定がリスト上に表示されます。
2. [追加]をクリックすると、イベント設定ウィンドウがポップアップします。

Linkage Action	Link to
----------------	---------

3. [アラーム入力]フィールドでイベントを設定するアラーム入力を選択します。 キーワードを入力して[検索]をクリックするとアラーム入力を検索することができます。
4. [設定]をクリックすると、ポップアップ インターフェイス上でアラーム入力のパラメータを設定できます。 アラーム入力設定が正しく行われている場合、この手順はスキップすることができます。

注意: アラーム入力設定についての詳細については、デバイスのユーザ マニュアルを参照してください。

5. アラーム入力イベント名を編集します。
6. [追加]をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。 詳細については表: アラーム入力イベント/アラーム向けリンク アクションを参照してください。
7. [保存]をクリックするとイベントの設定が保存されます。 または、イベントをアラームとしても保存したい場合、[次へ]をクリックし、以下の手順を実行してください。
8. アラームのスケジュール テンプレートを選択します。 設定されたスケジュールの間、受信したアラームがシステムによって処理されます(録画リンクなど)。
 - **全日テンプレート:** 週全体にわたる、全日の警戒スケジュールです。
 - **平日テンプレート:** 月曜日から金曜日までの、全日の警戒スケジュールです。

- ・ **週末テンプレート**: 土曜日から日曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
- ・ **テンプレート 01-08**: テンプレートを任意に編集できます。**[設定]**をクリックして警戒スケジュール テンプレート インターフェイスを開きます。詳細な設定については以下を参照してください: [警戒スケジュール テンプレートの設定](#)。

注意: 設定されたスケジュールの間、イベント リンク アクションおよびアラーム リンク アクションの両方がイベントが検知された場合にトリガーされます。他の時間帯については、イベント リンク アクションのみがトリガーされます。

9. 実際の必要に応じてアラーム レベルを選択してください。
10. RSM にアラーム情報をアップロードしたい場合、**[センターにアップロード]**チェックボックスをチェックすると、アラーム情報はコントロール クライアント経由で確認できます。
11. **[追加]**をクリックし、アラーム入カイベントのリンク アクション設定を行います。詳細については表: アラーム入カイベント/アラーム向けリンク アクションを参照してください。
12. **[OK]**をクリックして設定を保存します。

表: アラーム入カイベント/アラーム イベント向けリンク アクション

リンク アクション	説明
カメラのポップアップ画像を起動	アラームがトリガーされると、選択されたカメラ(複数可)のライブビデオがポップアップします。
音声警報	アラームがトリガーされた場合に PC 上で再生される音声テキストを設定してください。

	注意: コントロール クライアントの論理設定ページから、アラーム音としてボイス エンジンを設定する必要があります。
PTZ リン ケージ	アラームがトリガーされると、選択されたカメラ(複数可)のプリ セット、パトロールまたはパターンがトリガーされます。
アラーム 出力リン ク	(利用可能な場合)アラーム出力を選択すると接続された外部デバ イスがアラームのトリガーによって起動されます。
録画リン ク	アラームがトリガーされると、選択したカメラ(複数可)の選択さ れたストレージ ロケーションへの録画が開始されます。 注意: カメラ(複数可)を選択する前に録画スケジュール ページ上で カメラの録画スケジュールを設定しておく必要があります。 詳細 な設定については以下を参照してください: カメラの録画スケ ジュール設定 。
E メール 送信	イベントが発生すると指定した E メール アカウント(複数可)にア ラーム情報が送信されます。 注意: E メール テンプレートの設定については以下を参照してく ださい: メール設定 。
ビデオ ウ ォール表 示	アラームがトリガーされると、選択したカメラのビデオをビデオ ウォールに表示します。 注意: iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェア経由 でアラーム ウィンドウ設定を行う必要があります。 詳細について は iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェアのユー ザ マニュアルを参照してください。

アラーム入力のイベント設定を行うと、イベント設定項目が表示されます。

アラーム入力イベント設定の項目をクリックし、[削除]をクリックすると、それを削除することができます。 アラーム入力設定の編集については、[イベ
ント名]フィールドをクリックしてイベント設定を任意に編集してください。
オプションとして、[コピー先...]をクリックすると、イベント設定をこのエ
リアの中の他のアラーム入力にコピーできます。

 をクリックすると、イベント項目をフィルターするための検索条件を設定
することができます。

デバイス異常リンクの設定

目的:

接続されたデバイスの運用中に異常(HDD の読み込み、または書き込みエラー、不正ログインまたはデバイス オフラインなど)が発生した場合、通知のためにリンク アクションを設定することができます。

方法:

1. イベント設定ページを開き、イベントパネル上の[デバイス]を選択します。イベントの設定がリスト上に表示されます。
2. [追加]をクリックすると、イベント設定ウィンドウがポップアップします。

The screenshot shows a modal window titled "Add" with a close button (X) in the top right corner. On the left is a sidebar with two items: "1 Event Information" (highlighted in red) and "2 Save as Alarm". The main content area contains the following elements:

- A field labeled "* Device" with the value "10.18.133.103_HM" and a green checkmark icon.
- A field labeled "Event Type" with a dropdown menu showing "HDD Full" and a "Configuration" button to its right.
- A field labeled "* Event Name" with the value "10.18.133.103_HM_HDD Full" and a green checkmark icon.
- A section titled "Event Linkage" containing a table with two columns: "Linkage Action" and "Link to". Above the table are "Add" (with a green plus icon) and "Delete" (with a red X icon) buttons.
- At the bottom of the window are three buttons: "Save", "Next" (highlighted in red), and "Cancel".

3. [デバイス]フィールドでイベントを設定するデバイスを選択します。キーワードを入力して[検索]をクリックするとデバイスを検索することができます。
4. デバイスのイベント種別を選択します。
5. [設定]をクリックすると、ポップアップインターフェイス上でイベントのパラメータを設定できます。 イベント設定が正しく行われている場合、この手順はスキップすることができます。

注意: イベント設定についての詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。[センターへアップロード]を選択する必要があります。

6. イベント名を編集します。

7. **[追加]**をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。詳細については表: デバイス異常イベント/アラーム向けリンク アクションを参照してください。
8. **[保存]**をクリックするとイベントの設定が保存されます。または、イベントをアラームとしても保存したい場合、**[次へ]**をクリックし、以下の手順を実行してください。
9. アラームのスケジュール テンプレートを選択します。設定されたスケジュールの間、受信したアラームがシステムによって処理されます(音声警報など)。
 - **全日テンプレート**: 週全体にわたる、全日の警戒スケジュールです。
 - **平日テンプレート**: 月曜日から金曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **週末テンプレート**: 土曜日から日曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **テンプレート 01-08**: テンプレートを任意に編集できます。**[設定]**をクリックして警戒スケジュールテンプレート インターフェイスを開きます。詳細な設定については以下を参照してください: [警戒スケジュール テンプレートの設定](#)。

注意: 設定されたスケジュールの間、イベント リンク アクションおよびアラーム リンク アクションの両方がイベントが検知された場合にトリガーされます。他の時間帯については、イベント リンク アクションのみがトリガーされます。

The screenshot shows a web-based 'Add' dialog for configuring an alarm. On the left, a sidebar contains '1 Event Information' and '2 Save as Alarm' (highlighted in red). The main content area is titled 'Alarm Information' and includes a 'Schedule Template' dropdown menu currently set to 'All-day Template', a red 'Configuration' button, and radio buttons for 'Level' (High is selected, Medium and Low are unselected). There is also a checked checkbox for 'Upload to Center'. Below this is the 'Alarm Linkage' section, which features a table with two columns: 'Linkage Action' and 'Link to'. Above the table are 'Add' (green plus icon) and 'Delete' (red X icon) buttons. At the bottom of the dialog are 'Previous', 'Save' (red), and 'Cancel' buttons.

10. 実際の必要に応じてアラーム レベルを選択してください。
11. RSMにアラーム情報をアップロードしたい場合、**[センターにアップロード]**チェックボックスをチェックすると、アラーム情報はコントロール クライアント経由で確認できます。
12. **[追加]**をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。詳細については表: デバイス異常イベント/アラーム向けリンク アクションを参照してください。
13. **[OK]**をクリックして設定を保存します。

表: デバイス異常イベント/アラーム向けリンク アクション

リンク アクション	説明
音声警報	アラームがトリガーされた場合に PC 上で再生される音声テキストを設定してください。

	注意: コントロール クライアントの論理設定ページから、アラーム音としてボイス エンジンを設定する必要があります。
E メール送信	イベントが発生すると指定した E メール アカウント(複数可)にアラーム情報が送信されます。 注意: E メール テンプレートの設定については以下を参照してください: メール設定。

デバイスのイベント設定を行うと、イベント設定項目が表示されます。

イベント設定の項目をクリックし、[削除]をクリックすると、それを削除することができます。 イベント設定の編集については、[イベント名]フィールドをクリックしてイベント設定を任意に編集してください。 オプションとして、[コピー先...]をクリックすると、イベント設定を他のデバイスにコピーできます。

 をクリックすると、イベント項目をフィルターするための検索条件を設定することができます。

サーバ異常リンクの設定

目的:

サーバが異常なステータスにある場合、リンク アクションをトリガーさせることができます。

方法:

1. イベント設定ページを開き、イベント パネル上の[サーバ]を選択します。 イベントの設定がリスト上に表示されます。
2. [追加]をクリックすると、イベント設定ウィンドウがポップアップします。

Add

1 Event Information

2 Save as Alarm

* Server 192.168.0.123 ✓

Event Type Disk Alarm ▼

* Event Name 192.168.0.123_Disk Alarm ✓

Event Linkage

Linkage Action	Link to
----------------	---------

Save Next Cancel

3. [サーバ]フィールドでイベントを設定するサーバを選択します。キーワードを入力して**[検索]**をクリックするとサーバを検索することができます。
4. サーバのイベント種別を選択します。
5. イベント名を任意に編集します。
6. **[追加]**をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。詳細については **表: サーバ異常イベント/アラーム向けリンク アクション**を参照してください。
7. **[保存]**をクリックするとイベントの設定が保存されます。または、イベントをアラームとしても保存したい場合、**[次へ]**をクリックし、以下の手順を実行してください。
8. アラームのスケジュール テンプレートを選択します。設定されたスケジュールの間、受信したアラームがシステムによって処理されます(音声警報など)。
 - **全日テンプレート**: 週全体にわたる、全日の警戒スケジュールです。
 - **平日テンプレート**: 月曜日から金曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **週末テンプレート**: 土曜日から日曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **テンプレート 01-08**: テンプレートを任意に編集できます。**[設定]**をクリックして警戒スケジュール テンプレート インターフェイスを開きます。詳細な設定については以下を参照してください: [警戒スケジュール テンプレートの設定](#)。

注意: 設定されたスケジュールの間、イベント リンク アクションおよびアラーム リンク アクションの両方がイベントが検知された場合にトリガーされます。他の時間帯については、イベント リンク アクションのみがトリガーされます。

1 Event Information

2 Save as Alarm

Alarm Information

* Schedule Template

All-day Template

Configuration

Level

☒ High
☐ Medium
☐ Low

Upload to Center

☒

Alarm Linkage

Add

Delete

Linkage Action

Link to

Previous

Save

Cancel

9. 実際の必要に応じてアラーム レベルを選択してください。
10. RSM にアラーム情報をアップロードしたい場合、**[センターにアップロード]**チェックボックスをチェックすると、アラーム情報はコントロール クライアント経由で確認できます。
11. **[追加]**をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。詳細については **表: サーバ異常イベント/アラーム向けリンク アクション**を参照してください。
12. **[OK]**をクリックして設定を保存します。

表: サーバ異常イベント/アラーム向けリンク アクション

リンク アクション	説明
音声警報	アラームがトリガーされた場合に PC 上で再生される音声テキストを設定してください。 注意: コントロール クライアントの論理設定ページから、アラーム音としてボイス エンジンを設定する必要があります。
E メール送信	イベントが発生すると指定した E メール アカウント(複数可)にアラーム情報が送信されます。 注意: E メール テンプレートの設定については以下を参照してください: メール設定。

サーバのイベント設定を行うと、イベント設定項目が表示されます。

イベント設定の項目をクリックし、**[削除]**をクリックすると、それを削除することができます。イベント設定の編集については、**[イベント名]**フィールドをクリックしてイベント設定を任意に編集してください。オプションとし

て、[コピー先...]をクリックすると、イベント設定を他のサーバにコピーできます。

をクリックすると、イベント項目をフィルターするための検索条件を設定することができます。

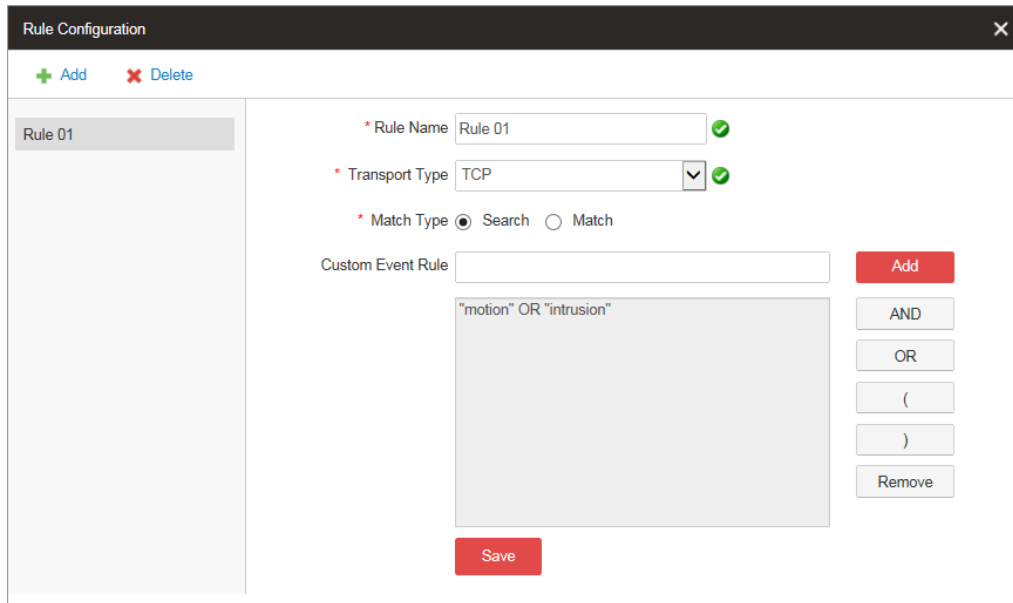
カスタム イベント アラームの設定

目的:

新しいイベントを作成して受信した TCP または UDP データ パッケージを解析し、特定の条件に合致した場合にイベントをトリガーさせるために、ルールをカスタマイズすることができます。このようにしてお使いのシステムをアクセス コントロール システムやアラーム システムなど、広範な外部ソースと容易に統合することができます。

方法:

1. イベント設定ページを開き、イベントパネル上の[カスタム]を選択します。イベントの設定がリスト上に表示されます。
2. [ルール設定]をクリックすると、ルール設定ウィンドウがポップアップします。追加されたルールは左のパネルにリスト表示されます。選択してその設定を編集することができます。



The image shows a 'Rule Configuration' window with a dark header and a close button. Below the header, there are '+ Add' and 'X Delete' buttons. On the left, a list shows 'Rule 01'. The main area contains configuration fields: 'Rule Name' (Rule 01) with a green checkmark, 'Transport Type' (TCP) with a dropdown arrow and green checkmark, and 'Match Type' with radio buttons for 'Search' (selected) and 'Match'. Below these is a 'Custom Event Rule' section with a text input containing '"motion" OR "intrusion"', a large text area, and a 'Save' button. To the right of the text area are buttons for 'Add', 'AND', 'OR', '(', ')', and 'Remove'.

3. [追加]をクリックすると、新しいルールを作成し、実際の必要に応じてパラメータを設定することができます。

ルール名: ルール名を任意に編集します。

伝送タイプ: パッケージを TCP または UDP プロトコルのどちらで解析するかを選択します。

一致タイプ: 2つのオプションが利用可能です。

- 検索: 受信したパッケージには[カスタム イベント種別]フィールドで定義した情報が含まれていなければなりません。 **例:** 受信パッケージに「動体」と「ライン横断」が含まれていなければならぬと定義すると、受信パッケージが「動体」「侵入」および「ライン横断」を含んでいる場合にはアラームがトリガーされます。
- 一致: 受信したパッケージには[カスタム イベント種別]フィールドで定義した情報と厳密に同じものだけが含まれ、それ以外のものが含まれてはなりません。

カスタム イベント ルール: 受信パッケージを解析するためのイベントルールを定義します。テキストフィールドで含まれていなければならぬ単語を入力し、**[追加]**をクリックしてルールを追加します。「かっこ」または「演算子」のボタンをクリックしてルールに追加します。ルール フィールドにカーソルを置いて**[追加]**をクリックすると、項目(単語、かっこまたは演算子)を特定の位置に追加できます。または**[削除]**をクリックしてカーソルの左にある項目を削除することもできます。

- AND: AND 演算子をルールに追加します。AND 演算子の両側にある単語は含まれていなければならぬ、という指定ができます。 **例:** 「動体」AND「ライン横断」AND「侵入」、とルールを定義した場合、受信したパッケージが「動体」「ライン横断」とともに「侵入」の単語すべてを含んでいなければ、条件にマッチしたとはみなされません。一般的に、ANDで結合する単語が多くなるほど、検知されるイベントは少なくなります。
 - OR: OR 演算子をルールに追加します。いずれかの単語が含まれていなければならぬ、という指定ができます。 **例:** 「動体」OR「ライン横断」OR「侵入」、とルールを定義した場合、受信したパッケージがそれらの単語(「動体」「ライン横断」または「侵入」)のいずれかを含んでいれば、条件にマッチしたとみなされます。一般的に、ORで結合する単語が多くなるほど、検知されるイベントは多くなります。
 - (: 左かっこをルールに追加します。かっこは関連する単語がひとまとまりとして同時に処理されるようにするために使われます。つまり、解析における処理の順序を強制的に指定するために使うことができます。例: (「動体」OR「ライン横断」)AND「侵入」、とルールを定義した場合、かっこの中の二つの単語が最初に処理され、その後、ルールの最後のパートと結合された結果となります。つまり、システムは最初に「動体」または「ライン横断」のいずれかの単語を含むすべてのパッケージを検索し、その結果に対して、「侵入」の単語を含むパッケージの検索を行います。
 -): 右かっこをルールに追加します。
4. **保存**をクリックして設定を保存します。
 5. ルールの設定後、**[追加]**をクリックするとカスタマイズしたイベントを追加できます。必要なパラメータを入力します。

1 Event Information

2 Save as Alarm

* Area 172.10.71.233

* Event Name Event 01

Rule Name Rule 01

Configuration

Event Linkage

	Add	Delete
Linkage Action	Link to	

Save

Next

Cancel

6. [エリア]フィールドでイベントを設定するエリアを選択します。キーワードを入力して**[検索]**をクリックするとエリアを検索することができます。
7. イベント名を編集します。
8. エリアのルール種別を選択します。ルールを編集または新しいルールを追加する必要がある場合、**[設定]**をクリックしてください。
9. **[追加]**をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。詳細については表: **カスタム イベント/アラーム向けリンク アクション**を参照してください。
10. **[保存]**をクリックするとイベントの設定が保存されます。または、イベントをアラームとしても保存したい場合、**[次へ]**をクリックし、以下の手順を実行してください。
11. アラームのスケジュール テンプレートを選択します。設定されたスケジュールの間、受信したアラームがシステムによって処理されます(録画リンクなど)。
 - **全日テンプレート**: 週全体にわたる、全日の警戒スケジュールです。
 - **平日テンプレート**: 月曜日から金曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **週末テンプレート**: 土曜日から日曜日までの、全日の警戒スケジュールです。
 - **テンプレート 01-08**: テンプレートを任意に編集できます。**[設定]**をクリックして警戒スケジュール テンプレート インターフェイスを開きます。詳細な設定については以下を参照してください: [警戒スケジュール テンプレートの設定](#)。

注意: 設定されたスケジュールの間、イベント リンク アクションおよびアラーム リンク アクションの両方がイベントが検知された場合にトリガーされます。他の時間帯については、イベント リンク アクションのみがトリガーされます。

Add

×

1 Event Information

2 Save as Alarm

Alarm Information

* Schedule Template

All-day Template

▼

Configuration

Level

☒ High
☐ Medium
☐ Low

Upload to Center

☒

Alarm Linkage

Add

Delete

Linkage Action

Link to

Previous

Save

Cancel

12. 実際の必要に応じてアラーム レベルを選択してください。
13. RSM にアラーム情報をアップロードしたい場合、**[センターにアップロード]**チェックボックスをチェックすると、アラーム情報はコントロール クライアント経由で確認できます。
14. **[追加]**をクリックし、イベントのリンク アクション設定を行います。詳細については **表: カスタム イベント/アラーム向けリンク アクション**を参照してください。
15. **[OK]**をクリックして設定を保存します。

表: カスタム イベント/アラーム向けリンク アクション

リンク アクション	説明
カメラのポップアップ画像を起動	アラームがトリガーされると、選択されたカメラ(複数可)のライブビデオがポップアップします。
音声警報	アラームがトリガーされた場合に PC 上で再生される音声テキストを設定してください。 注意: コントロール クライアントの論理設定ページから、アラーム音としてボイス エンジンを設定する必要があります。
PTZ リンケージ	アラームがトリガーされると、選択されたカメラ(複数可)のプリセット、パトロールまたはパターンがトリガーされます。
アラーム出力リンク	(利用可能な場合)アラーム出力を選択すると接続された外部デバイスがアラームのトリガーによって起動されます。
録画リンク	アラームがトリガーされると、選択したカメラ(複数可)の選択されたストレージ ロケーションへの録画が開始されます。

	注意: カメラ(複数可)を選択する前に録画スケジュール ページ上でカメラの録画スケジュールを設定しておく必要があります。詳細な設定については以下を参照してください: カメラの録画スケジュール設定。
E メール送信	イベントが発生すると指定した E メール アカウント(複数可)にイベント情報が送信されます。 注意: E メール テンプレートの設定については以下を参照してください: メール設定。
ビデオ ウォール表示	アラームがトリガーされると、選択したカメラのビデオをビデオウォールに表示します。 注意: iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェア経由でアラーム ウィンドウ設定を行う必要があります。詳細については iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェアのユーザ マニュアルを参照してください。

カスタム イベント設定を行うと、イベント設定項目が表示されます。

イベント設定の項目をクリックし、[削除]をクリックすると、それを削除することができます。イベント設定の編集については、[イベント名]フィールドをクリックしてイベント設定を任意に編集してください。オプションとして、[コピー先...]をクリックすると、イベント設定をこのエリアの中の他のカメラにコピーできます。

 をクリックすると、イベント項目をフィルターするための検索条件を設定することができます。

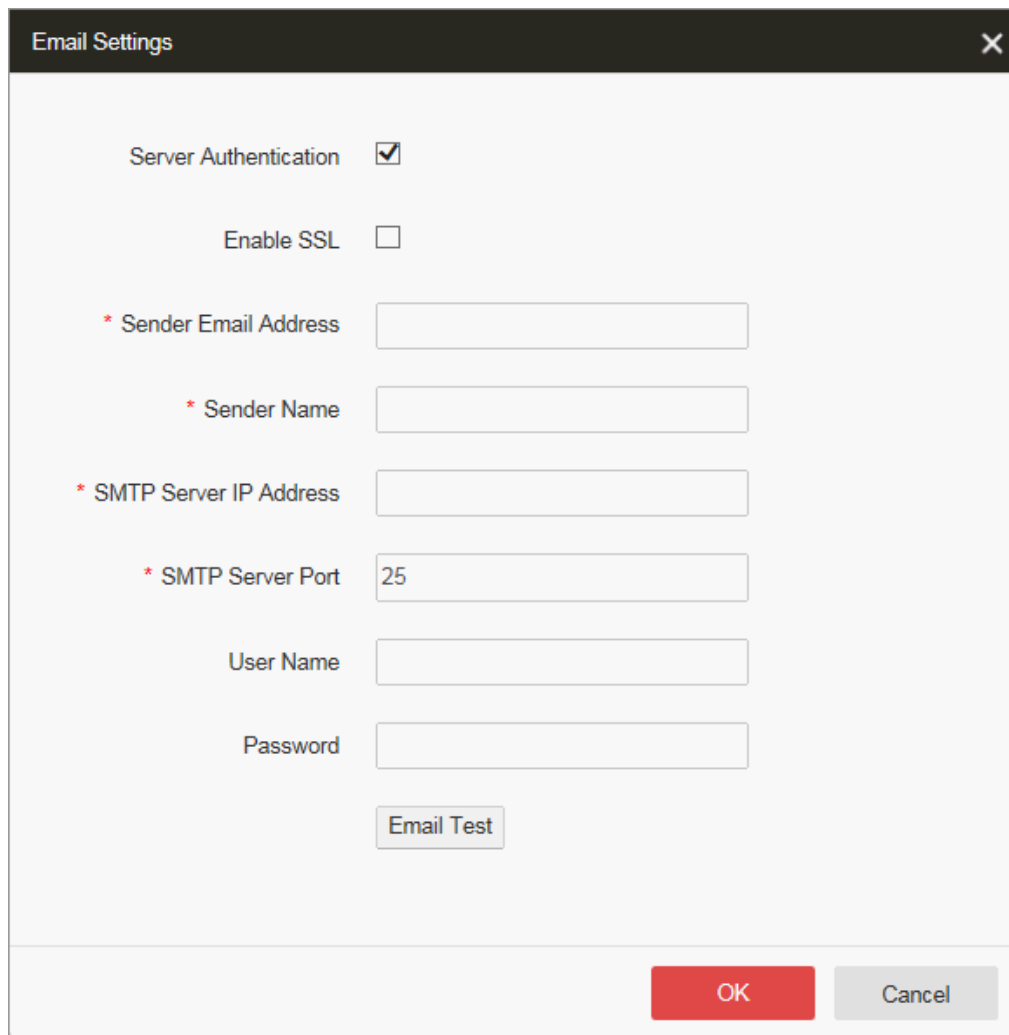
メール設定

目的:

アラーム情報(カメラ イベントまたは POS 端末のアラーム情報)を指定した E メール アカウントに送信させる設定を行う前に、E メール設定が正しく行われていなければなりません。

方法:

1. イベント設定ページを開き、通知パネル上の[E メール]をクリックします。
2. [E メール設定]をクリックすると、E メール設定ウィンドウがポップアップします。

The image shows a dialog box titled "Email Settings" with a close button (X) in the top right corner. Inside the dialog, there are several settings: "Server Authentication" with a checked checkbox, "Enable SSL" with an unchecked checkbox, and five text input fields. The first three fields are preceded by a red asterisk (*). The "SMTP Server Port" field contains the number "25". Below the input fields is an "Email Test" button. At the bottom right of the dialog are "OK" and "Cancel" buttons.

Email Settings

Server Authentication ☒

Enable SSL ☐

* Sender Email Address

* Sender Name

* SMTP Server IP Address

* SMTP Server Port

User Name

Password

Email Test

OK Cancel

3. 実際の必要に応じてパラメータを設定してください。

サーバ認証(オプション): お使いのメールサーバが認証を必要とする場合、このチェックボックスをチェックして、サーバへのログイン認証を利用するようにし、メールアカウントのログインユーザ名とパスワードを入力します。

SSL を有効化 (オプション) : SMTP サーバーで必要であれば、SSL を有効化するチェックボックスを選択します。

送信者 E メールアドレス: 送信者の E メールアドレス。

送信者名: 送信者の名前。

SMTP サーバ IP アドレス: SMTP サーバー IP アドレスかホスト名 (例:smtp.263xmail.com) 。

SMTP サーバポート: SMTP ポート。SMTP に使用されているデフォルト TCP/IP ポートは 25 です。

ユーザー名: 送信者のメールのユーザ アカウント。

パスワード: 送信者のメールのパスワード。

E メールテスト: クリックするとメール設定が動作するかどうかのテストが実行できます。 対応する注意メッセージボックスが表示されます。

4. [OK]をクリックして設定を保存します。

Eメールの設定後、**[追加]**をクリックするとカスタマイズした E メール テンプレートを追加できます。 必要なパラメータを入力します。

- **有効化:** チェックボックスをチェックして E メール テンプレートを有効にします。
- **画像アップロード:** イベント発生時にキャプチャされた画像を E メールに添付することができます。

注意: この機能はデバイスがサポートしている必要があります。

- **名前:** テンプレートのユーザ定義名を編集します。
- **受信者:** E メールが送信される受信者(複数可)を入力します。「;」で区切ることで複数の受信者を入力することができます。
- **件名:** テンプレートを任意に編集できます。 ウィンドウ下部のボタンをクリックすることで、件名に関連する情報を追加することができます。
- **内容:** 送信されるアラーム情報を定義します。 ウィンドウ下部のボタンをクリックすることで、内容に関連する情報を追加することができます。

注意: Eメールの件名または内容にアラーム時刻を追加することを選択した場合、Eメールアプリケーション(Outlook など)と CMS が異なるタイムゾーンにある場合には、表示されるアラーム時刻がずれる可能性があります。

Add Email Template

Enable☒

Upload Picture☐

* Name

* Recipient(s)

* Subject

* Content

\$ {Alarm Name}

\$ {Alarm Time}

\$ {Alarm Source}

\$ {Belong to Area}

Click a button to add the related information to the email subject and content.

\$ Alarm Name

\$ Alarm Time

\$ Alarm Source

\$ Belong to Area

OK

Cancel

[OK]をクリックして設定を保存します。

E メール テンプレートを設定すると、テンプレートの項目が表示されます。テンプレートの項目をクリックし、**[削除]**をクリックすると、それを削除することができます。E メール テンプレートの編集については、**[名称]**フィールドをクリックして E メール テンプレートを任意に編集してください。

警戒スケジュール テンプレートの設定

アラームに対してカスタマイズした監視スケジュール テンプレートを設定する必要がある場合、以下の手順を実行してください:

方法:

1. イベント設定を行っている際に、スケジュールテンプレートの項目に対する**[設定]**をクリックしてください。テンプレート 01-08 を編集できます。

2. 設定するテンプレートを選択するとテンプレート名が編集できます。
3. タイムバーをクリックアンドドラッグしてスケジュール時間を設定します。設定された時間帯を選択して、表示される時間のポイントを編集して時間帯を厳密に設定することができます。
4. オプションとして、スケジュールの時間帯を選択し、**[削除]**をクリックして選択した時間帯を削除することができます。あるいは**[すべて削除]**をクリックしてすべての時間帯を削除することもできます。**[コピー先...]**をクリックし、時間帯の設定を他の日付にコピーできます。
5. **[OK]**をクリックして設定を保存します。

注意: 監視スケジュールでは、各日について最大 4 つの時間帯を設定できます。

Schedule Template

All-day Template
Weekday Template
Weekend Template
Template01
Template02
Template03
Template04
Template05
Template06
Template07
Template08

NameAll-day TemplateDeleteDelete AllCopy to

Mon.

024681012141618202224

Tue.

024681012141618202224

Wed.

024681012141618202224

Thu.

024681012141618202224

Fri.

024681012141618202224

Sat.

024681012141618202224

Sun.

024681012141618202224

OKCancel

論理アラームの設定

目的:

設定されたアラームは他の機能モジュールのリンク アクションをトリガーできます。

例: ビデオ監視の動体検知アラームは、追加されたモバイル監視のアラーム出力および ANPR の音声警報を起動することができます。

- **ビデオ監視アラームの場合:** アラーム出力と追加されたモバイル監視および ANPR の音声警報をトリガーできます。
- **モバイル監視アラームの場合:** アラーム出力、音声警報、アラーム通知、ビデオ ウォール表示、ビデオ監視のリンク録画およびアラーム出力と追加された ANPR の音声警報をトリガーできます。
- **ANPR アラームの場合:** アラーム出力、音声警報、アラーム通知、ビデオ ウォール表示、ビデオ監視のリンク録画およびアラーム出力と追加されたモバイル監視の音声警報をトリガーできます。

始める前に:

少なくとも 1 項目のアラーム設定が iVMS-5200 プロに設定されている必要があります。アラーム設定については以下を参照してください: [イベントおよびアラーム設定](#)。

方法:

1. ホームページ上で[論理アラーム]をクリックし、論理管理ページを開きます。
2. [追加]をクリックすると、論理アラーム設定ダイアログがポップアップします。

Add

Selected Resources :

Camera Search... Search

	Alarm Name	Area
☐	IPCamera 03_Motion Detection	10.18.147.137
☐	IPCamera 01_Video Loss	10.18.147.137
☐	IPCamera 01_Motion Detection	10.18.147.137
☐	Camera1_10.18.137.108_Motion Detection	10.18.137.108
☐	Camera 04_Video Loss	10.18.147.137
☐	Camera 04_Motion Detection	10.18.147.137
☐	Camera 03_Video Loss	10.18.147.137
☐	Camera 03_Scene Change	10.18.147.137

Total 16 Record(s) 20 Page 1 Go

Next Cancel

3. ドロップダウンリストからリソース種別を選択すると、そのリソースに関連するすべてのアラームがリスト表示されます。

ドロップダウンリストの隣にあるテキストフィールドからエリアを選択してそのエリアのリソースを表示させることができます。キーワードを入力して[検索]をクリックするとリソースを検索することができます。

4. アラーム設定の項目を選択して[次へ]をクリックします。
5. 内容がわかるようなアラームの名前を設定します。

Add

1 Event

2 Alarm Information

* Alarm Name: Camera1_10.18.137.108_Motion Det ✓

Schedule Template: All-day Template

* Level: ☒ High ☐ Medium ☐ Low

Alarm Linkage

Module	Linkage Action	Link to

Buttons: Previous, OK, Cancel

6. 実際の必要に応じてアラーム レベルを選択してください。
7. **[追加]**をクリックして、機能モジュール パネルから追加した機能モジュールを選択してください。
8. アラーム用のリンク アクションを選択します。詳細については表: 論理アラーム向けリンク アクションを参照してください。

Add Linkage Action

Module	Linkage Action	Link to										
Mobile Surveillance	Audible Warning											
ANPR	Trigger Alarm Output	☐ Area <table border="1"> <thead> <tr> <th>Area</th> <th>Name</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒ 1234567</td> <td>Alarm Output1</td> </tr> <tr> <td>☐ 1234567</td> <td>Alarm Output2</td> </tr> <tr> <td>☐ 1234567</td> <td>Alarm Output1</td> </tr> <tr> <td>☐ 1234567</td> <td>Alarm Output2</td> </tr> </tbody> </table>	Area	Name	☒ 1234567	Alarm Output1	☐ 1234567	Alarm Output2	☐ 1234567	Alarm Output1	☐ 1234567	Alarm Output2
Area	Name											
☒ 1234567	Alarm Output1											
☐ 1234567	Alarm Output2											
☐ 1234567	Alarm Output1											
☐ 1234567	Alarm Output2											

Total 4 Record(s)

Buttons: OK, Cancel

9. 前の2つの手順を繰り返してほかの機能モジュール(もしあれば)のリンク アクションを選択することもできます。
10. **[OK]**をクリックして設定を保存します。

表: 論理アラーム向けリンク アクション

リンク アクション	説明
音声警報	アラームがトリガーされた場合に PC 上で再生される音声テキストを設定してください。 注意: コントロール クライアントの論理設定ページから、アラーム音としてボイス エンジンを設定する必要があります。
アラーム出力リンク	(利用可能な場合)アラーム出力を選択すると接続された外部デバイスがアラームのトリガーによって起動されます。
アラーム通知	アラーム情報が選択されたユーザにモバイル クライアント経由で送信されます。 注意: アラーム通知確認の詳細な手順については <i>iVMS-5200 モバイルクライアントのユーザ マニュアル</i> を参照してください。
ビデオウォール表示	アラームがトリガーされると、選択したカメラのビデオをビデオ ウォールに表示します。 注意: iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェア経由でアラーム ウィンドウ設定を行う必要があります。詳細については <i>iVMS-5200 ビデオ ウォール クライアント ソフトウェアのユーザ マニュアル</i> を参照してください。
録画リンク	イベントがトリガーされると、選択したカメラ(複数可)の選択されたストレージ ロケーションへの録画が開始されます。 注意: カメラ(複数可)を選択する前に録画スケジュール ページ上でカメラの録画スケジュールを設定しておく必要があります。詳細な設定については以下を参照してください: カメラの録画スケジュール設定 。

アラーム設定を行うと、論理アラーム ページが表示されます。

アラーム設定の項目をクリックし、**[削除]**をクリックすると、それを削除することができます。イベント設定の編集については、**[アラーム名]**フィールドをクリックしてアラーム設定を任意に編集してください。

 をクリックすると、アラーム項目をフィルターするための検索条件を設定することができます。

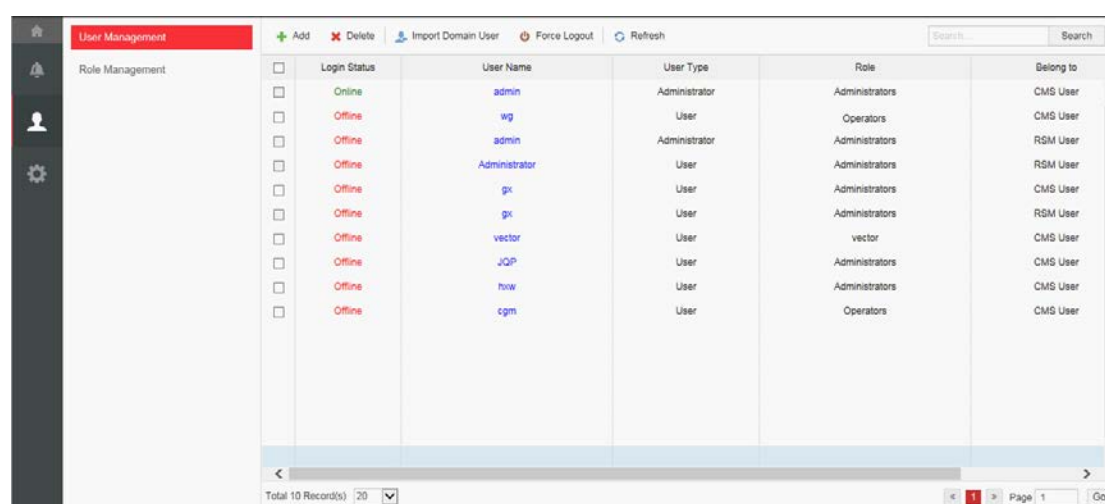
役割およびユーザ管理

役割およびユーザ管理

目的:

セキュリティ ページではユーザの追加および削除、ユーザのシステム アクセスおよび管理に対する権限を割り当てることができます。 システムをユーザに追加する前に、ユーザのシステム リソースに対するアクセスを定義するために役割を作成する必要があります。その役割をユーザに割り当てることで、ユーザに権限を与えることができます。1 ユーザを複数の異なる役割にリンクさせることも可能です。

[セキュリティ]タブをクリックし、ユーザ管理ページを開きます。



	Login Status	User Name	User Type	Role	Belong to
☐	Online	admin	Administrator	Administrators	CMS User
☐	Offline	wg	User	Operators	CMS User
☐	Offline	admin	Administrator	Administrators	RSM User
☐	Offline	Administrator	User	Administrators	RSM User
☐	Offline	gx	User	Administrators	CMS User
☐	Offline	gx	User	Administrators	RSM User
☐	Offline	vector	User	vector	CMS User
☐	Offline	JGP	User	Administrators	CMS User
☐	Offline	hww	User	Administrators	CMS User
☐	Offline	cgm	User	Operators	CMS User

ロール管理

目的:

必要に応じて役割に対して権限を割り当て、ユーザを役割にリンクさせて様々な権限を付与することができます。

方法:

1. ユーザ管理ページを開き、[役割管理]をクリックします。 役割が一つも追加されていない場合、デフォルトで2つの役割、管理者とオペレータがリストに表示されます。
 - **管理者:** iVMS-5200 プロのすべての権限を持つ役割です。

- **オペレータ:** コントロール クライアントとビデオ ウォール クライアントの操作についてのすべての権限を持つ役割です。
2. **[追加]**をクリックして役割追加ダイアログ ボックスを開きます。

3. 役割の名前を任意に入力します。オプションとして役割の有効期限と説明文を設定することができます。
4. (オプション) デフォルトまたは事前定義済みの役割を**[コピー元]**ドロップダウンリストから選択して、その権限設定をコピーすることができます。そうしない場合、手順 5 を実行して役割に権限を割り当ててください。
5. 権限設定エリアで機能モジュールを選択し、それに関連する権限をリスト表示します。真ん中のパネルから権限種別を選択し、右側のパネルでチェックボックスをチェックして対応するリソースまたは機能を選択します。
6. 上述の手順を繰り返してほかのモジュールの権限を役割に割り当てます。
7. **[OK]**をクリックして設定を保存します。

役割の管理

目的:

正常に作成された役割は、役割管理ページの役割リストに追加されます。役割の情報を編集または削除できます。

[名称]フィールドをクリックして役割の設定を編集できます。

[更新]ボタンをクリックして役割の最新状態を取得できます。

役割の情報を削除するには、役割をリストから選択し、**[削除]**をクリックします。

注意: 管理者とオペレータの役割は編集したり削除したりできません。

ユーザ管理

目的:

iVMS-5200 プロにアクセスするユーザを追加できます。システムにドメインユーザ(お勤めの会社の部門など、組織ユニットに属するユーザ)を追加することもできます。

デフォルトで、*admin* という名前の管理者ユーザが作成されます。

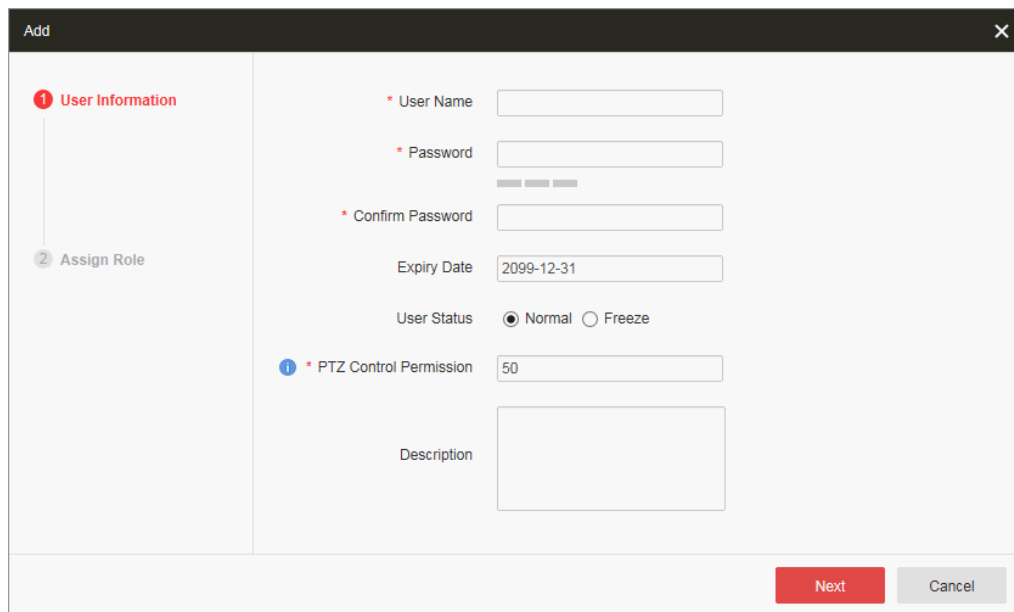
注意: システムには 2 種類のユーザが存在できます。CMS ユーザと RSM ユーザです。RSM ユーザは RSM から同期され、編集や削除はできません。RSM ユーザの管理については、iVMS-5200 プロフェッショナル RSM のユーザ マニュアルを参照してください。

ユーザの追加

オプション 1: ノーマル ユーザの追加

方法:

1. ユーザ管理ページを開き、[ユーザ管理]をクリックします。
2. [追加]をクリックしてユーザ追加ダイアログ ボックスを開きます。



3. ユーザ名、パスワード、確認用パスワードおよび PTZ コントロール権限を任意に入力してください。オプションとして、有効期限、ユーザ状態および説明文を設定することができます。



- ユーザ名には以下の文字を利用することはできません: ' \ : * ? “ < > |.
 - パスワードは少なくとも以下のカテゴリから 2 種類の文字を含み、8~32 文字でなければなりません: 英大文字、英小文字、数字および特殊記号。
 - すべてのパスワードやその他のセキュリティの適切な設定は、設置者および/またはエンドユーザーの責任です。
 - 有効期間: このユーザが無効になる日付です。
 - ユーザ状態: 2 種類の状態が利用できます。「凍結」を選択すると、そのユーザの状態を「通常」に設定するまで、アカウントは無効になります。
 - PTZ コントロール権限: PTZ コントロール向けの権限レベル(1~100)を設定します。値が大きいほどそのユーザが持つ権限は大きくなります。例: ユーザ 1 とユーザ 2 が同時に PTZ ユニットをコントロールした場合、より大きい PTZ コントロール権限を持つユーザが PTZ の動作のコントロール権を得ます。
4. [次へ]をクリックし、存在する役割のチェックボックスをチェックし、[追加>>]をクリックして作成されたユーザに役割(複数可)を割り当てます。

注意: 役割が一つも追加されていない場合、デフォルトの 2 つの役割が選択できます: 管理者およびオペレータ。システム管理者は iVMS-5200 プロのすべての権限を持つ役割です。システム オペレータは iVMS-5200 コントロール クライアントのすべての権限を持つ役割です。カスタマイズした役割を追加したい場合、[追加]をクリックして役割追加ウィンドウを起動します。役割追加に関する設定の詳細については、以下を参照してください: [ロール管理](#)。

5. [OK]をクリックして設定を保存します。

オプション 2: ドメイン ユーザの追加

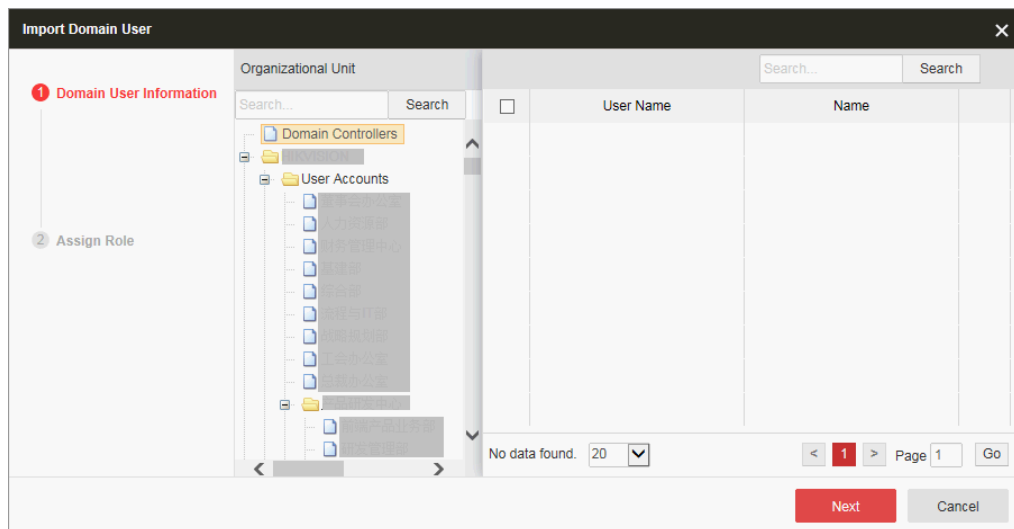
始める前に:

アクティブ ディレクトリの設定を行っておく必要があります。以下を参照してください: アクティブ ディレクトリ設定。

注意: ドメイン ユーザは iVMS-5200 プロに、コントロール クライアントまたはモバイル クライアント経由でのみアクセスできます。

方法:

1. ユーザ管理ページを開き、[ユーザ管理]をクリックします。
2. [ドメイン ユーザをインポート]をクリックしてドメイン ユーザ インポート ダイアログ ボックスを開きます。



3. 左側のパネルで組織をクリックして選択すると、所属するユーザがリスト表示されます。
4. チェックボックスをチェックしてユーザを選択し、[次へ]をクリックします。
5. 存在する役割のチェックボックスをチェックし、[追加>>]をクリックして作成されたユーザに役割(複数可)を割り当てます。

注意: 役割が一つも追加されていない場合、デフォルトの2つの役割が選択できます: システム管理者およびシステムオペレータ。システム管理者は iVMS-5200 プロのすべての権限を持つ役割です。システムオペレータは iVMS-5200 コントロールクライアントのすべての権限を持つ役割です。カスタマイズした役割を追加したい場合、[追加]をクリックして役割追加ウィンドウを起動します。役割追加に関する設定の詳細については、以下を参照してください: [ロール管理](#)。

6. [OK]をクリックして設定を保存します。ドメインユーザが正しく追加されると、ユーザはコントロールクライアントまたはモバイルクライアント経由で、ドメインアカウントとパスワードを利用して iVMS-5200 プロにログインすることができます。

ユーザ管理

目的:

正常に作成されたユーザアカウントは、ユーザ管理ページのユーザリストに追加されます。ユーザの管理においては以下の操作が利用できます。

編集: ユーザの[ユーザ名]フィールドをクリックすると、情報の編集またはユーザのパスワードの変更ができます。

更新: [更新]ボタンをクリックして役割の最新状態を取得できます。

削除: ユーザの情報を削除するには、ユーザをリストから選択し、[削除]をクリックします。

強制ログアウト: オンライン ユーザを選択し、[強制ログアウト]をクリックしてそのオンライン ユーザをログアウトさせることもできます。

注意: *admin* ユーザは削除したり強制ログアウトさせたりすることはできません。

管理者ユーザのパスワード変更

管理者ユーザのパスワードはシステムに管理者としてログインしている場合にのみ変更可能です。

方法:

1. システムの右上角で現在のログイン ユーザをクリックし、[パスワード変更]を選択します。
2. 旧パスワード、新パスワードおよび確認パスワードを入力します。



- パスワードは少なくとも以下のカテゴリから 2 種類の文字を含み、8~32 文字でなければなりません: 英大文字、英小文字、数字および特殊記号。
 - すべてのパスワードやその他のセキュリティの適切な設定は、設置者および/またはエンドユーザーの責任です。
3. [OK]をクリックして設定を保存します。

基本モジュールのシステム設定

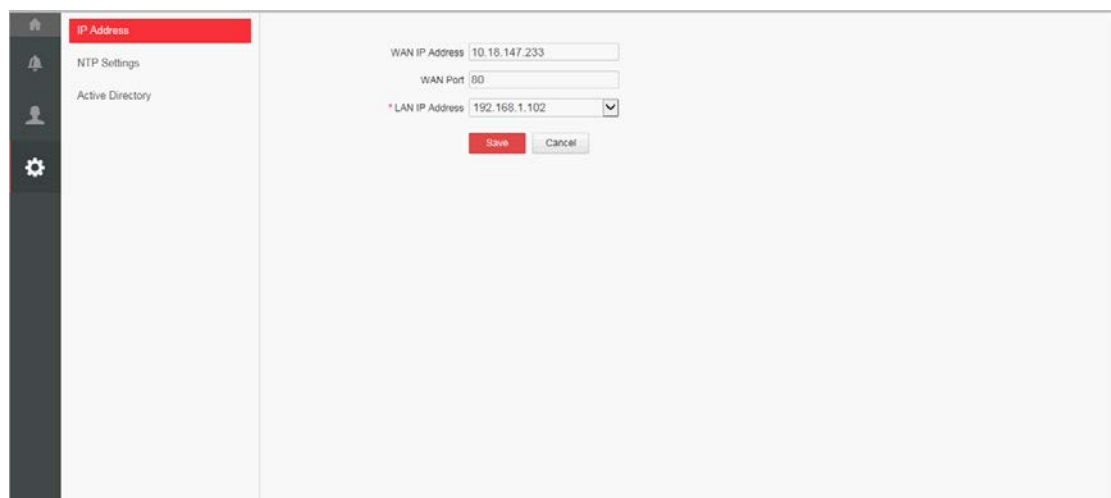
基本モジュールのシステム設定

目的:

基本モジュール向けの IP アドレス、NTP 設定、アクティブ ディレクトリが設定できます。

注意: ベーシック モジュールは機能モジュールを統合する目的で使用され、同じシステムからすべての機能モジュールを管理する基本的な機能(例: ユーザ管理、ライセンス管理、論理アラーム設定)を提供します。 デフォルトではビデオ監視モジュールが iVMS-5200 プロに含まれており、モバイル監視および ANPR モジュールを iVMS-5200 プロに追加して集中管理することができます。

一般管理用の[システム設定]タブをクリックし、システム設定ページを開きます。



The screenshot shows the 'IP Address' configuration page. On the left is a sidebar with icons for Home, Notifications, Active Directory, and Settings (selected). The main area contains the following fields:

- WAN IP Address: 10.18.147.233
- WAN Port: 80
- * LAN IP Address: 192.168.1.102 (with a dropdown arrow)

At the bottom of the form are 'Save' and 'Cancel' buttons.

IP アドレス設定

目的:

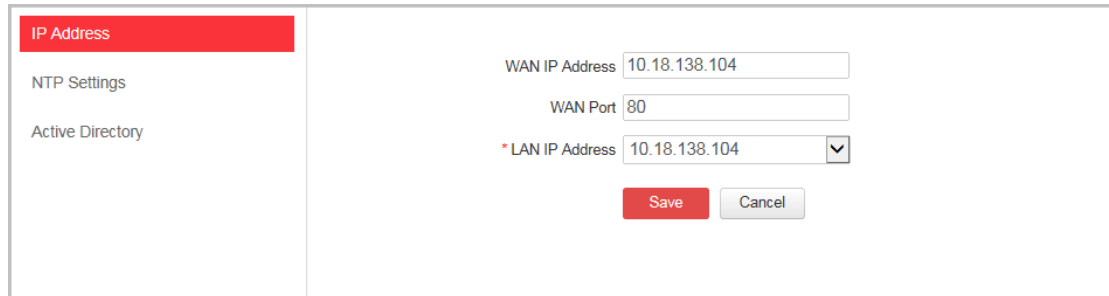
- **WAN IP アドレス:** システムに WAN 経由でアクセスするための固定 IP アドレスおよびポート番号を設定できます。
- **LAN IP アドレス:** サーバ モジュールおよび機能が正しく動作するように、システムに正しい IP アドレスを設定する必要があります。

方法:

1. システム管理ページを開き、[IP アドレス]をクリックします。
2. WAN アクセスのための固定 IP アドレスとポート番号を入力します。

注意: CMS インストール時に WAN IP アドレスを設定した場合、WAN IP アドレスとポート番号は自動的に取得されます。

3. デフォルトではサーバの LAN IP アドレスは自動的に取得されます。複数の NIC が利用されている場合、LAN 経由でのシステム アクセスに使用される正しい IP アドレスを選択する必要があります。さもないと、サーバモジュールおよび機能は正しく動作しません。
4. **保存**をクリックして設定を保存します。



IP Address	WAN IP Address 10.18.138.104
NTP Settings	WAN Port 80
Active Directory	* LAN IP Address 10.18.138.104
	Save Cancel

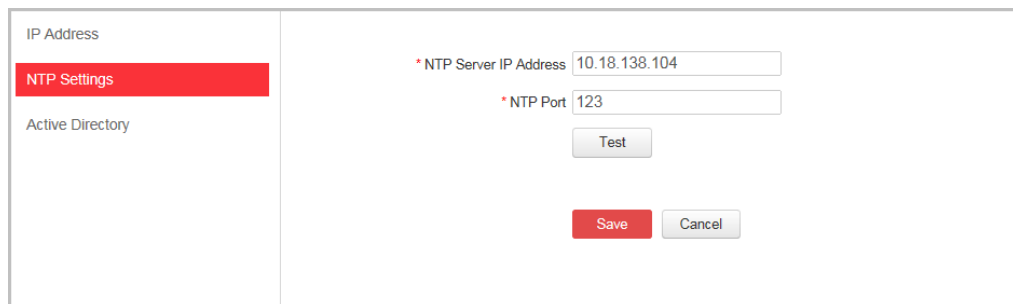
NTP 設定

目的:

NTP 設定を行うことで、CMS と NTP サーバの間での時刻同期を設定することができます。

方法:

1. システム管理ページを開き、[NTP 設定]をクリックします。



IP Address	* NTP Server IP Address 10.18.138.104
NTP Settings	* NTP Port 123
Active Directory	Test
	Save Cancel

2. NTP サーバのアドレスと NTP ポートを設定してください。[テスト]をクリックすると CMS と NTP サーバ間の通信をテストすることができます。
3. **保存**をクリックして設定を保存します。

アクティブ ディレクトリ設定

目的:

ユーザ データ、コンピュータの情報などの情報を保持する AD (アクティブ ディレクトリ)ドメイン コントローラを利用されている場合、設定を行うことで関連情報を取得することができます。この方式では、ある組織部門(例えば お勤めの会社の部門)に属するユーザを iVMS-5200 プロに容易に追加することができます。

方法:

1. システム管理ページを開き、[アクティブ ディレクトリ]をクリックします。

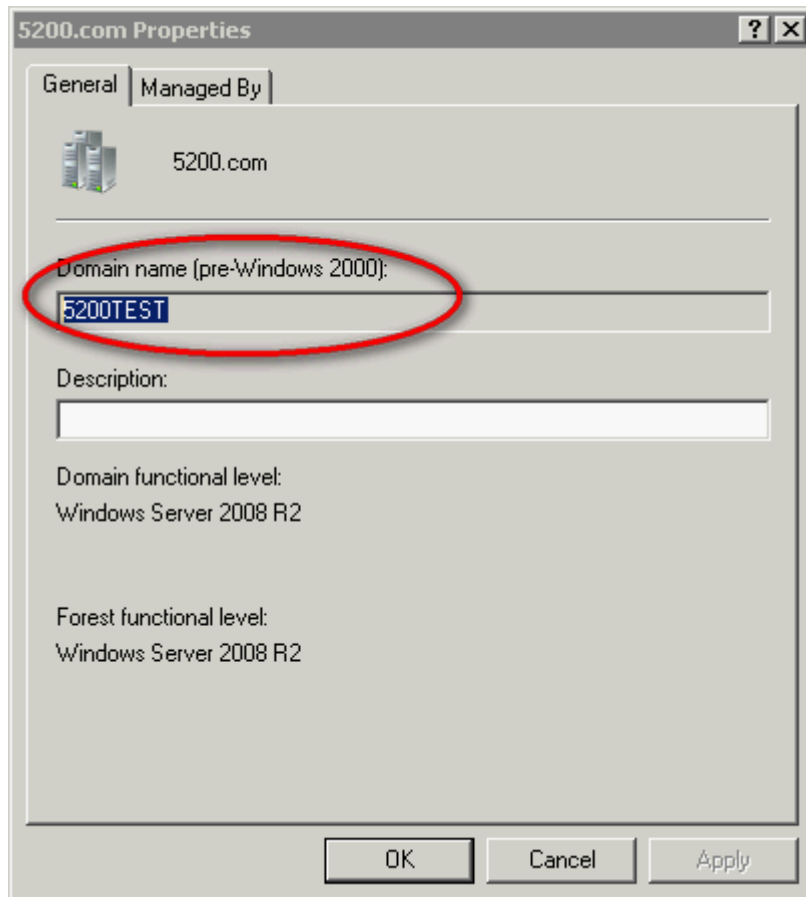
The screenshot shows the 'Active Directory' configuration page. On the left, there is a sidebar with 'IP Address', 'NTP Settings', and 'Active Directory' (highlighted in red). The main area contains the following fields and controls:

- * Domain Name: h[]
- * Host IP: 1[]7
- * Port No.: 389
- Enable SSL: ☐
- * User Name: sh[]g
- * Password: []
- * Base DN: DC=h[],DC=com
- Fetch DN button
- Save button (red)
- Cancel button (grey)

2. AD ドメイン コントローラに接続し、必要な情報を取得するために以下のパラメータを設定してください。

ドメイン名: AD ドメイン コントローラのドメイン名を入力します。

注意: AD ドメイン コントローラのプロパティ ウィンドウ(下図)を開いて、ドメイン名を確認することができます。



ホスト IP: AD ドメイン コントローラの IP アドレスを入力します。

ポート番号: AD ドメイン コントローラのポート番号を入力します。

SSL を有効化 (オプション) : AD ドメイン コントローラが必要とする場合、SSL を有効化するチェックボックスを選択します。

ユーザー名: AD ドメイン コントローラのユーザ名を入力します。

パスワード: AD ドメイン コントローラのパスワードを入力します。

ベース DN (識別名): フォーマットをご存知であればテキストフィールドにフィルタ条件を入力してください。または[DN フェッチ]をクリックして、フィルタ条件を自動的に取得することができます。

注意: ベース DN をマニュアルで入力する場合、ルート ノードは任意に定義することができます。[DN フェッチ]をクリックすると、AD ドメイン コントローラに帆保持されたディレクトリ構造すべてが取得されます。

3. **保存**をクリックして設定を保存します。設定完了後、ユーザ管理ページ上の[ドメイン ユーザのインポート]をクリックすると階層構造とユーザ情報が表示できます(以下参照: [ユーザ管理](#))。

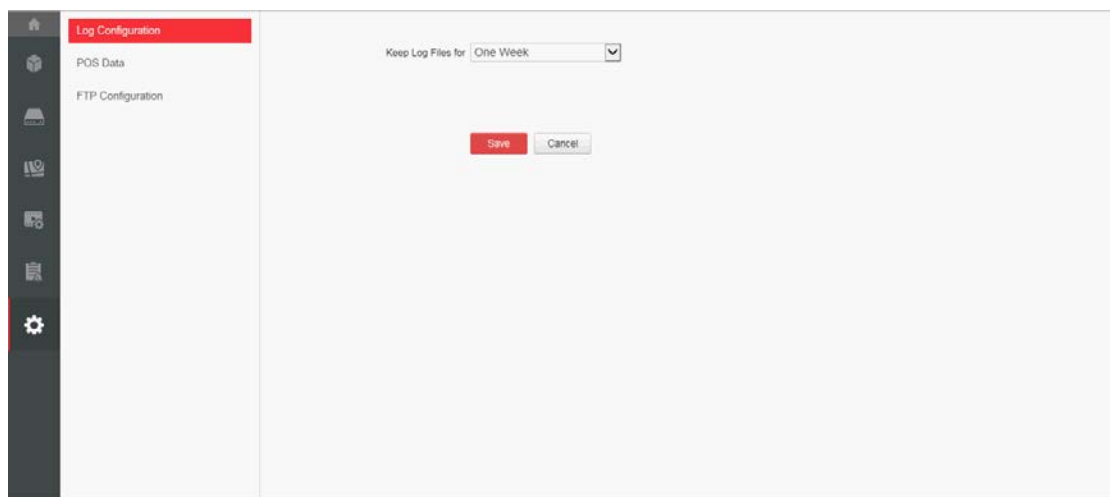
ビデオ管理用のシステム設定

ビデオ管理用のシステム設定

目的:

ログ ファイルおよび POS データの有効期限およびビデオ監視用の FTP 設定を設定することができます。

ビデオ管理用の[システム設定]タブをクリックし、システム設定ページを開きます。



ログ設定

目的:

ログの有効期日を設定できます。

方法:

1. システム管理ページを開き、[ログ設定]をクリックします。

Log Configuration

POS Data

FTP Configuration

Keep Log Files for One Week ▼

Save Cancel

2. 実際の必要に応じてパラメータを設定してください。

ログファイルの保存期間: ログを保存する期間で、これを過ぎるとログは削除されます。

3. **保存**をクリックして設定を保存します。

POS データ 設定

目的:

POS をデータ(取引データなど)をシステムに保存し、データの有効期限を設定することができます。

方法:

1. システム管理ページを開き、[POS データ]をクリックします。

Log Configuration

POS Data

FTP Configuration

Keep POS Data for One Week ▼

Save Cancel

2. POS データを保存する期間を選択します。それを超過すると、データは削除されます。
3. **保存**をクリックして設定を保存します。

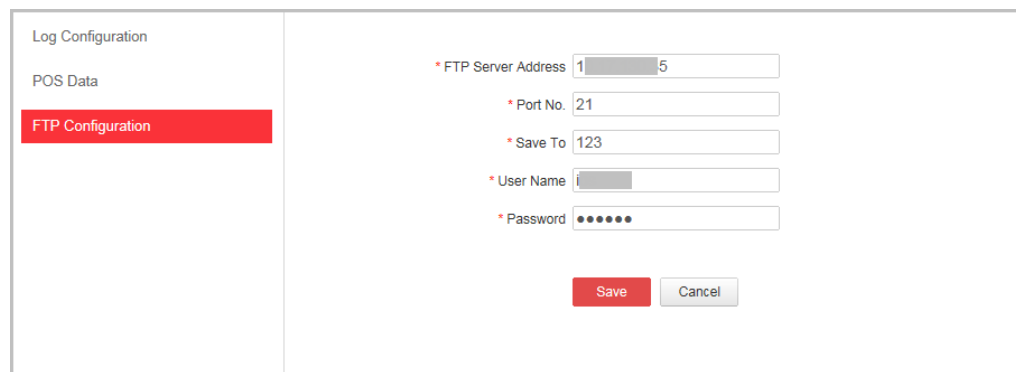
FTP 設定

目的:

モバイルクライアントで録画したビデオの FTP サーバへのアップロードを有効にするために FTP サーバに関連するパラメータを設定することができます。アップロードされたビデオは閲覧用にダウンロードすることができます。

方法:

1. システム管理ページを開き、[FTP 設定]をクリックします。



The screenshot shows a web-based configuration interface. On the left is a sidebar menu with three items: 'Log Configuration', 'POS Data', and 'FTP Configuration'. 'FTP Configuration' is highlighted with a red background. The main content area on the right contains the following fields and controls:

- * FTP Server Address: A text input field containing '1' followed by a masked area and '5'.
- * Port No.: A text input field containing '21'.
- * Save To: A text input field containing '123'.
- * User Name: A text input field containing 'i' followed by a masked area.
- * Password: A password input field with masked dots.
- At the bottom right are two buttons: a red 'Save' button and a grey 'Cancel' button.

2. 以下の FTP サーバ パラメータを設定します。

FTP サーバアドレス: FTP サーバのアドレスを入力します。

ポート番号: AD ドメイン コントローラのポート番号を入力します。

保存先: アップロードするビデオを保存するディレクトリを設定します。

ユーザー名: FTP サーバのユーザ名を入力します。

パスワード: パスワードを入力してください。

3. **保存**をクリックして設定を保存します。

カメラビューアー

カメラビューアー

目的:

iVMS-5200 プロはライブ ビュー、再生、ローカル設定などの機能も Web クライアント経由で提供します。



ホームページ上の  をクリックしてカメラ ビューアーを開きます。

ライブビュー

目的:

ライブ ビュー ページでは、追加したカメラのライブ ビューを表示し、画像のキャプチャー、録画、PTZ コントロールなどの基本的な操作を行うことができます。

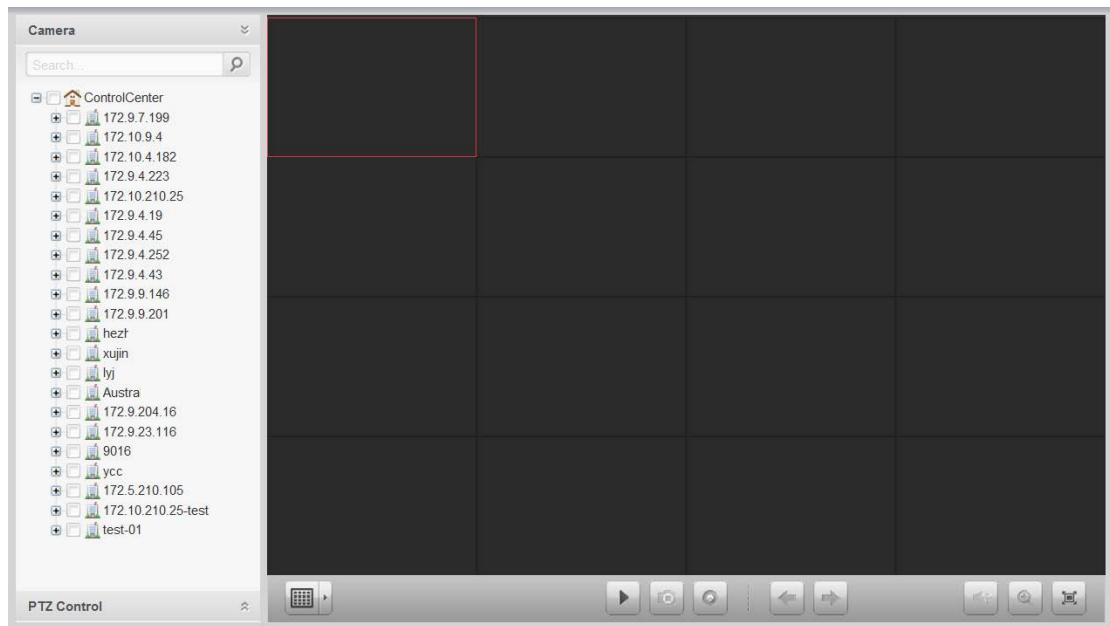
始める前に:

ライブ ビューにはカメラが割り当てられたエリアの定義が必要です。

[ライブ ビュー] タブをクリックし、ライブ ビュー ページを開きます。

初めてライブ ビューを行う場合、機能にアクセスする前にプラグインをインストールする必要があります。

- I. **ここをクリックしてプラグインをダウンロードし、インストールしてください。プラグインをインストールする際にはブラウザを閉じてください。** をクリックしてプラグイン ファイルを保存し、Web ブラウザを終了します。
- II. プロンプトにしたがってプラグインをインストールします。
- III. インストール後、Web ブラウザを再度開き、カメラ ビューアーを開きます。



ライブビューの開始

方法:

1. ライブ ビュー ページを開きます。
2. オプションとして、マウスをライブ ビュー ツールバーの  アイコンに動かし、ウィンドウ 分割 モードを選択できます。
3. カメラを表示ウィンドウにクリック アンド ドラッグします。

あるいは、ライブ ビューを開始する表示ウィンドウを選択した後でカメラ名をダブルクリックしてください。



ライブ ビュー ツールバー:



ライブ ビュー ページでは、以下のツールバー ボタンが利用できます:

	レイアウトを設定	ウィンドウ分割モードを設定します。7種類の画面レイアウト モードが選択可能です: 1 ウィンドウ、4 ウィンドウ、6 ウィンドウ、8 ウィンドウ、9 ウィンドウ、13 ウィンドウおよび 16 ウィンドウ。
	ライブ ビューの停止/開始	すべてのカメラのライブ ビューを停止/開始します。
	キャプチャ	ライブ ビュー プロセスの中の画像をキャプチャーします。
	録画の開始/停止	手動録画を開始/停止します。録画ファイルは PC に保存されます。
	前	前のページのライブ ビューに移動します。
	次	次のページのライブ ビューに移動します。
	音声オン/ミュート	ライブ ビューの音声のオン/オフを切り替えます。



デジタルズーム デジタルズーム機能を有効化/無効化します。



全画面

ライブビューを全画面モードで表示します。ESCを押すと終了します。

ライブビュー中に表示ウィンドウにマウスを動かすと以下のアイコンが表示されます。



キャプチャ

ライブビュープロセスの中の画像をキャプチャーします。



インスタント再生

インスタント再生ウィンドウが開きます。時間を入力して[検索]をクリックすると、見つかった録画ファイルを再生することができます。



録画の開始/停止

手動録画を開始/停止します。録画ファイルはPCに保存されます。



双方向音声停止

カメラの双方向音声を開始します。

カメラのライブビューを停止します。

PTZ コントロール

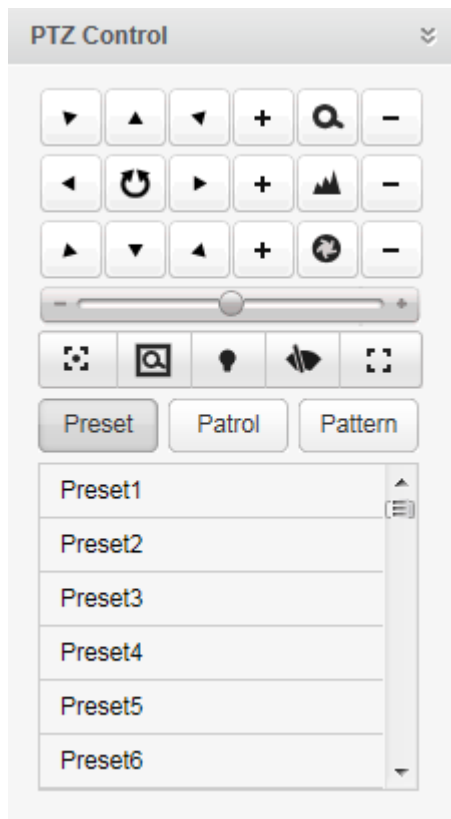
目的:

パン/チルト/ズーム機能を備えたカメラを、ウェブブラウザから操作することができます。カメラのプリセット、パトロールおよびパターンを設定することもできます。



アイコンをクリックし、ライブビュー上に PTZ コントロール パネルを展開します。

アイコン	説明	アイコン	説明	アイコン	説明
	方向ボタンとオートスキャンボタン		ズーム+、フォーカス+、絞り+		ズーム-、フォーカス-、絞り-
	PTZ 動作のスピード		補助フォーカス		3D ポジショニング
	ライト オン/オフ		ワイパー		レンズ初期化
	プリセット設定		パターン設定		パトロール設定



プリセットの設定

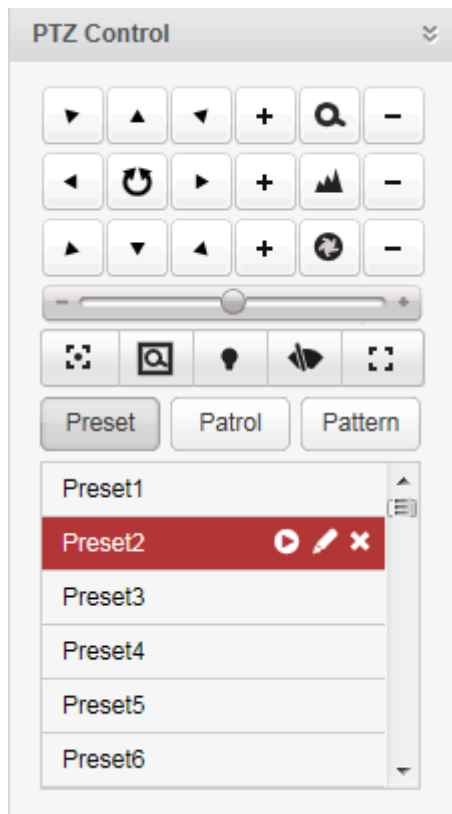
プリセットを追加するには以下の手順を実行します:

1. [プリセット]ボタンをクリックして PTZ プリセット設定パネルに入ります。
2. 方向ボタンをクリックして必要な視野が得られるようカメラを移動します。
3. プリセット リストからクリックして PTZ プリセット番号を選択し、アイコンをクリックします。
4. ポップアップ ダイアログボックスでプリセットの名前を編集し、[OK]をクリックして設定を保存します。

注意: 最大 256 のプリセットを設定できます。

設定したプリセットを呼び出すには、リストからプリセットを選択し、アイコンをクリックします。

設定したプリセットを削除するには、リストからプリセットを選択し、アイコンをクリックします。



パターンの設定

1. [パターン]ボタンをクリックして PTZ パターン設定パネルに入ります。
2.  をクリックしてパターン経路の記録を開始します。
3. 方向ボタンを使って PTZ の動作を操作してください。
4.  をクリックしてパターン記録を停止し、保存します。
5.  アイコンをクリックしてパターンの呼び出しができます。パターンの呼び出しを停止するには  をクリックしてください。

注意: 設定できるパターンは 1 つだけで、新しく定義したパターンは以前のパターンを上書きします。



パトロールの設定

始める前に:

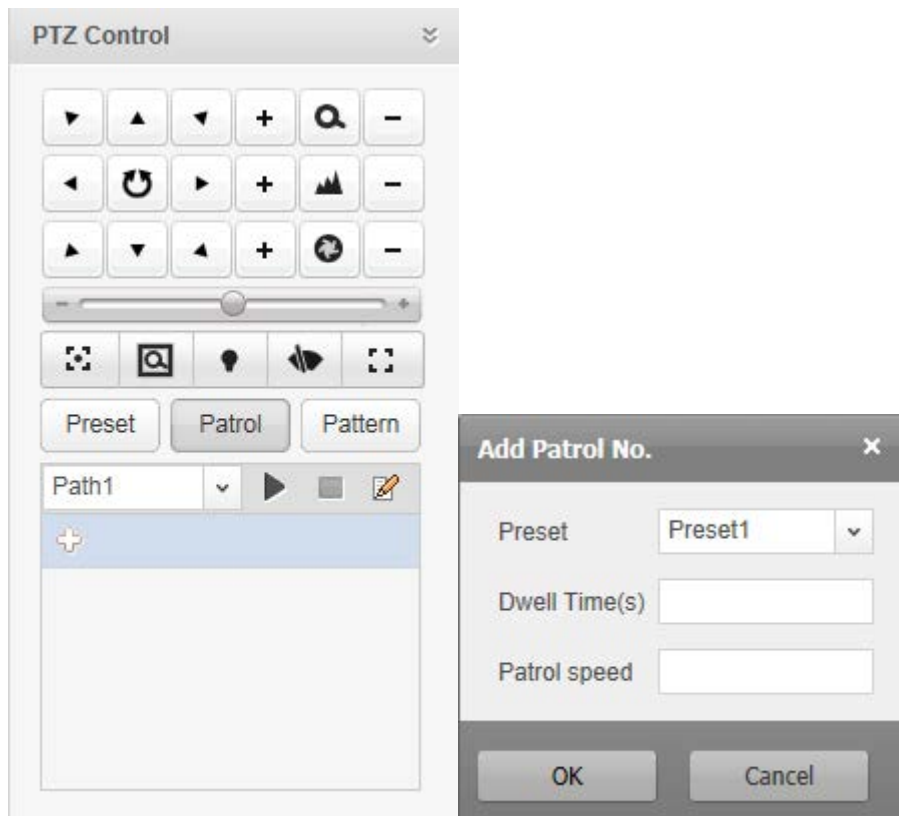
1 つのカメラに対して 2 つ以上のプリセットを追加しておく必要があります。

パトロールを追加するには以下の手順を実行します:

1. [パトロール]ボタンをクリックして PTZ パトロール設定パネルに入ります。
2. ドロップダウン リストから、トラック番号を選択します。
3.  をクリックしてプリセットを追加して、プリセットの滞留時間と、そのプリセットへのパトロール速度を設定します。
4. 上記の操作を繰り返して、パトロールする他のプリセットを追加します。
5. オプションとして、 または  をクリックし、パトロール経路のプリセットを編集または削除できます。
6.  アイコンをクリックしてパトロールの呼び出しができます。パトロールの呼び出しを停止するには  をクリックしてください。

注意:

- 最大 16 のパトロールを設定できます。
- プリセットの滞留時間は 1 から 30 秒までで設定でき、パトロールの速度はレベル 1 から 40 までで設定できます。



再生

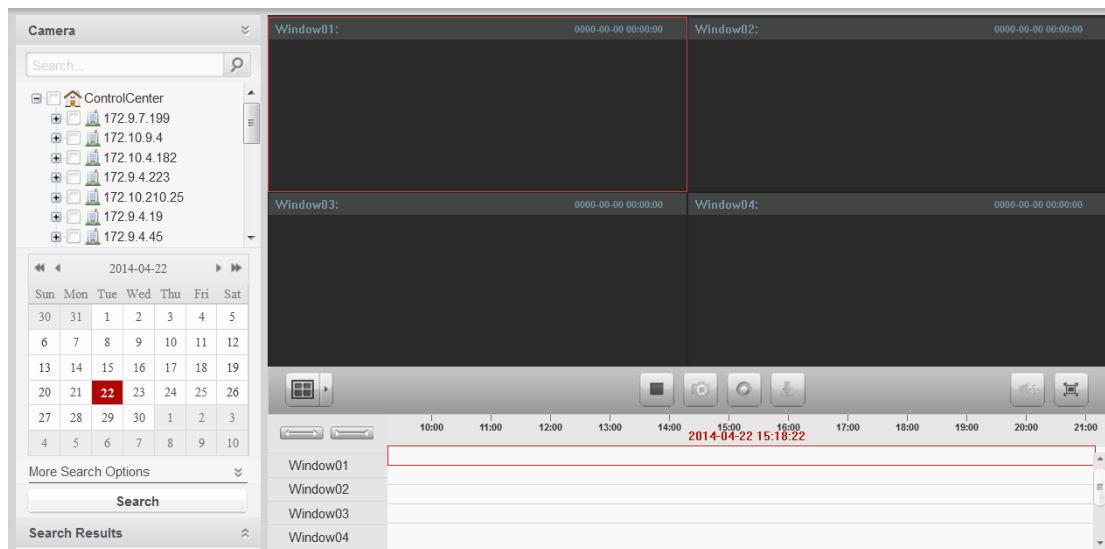
目的:

HDD、Net HDD、ローカル デバイス上の SD/SDHC カードなどのストレージ デバイスまたはストレージ サーバに保存された録画ファイルは、Web ブラウザを通じてリモートから検索して再生することができます。

[再生]タブをクリックして再生ページを開きます。

プラグインがインストールされていない場合、機能にアクセスする前にプラグインをインストールする必要があります。

- I. ここをクリックしてプラグインをダウンロードし、インストールしてください。プラグインをインストールする際にはブラウザを閉じてください。をクリックしてプラグイン ファイルを保存し、Web ブラウザを終了します。
- II. プロンプトにしたがってプラグインをインストールします。
- III. インストール後、Web ブラウザを再度開き、カメラ ビューアーを開きます。



再生ツールバー:



再生ページでは、以下のツールバー ボタンが利用できます:

	ウィンドウ分割の設定	ウィンドウ分割モードを設定します。4種類の画面レイアウトモードが選択可能です: 1ウィンドウ、4ウィンドウ、9ウィンドウおよび16ウィンドウ。
	再生を停止	すべてのカメラの再生を停止します。
	キャプチャ	再生プロセスの画像をキャプチャーします。
	切り取りの開始/停止	録画ファイルのクリッピングを開始/停止します。
	ダウンロード	ダウンロードウィンドウを開きます。録画ファイルを選択し、[ダウンロード]をクリックしてファイルをローカルPCに保存することができます(複数可)。
	音声オン/ミュート	再生の音声のオン/オフを切り替えます。
	全画面	再生を全画面モードで表示します。ESC を押すと終了します。

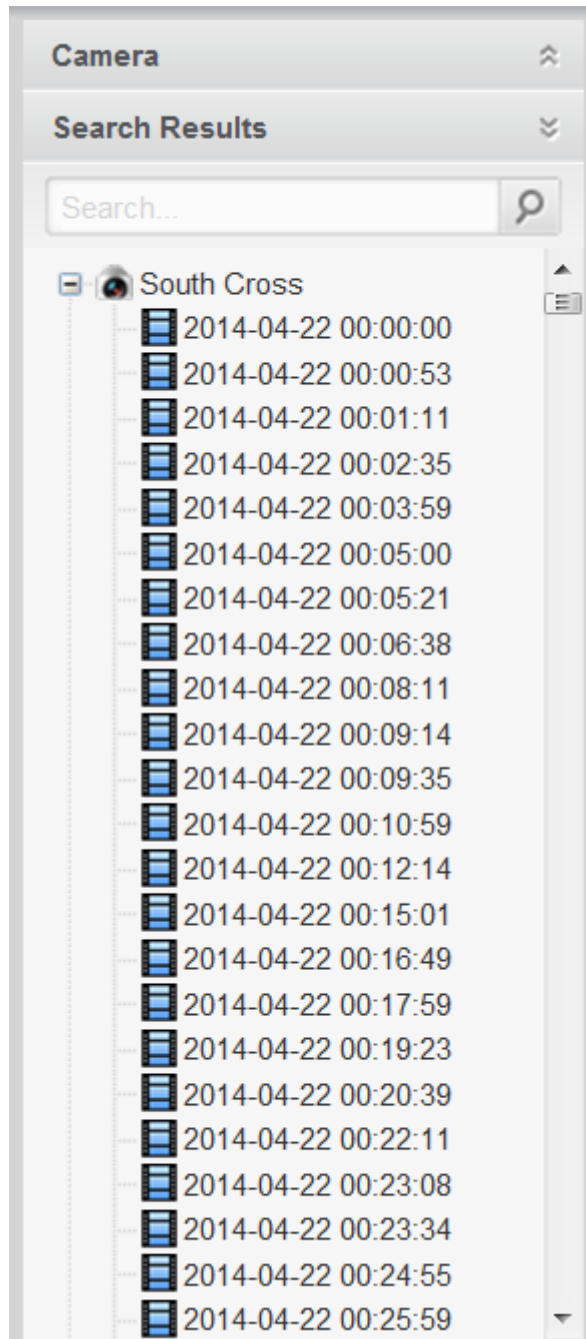
録画ファイルの検索

方法:

1. 再生ページを開きます。

2. リストから検索するカメラ(複数可)を選択します。
3. 検索対象の日をクリックして選択します。
4. オプションとして、 をクリックすると詳細検索オプションパネルが開きます。 アイコンをクリックして録画ファイル検索範囲の開始時刻と終了時刻を指定し、検索種別を選択します。
5. **[検索]** をクリックします。選択したカメラの録画ファイルは検索結果リストに表示されます。**[検索]**テキストフィールドを通じて結果をフィルタすることができます。

注意: 最大 16 までのカメラが同時に検索できます。



録画ファイルの再生

録画ファイルを検索した後、以下の2つの方法で録画ファイルを再生することができます:

- ファイルリストによる再生

検索結果リストから録画ファイルを選択し、アイコンをクリックして再生表示ウィンドウにビデオを再生します。

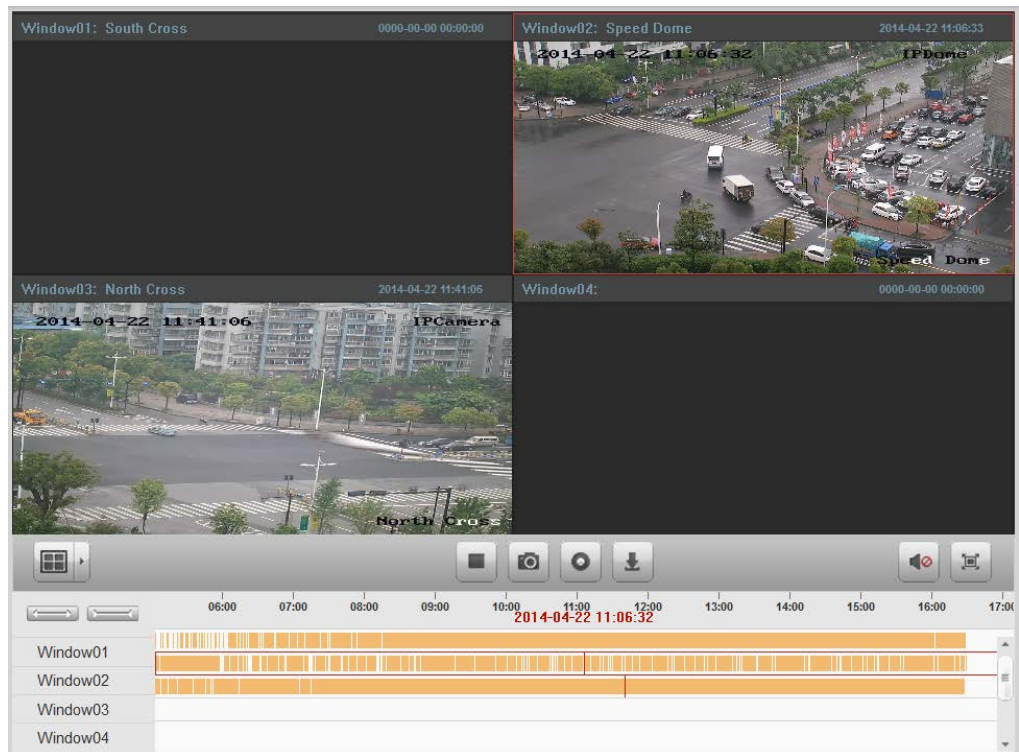


- タイムラインによる再生

タイムラインは録画ファイルの時間の長さを示しています。タイムラインをクリックすることでビデオファイルの特定の時間を再生することができます。

またはをクリックして、タイムラインバーを拡大または縮小することができます。

マウス ホイールを利用してタイムラインに対するズーム インまたはズーム アウトを行うことができます。



マウス ポインタ を再生中の表示ウィンドウに移動するとツールバーが表示されます。

各再生表示ウィンドウのツールバー:



再生表示ウィンドウでは、以下のツールバー ボタンが利用できます:

	逆再生	録画ファイルを逆方向に再生します。  をクリックすると再生が停止し、  をクリックすると逆再生が開始します。
	再生の一時停止/再開	録画ファイル再生を一時停止/再開します。
	再生を停止	カメラの再生を停止します。
	スロー再生	録画ファイルをより遅い速度で再生します。
	早送り	録画ファイルをより速い速度で再生します。
	シングルフレーム	録画ファイルを 1 フレームずつ再生します。

ローカル設定

目的:

ネットワーク性能、再生性能、キャプチャ モードおよびファイルの保存先パスなどの一般的なパラメータは、ウェブ ブラウザを通じて設定できます。

[ローカル設定]タブをクリックすると、ローカル設定ページが開きます。

Network Transmission

Network Performance

Normal

Better

Best

Play Performance

Self-adaptive

Picture Format

JPEG

Auto-change Stream Type

Enable

Enable High-Speed Playback

32

x (32x to 65535x)

GPU Decoding

Saving Path

Saving Path of Video File

C:\Users\xujingjing\Web Client\Video

Saving Path of Pictures

C:\Users\xujingjing\Web Client\Capture

Default Value

Save

方法:

1. ローカル設定ページを開きます。

2. 対応するパラメータを必要に応じて変更します。  アイコンをクリックして、ファイルのためのローカル保存先パスを選択します。

3. オプションとして、[デフォルト値]をクリックして、すべてのシステムパラメータのデフォルトを復元できます。

4. 保存をクリックして設定を保存します。

表 10.1 システム パラメータ

パラメータ	説明
ネットワークパフォーマンス	現在のネットワークのコンディションに応じて「標準」、「良好」、「最高」のいずれかに設定してください。
再生パフォー	ライブ ビデオ再生の性能です。 PC のハードウェア性能に応

マンス	じて「最小遅延」または「自動調整」のいずれかに設定できます。
画像形式	ライブ ビューまたは再生時のキャプチャー画像のフォーマットを設定します。
自動変更ストリームタイプ	ライブ ビューでのストリーム タイプをウィンドウ分割および表示ウィンドウのサイズに応じて自動変更します。
高速再生の有効化	再生速度のカスタマイズ。再生時、ビデオ ファイルをカスタマイズした速度で再生できます。
GPU デコード	ライブ ビューおよび再生時に GPU デコーディングを有効化し CPU リソースを節約します。 注意: • お使いの PC が GPU デコードをサポートしている必要があります。 • GPU デコーディングを有効化すると、以降、新たに開始されるライブ ビューおよび再生は GPU デコーディングを利用します。 • GPU デコーディング有効化後、ライブ ビューまたは再生時にスクリーンがぼやける場合、GPU デコーディングを無効にしてください。
ビデオ ファイルの保存先パス	ライブ ビュー中のマニュアル録画によるビデオ ファイルおよび再生中にクリッピングされたビデオの保存先パスです。
画像の保存パス	ライブ ビューまたは再生におけるキャプチャー画像の保存先パスです。

付録

重要なポート

iVMS-5200 プロは他のサーバ、デバイスなどとの通信に特定のポートを利用します。

ご利用されるネットワーク上のデータ トラフィックが以下のポートを占有していないことを確認してください。また、他のネットワーク経由でシステムにアクセスする必要がある場合、これらのポートをファイヤーウォール上で開いておく必要があります。

CMS ポート	
80	Web ブラウザのアクセスに利用されます。
443	HTTP アクセスに利用されます。
123 (UDP)	時刻同期に用いる NTP ポートです。
イベント サーバ ポート	
15200	コマンド ポートです。
15300 (TCP/UDP)	外部システムからのメッセージのモニタリングに利用します。
15301	サードパーティ メーカーは、このポートを通して iVMS-5200 プロからのアラームを受信できます。
161	検査用に利用されます。
VRM ポート	
6300	VRM 管理に利用されます。
VAG ポート	
9660 (UDP)	E ホームデバイスのアクティブ レジストレーションに利用されます。
7302 (TCP/UDP)	E ホーム デバイスとの双方向音声通話の設定およびコントロールとモバイル クライアント経由の PTZ コントロールに利用されます。
PostgreSQL ポート	
5432	データベース アクセスに利用されます。
SMS ポート	
554	ストリーム取得に利用されます。
10000-13999	再生するストリーム(RTSP での RTP)の取得に利用されます。
50000-51999	モバイル ビデオ レコーダーのライブ ビデオ閲覧に利用されます。
32000-33000	モバイル ビデオ レコーダーの録画ファイル閲覧に利用されま

	す。
ストレージサーバポート	
6404	ストリーム取得に利用されます。
8088	画像のアップロードおよびダウンロードに利用されます。
22000-23999	ストリーム(RTSP での RTP)の取得に利用されます。
SMD ポート	
8000	コマンドポートです。
サービス マネージャ ポート	
7208	開発ログのダウンロードに利用されます。

FAQ

質問: CMS の起動に失敗するのはなぜですか？

回答:

- a. お使いの PC またはサーバのメモリが、CMS の適切な実行に不十分かもしれません。以下の手順を実行してください:

方法:

1. PC またはサーバの実行環境が推奨環境要件を満たしていることを確認して(参照: [サーバ モジュールのインストール](#))、CMS を実行前に他のサービスを終了してください。
2. その上でサービス マネージャを管理者権限で実行し、CMS のステータスをチェックします。ステータスが CMS が適切に動作していることを意味する **実行中** に変わります。
3. お使いの Web ブラウザのアドレスバーに *http://CMS の IP アドレス* を入力すると Web クライアント経由で iVMS-5200 プロにログインできます。

例: アドレス バーに *http://172.6.21.55* と入力して、iVMS-5200 プロにアクセスしてください。

- b. CMS サーバをインストールしている PC またはサーバのポート 80 番が他のサービスに占有されているかもしれません。ポート 80 番が利用可能かどうか確認してください(コンソールで *netstat -ano|findstr "80"* と入力することで確認できます)。占有されている場合:

- そのサービスのポート番号を別の値に変更してください。CMS 実行時にはポート 80 番を利用する必要があります。ポート番号の変更方法が分からない場合、IT システム管理者に問い合わせてください。
- または以下の手順を実行して、CMS のポート番号を他の利用可能なものに変更してください。

方法:

1. iVMS-5200 プロのすべてのモジュールをシャットダウンして iVMS-5200 サービス マネージャを終了してください。
2. CMS のインストール ディレクトリに行き、server.xml ログファイルを開きます。(デフォルトのインストール ディレクトリ: `C:\Program Files\iVMS-5200 Professional\iVMS-5200 CMS\webserver\Tomcat\conf`).
3. ファイルの内容をチェックして `Connector port="80" protocol="HTTP/1.1"` という記述を探し、「80」を他のサービスに占有されていない別の値(例: 85)に変更してください。
4. サービス マネージャを管理者権限で実行し、CMS のステータスをチェックします。ステータスが CMS が適切に動作していることを意味する **実行中** に変わります。
5. お使いの Web ブラウザのアドレスバーに `http://CMS の IP アドレス: 新しいポート` を入力すると Web クライアント経由で iVMS-5200 プロにログインできます。

例: アドレス バーに `http://172.6.21.55:85` と入力して、iVMS-5200 プロにアクセスしてください。

ストレージ サーバにストレージ スペースを割り当てるには

目的:

ストレージ サーバをインストールした後で、ビデオ ファイルや画像を保存する前に[設定]をクリックしてストレージ スペースを割り当ててください。

始める前に:

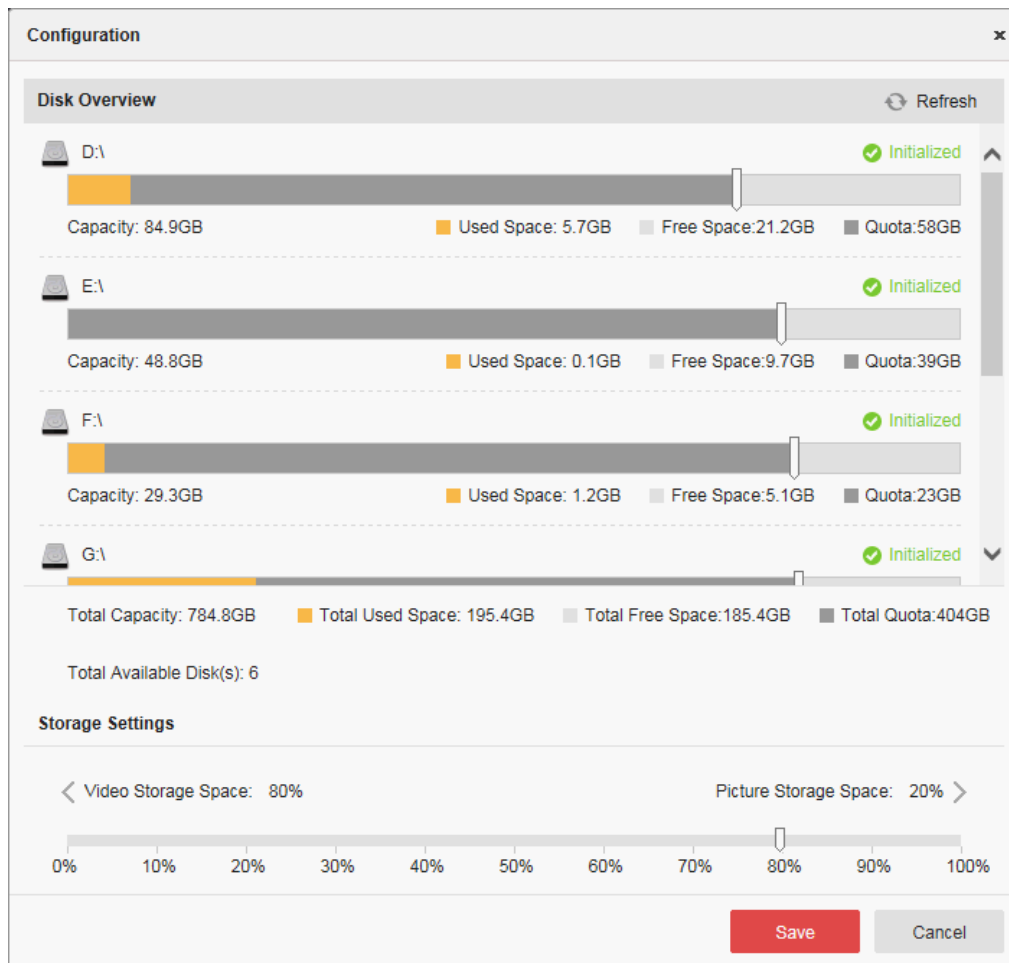
ストレージ サーバを iVMS-5200 プロに割り当てる必要があります。ストレージ サーバを追加するには、[セントラル ストレージ サーバの追加](#) を参照してください。

注意: ストレージ サーバを正しく動作させるには、64 ビットの PC またはサーバにインストールする必要があります。

方法:

1. [物理ビュー]タブをクリックし、[セントラル ストレージ サーバ]を選択します。
2. ストレージ サーバを選択し、[設定]をクリックすると、設定ウィンドウが起動します。

注意: ストレージ サーバにパーティションが1つしかない場合、サーバはビデオ ファイルや画像の保存用に適切に動作することができません。



3. ディスクにストレージスペースを設定してください。

スライダーをドラッグしてビデオ ファイルおよび画像の保存用のスペースを割り当ててください。対応する値が[クォータ]フィールドに表示されます。ストレージ サーバの利用可能総量(トータル クォータ)を確認することもできます。

4. 実際の要件に応じてスライダーをドラッグし、ビデオ ファイルと画像のストレージ上のパーセンテージを設定します。
5. **[保存]**をクリックすると設定が保存され終了します。

索引

C

CMS のアクティベート 31

F

FAQ 152

FTP 設定 134

H

HiDDNS によるデバイスの追加 60

I

IP アドレスまたはドメイン名によるデバイスの追加 56

IP アドレス設定 129

IP セグメントによるデバイスの追加 58

iVMS-5200 プロフェッショナルの概要 9

N

NTP 設定 130

P

POS データ 134

POS 端末アラーム リンクの設定 97

W

Web クライアントを開いてログインする 39

あ

アクティブ ディレクトリ設定 131

アラーム入力リンクの設定 100

い

イベント設定 87

インストールおよびアンインストール 15

え

エリア管理 74

エンコーディング デバイスの追加 49

お

オフラインアクティベーション 35

オンライン デバイスの追加 52

オンラインアクティベーション 32

か

カメラ 異常 アラームの設定 88

カメラの録画スケジュール設定 81

カメラビューアー 137

こ

この文書について 9

コントロール クライアントのインストールとアンインストール 27

さ

サーバモジュールのアンインストール 25

サーバモジュールのインストール 15

サーバ異常リンクの設定 106

す

スタートウィザード 43

ストレージサーバにストレージスペースを割り当てるには 153

て

デバイス異常リンクの設定 104

は

はじめに 13

ひ

ビデオ管理用のシステム設定 133

ほ

ポートセグメントによるデバイスの追加 59

め

メンテナンス 44

ゆ

ユーザ管理 124

ら

ライブビュー 137

ライン横断検知の設定 91

り

リソース管理 49

ろ

ローカル設定 149

ロール管理 123

ログ設定 133

漢字

管理者権限 11

基本モジュールのシステム設定 129

警戒スケジュールテンプレートの設定 116

再生 144

重要なポート 151

侵入検知の設定 94

役割およびユーザ管理 123

録画スケジュールテンプレートの設定 85

録画スケジュール設定 81